青鞜

9

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜　九月號內容

小曲二章（詩）……一……茅野雅

涙（歌）……三……原あさを

をぐらき夏（歌）……九……白川智惠

ふるさと（歌）……一四……岡本かの

いづちゆくべき（歌）……一八……三ヶ島よし

イワノフ（戯曲）……二一……チエホフ　瀬沼夏葉譯

響の影（小説）……三八……マッコア　野枝譯

或る日（小説）……五〇……加藤籌

八時間（小説）……六〇……安田皐月

てがみ（小説）……八三……小林歌津

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

占ひ……(小説)……九七……岩野清
手紙の中から……一一七……らいてう
山の月……(歌)……一三〇……矢澤孝
八月の作の末より(歌)……一三六……柴田かよ
玉のくもり……(歌)……一四三……青木穠
おまん源吾兵衛……(戯曲)……一四九……岡田八千代
この頃の感想……一五九……西崎花世
美濃より……一七六……柴田かよ
編輯室より……一八三……同人

附録

婦人解放の悲劇……一……エンマ、ゴルドンマン
戀愛の進化……一六……エレン、ケイ　らいてう譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

小曲二章　——茅野　雅——

寂しき日

何故ともなくこころの寂しさに、
街に出でて友染を買ひて見つれど、
さて用もなき布をいかにせむ。
過ぎし日の歸り來よとて、
琴三絃をかいつまぐれば、
強ばれる指さきのかなしく、
今さらに歌のあはれにもつまさるる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あまりにもわびしき秋の日、
別れ居る人の死ぬるにはあらじか。

だりや

心の奥の憂(うれひ)よりも、
身の衰へはかなしきを、
さはな眺めそ緋のだりや、
天鵞絨(びろうど)いろの緋のだりや。
身の衰はかなしきを。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

涙　——原あさを——

黒髪を斷たれむそれに劣らじなかなしや君が消息はたゆ
病みて吾が死ぬるも君は相笑みて誰とかあらむ遠き園邊に
そのかみの君にかへして別れまし罪も滅びむ死のきはにして
病みてなほ人恨むことさへ忘れぬ身の來しかたの泣かまほしかり
おとろへて涙もろふもなりし子を母も泣くらむあぢきなき世ぞ

私の枕元に薄く點つて居たランプがホット音を立てゝ強い油煙の香を殘して消えた後も暫く闇がつゞきました。

曉の青白い光がほのかに硝子戸を透して私の顏に這ひ寄つて來たとき私の顏は石のやうに冷たくなつてたのを知りました、斯うして夜から曉にかけて一睡もせぬ夜がいく夜となく續きます、時々乳の横下が痙攣的に激しく痛むのですけれども昨夜から興奮し切つてる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心は肉體の苦痛を侵させるだけの力がありました。そして私の顫へてるこの青い手はいつかしら枕元にあつたペンを握つて床の中にうつ伏しになりながらいつまでも動かずに居るのでした。

私は矢張り弱い女だつたのです。口惜しいけれど弱い女なのでした。私の心を捨てられた貴方に手紙を書くといふそれより外に慰むべき術を知らなかつたのです。私はこの弱々しい女らしい感情を自分のものと思ふことが情けないやうなあはれむやうな云ひやうのないはかない涙が流れました。

何を書いたからとて今の私の心持をはつきり貴方に解つていたゞくやうには書けないでしやう、この亂れた心を整へるだけの餘裕があればもうこの手紙は書けなくなるのですもの。私はたゞ秩序もなくこのやるせない心から滲じみ出る涙を紙の上に沁ませてゆくばかりで御座います。

私は今現在の私共(貴方と私)の心を嚴肅にさばいて見ねば氣がすまぬやうになつたので御座います。今まで貴方から頂いた不眞面目な御手紙のはしはしを思ひ浮べて云ひしれぬ侮辱をさへ感じて居ります。けれども貴方は強くていらつしやいました。私が貴方のお胸にあるかなき陰影を投げて居るばかりに一寸でも貴方が不快をお感じなさる場合などあつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ては心苦しいと思ふ心から御別れいたしませうと云つたことも一度や二度ではないのでした、それをいつも否定的の微笑をもつて打ち消しておしまひなさることの出來た貴方の得意さが心憎くてなりませぬ。悲しいことには私は其れ程まで貴方を信ずることが出來ませんでした。否信じさせては下さらなかつたのです。私はこの二三年をはしない疑の中にのみ生きてゐりました。これが當然私に來るべき報ひであつたのでしやう。私はひとりの子の母といふ名に生くべきであつて戀などゝいふことを憶面もなく口にし得る女ではなかつたことを悟つたとき私の苦痛が其處に生れました。

斯様な場合に幸か不幸か貴方の御手紙の數が少くなり稀にいたゞく其れは私には何のかゝはりもないねたましがらせのいやしい言葉をつらねたものでした。私はこの侮辱をも忍むでまでも貴方に哀れみを乞ふほどよわくはありませんでした。貴方はその後二人の間の復活を逼つて下すつた、そして「戀人よ吾を信ぜよおん身の唇はわがために美しく保てよ」と云ふ意味の言葉をつたへて下すつた。

かくてもなほ私を戀人と呼んで下さる貴方の慘酷な御好意に對して私はどのやうな御返事を申上たらいゝのでしやう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君かなし云ひのがるべきすべなさにのみなほ吾を思ふと云ふや

まことには捨てられしとも思ひえぬよわきおのれをいかにしてまし

よその子をほめたまふともねたしなど思はぬほどになりて寂しき

君つぎの戀をいとなむそのひまにかなしき歌をよみならひ來ぬ

君戀ふて悔を見る日は七生の後にもなしとちかひたりしが

貴方の詩のやうな美くしい甘い言葉にそゝのかされて今日までもひきずられて來た私の無慘な姿を吾と見るに忍びなくなりました。今日といふ今日こそ私から御別れを告げませう。それにしても私は何と云ふ心よわい女だつたのでしやう、貴方から捨てたといふ言葉を聞かない中は何時までもまどはしい心持で吾から苦しむで居りました、けれども今日はもうその宣告を待たずに斯う申上ぐることの出來る自分の心強さをせめてもの誇りとしてあはれな誇りとして御別れを告げます。これほどの心になるまでの私の苦痛を思ひやつて下さい。

どうせ私は貴方のすべてを得やうとは願つて居ませんでした。私は貴方の心のすべてをさへ占めて居ることが出來れば滿足だと思つてたのでした、それは子を抱いてひとりある

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女の境遇がこのやうな不自然な戀をさせたのか、とにかく私を飽くまで空想的な女であつたのに貴方はあまりに現實的であつたのでしやう。貴方を滿足させることの出來ない私はやがて私自身が醒めてゆかなければならなかつたのです。私と貴方の十年といふ長い月日をかたるのにこんな大づかみな言葉ではとてもかたりつくすとが出來ないのです。けれど甘い思出などをくり返へしてるのではもう今までかいたのが何にもならないやうになりますから。筆を擱うと思ふ今さすがにいひしれね哀愁に胸を打たれます。複雜な障害の中をからくも保つて來た私の戀の幻影もかくして容易に破壊される日が來たのですね。それをまたあやしむほどの幼ない心もなくなつた私はたゞ愛兒のために早く醒めたことをよろこびます、薄倖な兒は戀ももたない淋しい尼のやうな若い母ひとりのやるせない愛と涙を一身に浴びておひたつてゆくことでしやう。一度は貴方の膝に抱かれて熱いキッスもうけて可愛らしい子よと云つて愛でられたことのある子なのです。どうぞ最後にこの戀にさへ代へ得たたつたひとりの私の愛兒のために祝福を祈つて下さい。こんな簡單な言葉で私の心をさつしていたゞけやうとは思ひませんけれど、せめて書かない私の心を思つて見て下さい。

長くかけば書くほどよわい心が見えてくる口惜しさにもう筆を擱かなければなりません

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

これが最後の手紙とはどうしても思へないほど容易に書けてしまひました。これで荒みはてた私の心をお推し下さい。あなたもこの手紙を御覧になつてきつとすが〳〵しい心におなりなさいませう。

いつまでも若い心に醉つていらつしやることの出來る貴方の御幸福を心から祝します。

とげもせぬまゝに醒めたる寂しかる十とせの戀も終らむとする

今更に君を泣くなど忘れても言ふまじいぞと泣きて思へる

思ひ出で今のわが身に仇をなすさく葬らしめ甘き思ひ出

わが戀の終りを見つゝなほ命すごやかなるがまして寂しき

君が世をわらふべき時來よとまつ吾ならなくになほ醉ひてませ

をぐらき夏 ——白川智恵——

この涙やがて消えなむ日をおもひさびしき心
なだめても見つ

泣きをれば夜ひるわかず森林にちかきすまひ
の夏のをぐらさ

高き樹に風鳴る音のさびしかり窓に見あぐる
眸のうるみかな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふと素足にまろびし木の實すかし見る月夜は
ものゝしづけかりけり

夜がたりのゆかしう雨となりにけり淡き灯に
見ゆぬれし木草の

雜木のしげみの暗にもだしたる夕のこゝろに
なみだおちぬれ

森に來てよき音に鳥の啼ける日はこゝろもか
ろくうたにしたらむ

花草はみなつゆしろし君が家へ朝を歩むによ
きふみちかな

ふと摘みし黄なる小ばなが手に顫(ふる)へ薄暮(はくぼ)のみちに立ちなやみけり

音もせぬ小窓の前の夏の雨したしきものにながめくらしつ

今宵虫のしたしき聲にわが涙はかなく膝におち來るかな

夾竹桃そのうす紅の花びらにけさのねざめの涼しかりけり

ひとりゐのこの淋しさのあけくれの何かうれしく泣かまほしけれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

樹のしげりさびしきひるのやしきまち阪を下れば夏の海見ゆ

夏ふかむ大空の色海のいろかぎりもあらぬ蒼きかなしみ

こともなく逢ひてわかるゝさばかりの心に似たる淡き夏の夜

獨り居の朝の戸あくる身がるさをたゞそれなりに人の見るらむ

水うてば木草のかをりしめやかに夏もやうやう晩（おそ）き夕ぐれ

夏草の花おのおのの色にかへるあけの光りの
中に身をおく

月を經て歸りし家のもの丶みだれ泣くによし
なきこのゆふべかな

夏ひばり夏となりけるよろこびを空の高きに
うたひてあるらし

人等みな働く午後の窓際の風にふかれて君を
ゆめ見る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふるさと ——岡本かの——

男をば戀ふるこころのふと逸れてひたすら亡
母を憶ふ夜かな

「煙」とは名さへはかなしいま君が遺せる飜釋の
書とはなりつ（亡兄晶川の飜譯せるツルゲネーフの「煙」を手にして。）

都より男よりぞとのがれ來てほと息づきぬ故
鄕の家

のがれ來しこの故郷も母亡きを兄亡きを知る
かなしき家ぞ

母君よなどとおはさぬ都より美しうして娘（こ）の
かへれるに

心なく折りては捨てし月見草いまは母への手
向にと摘む

大輪の日向葵のはな二三りん先づめさめたる
あかつきの庭

息（いこ）はんとしばし汝（なんぢ）がかへり行くその故郷と知
れどねたまし

君行くや行きてかへらぬ君とにはあらねども
などかくは悲しき

君が行く百里の旅の山川よ君が瞳にすがすがしかれ

故郷の倉にかくれてこの夕(ゆふべ)ひそかに我に文かく汝(なれ)か

あやしくも都のかたをながめては泣く息(こ)よと
汝(な)が母おもふらん

故郷の温泉(いでゆ)にひたり我が肌のかほりも汝(なれ)は忘れてあらん

都なる我を忘れて見惚るべき美しき子もまれ
にはあらん

遠方(をちかた)に君泣く夜かや故知らぬ涙ながれてとど
めかねつも

君行きぬせめて都の青年(わかもの)の群より君に似しを
もとめん

しみじみと涙ながして汝(な)がことば聞く初秋の
頃のまだるる

美しき言葉もこのみ語らひし彼の一時の後の
淋しさ

いづちゆくべき ——三ケ島 葭——

今行かんされどな待ちそさはいへどいまはたおのれいづちゆくべき

逢ふことのおろかさ今に思ひえてうそぶく前に君の來れる

人々がうとめる一つ君のその一つを戀ふる我に過ぎねど

君が言ふままに君をば鬼と呼ぶとりとめなさを君が泣くかな

君が前にふるふ心をよそにして我は醒めぬと嘆くべきやは

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

逢ひたればほかに思はんことの無し君そこにあれ我ここにあれ

世にもなき醜き女君戀ふとひとり嗤へば恨むよしなし

恨めしや死のよろこびを知らぬ身に死ねと迫りし君を思へば

みづからのたらはねざるを思ふ時恨まれてこそ嬉かりけれ

君が今別れをなげく心にははや無かるべきおのれとぞ思ふ

かたみとは君が我よりもてゆきてとはに秘むべきなげきなりしか

我をしてかなしましめずすねしめず別れしめたる君のたくみさ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

君がこと聞かまほしかり君我にのこらず告げしそのほかのこと

みにくかる眞晝のわかれつめたさを忘れしめんと夏の日ぞ照る

ひとりにて我は全く思はるとさだむべき日に知りし男心

わが命けふを限と思ふとき世のたのもしくなれる秋かな

君が住む都の空の明るさよわれ秋風に消なばよからむ

まみえては君に聞くべきものならむ待つまにまさる胸の高鳴

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲 イワノフ（四幕物）――チエホフ作――

第二幕

第五齣

ボルキン。以下同前。

（ボルキンはハイカラな扮裝で、手に紙包を持ち、右手の戸口から歌ひながら、飛上がるやうな歩き振りで出て來る。がやがやと歡迎の聲が起る。）

令孃達。ミハイル●ミハイローキチー！

レベデフ。ミシエル●ミシエルキチ！　やあ來ましたね………

シヤベリスキイ伯。いや大立物！

ボルキン。やあ、僕です！（サーシヤの側に急いで行く。）御令孃、僕は此のお美しい、花のやうな貴孃の御誕生された其の故をもつて、敢て世界に向つて、僕は萬歲を叫びます……で、今僕は其喜悅の貢物として、（紙包を出す。）この自製の花火を献上致します、丁度これも、貴方が暗の國に光輝くやうに、夜の暗に光り輝かんことを望みます。（芝居のやうな身振で敬禮をする。）

サーシヤ。どうも有難うございます……

レベデフ。（大笑をする、さうしてイワノフに。）何故君はどうも恁云ふイウダ（譯者註イウダは基督を賣渡した彼の弟子の名）を早く追拂つて了はんのかい？

ボルキン。（レベデフに。）いや。御機嫌よう、パウエル●キリーロキチー（イワノフに。）御主人……（歌ふ。）Nicolas Viola ゴーギーゴー！（皆の所に一々行つて挨拶をする。）御機嫌よう、僕の大に敬して居るジナイダ●サキシナ……お美しいマルフア●エゴーロウナ……最もお古いアウドーチヤ●ナザーロウナ……伯爵閣下……

シヤベリスキイ伯。（高笑する。）いや大立物……來るより早く空氣さへもう溶けて了つた。君はお氣が着かれたかな？

ボルキン。やれ／＼疲れた……もうこれで萬遍なく皆に御挨拶を爲たらうな、奈何です皆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

様何かお珍らしいことはありませんかな、何か其の驚嘆に堪へんと云つたやうなことは(勢よくジナイダ・サキシナに。) あゝお母様お聞きなさい……僕が今此家へ來る途中……(カウリーラに。) ガウリユーシャ、僕に茶をくれ給へ、然しね、總具利のジャムなしでだよ！(ジナイダ・サキシナに。) 僕が今此家へ來る途中ですがね、貴方の所の河の近傍で農夫どもが楊樹の皮を剝いでゐましたよ、全體あれを誰かにお貸しになるとよかつたのですがなあ。

レベデフ。(イワノフに。) 奈何して君はこのイウダを追拂つて了はんのさ？

ジナイダ●サキシナ。(驚いて。) 本統でしたよ、さうとはどうも考へ着きませんでしたねえ。

ボルキン。(徒手の體操をする。) 動かずにはゐられない……お母樣、何か一つ大に振つたことを遣りませうかな？ マルフア●エゴーロウナ、今僕は甚麽ことでも遣られますよ……非常に興奮してゐるんですから！ (歌ふ。)『われはまた來ぬ汝が許に……』

ジナイダ●サキシナ。何かを爲さつて下さい、でないと、もう皆樣が退屈し切つてゐらつしやるのですからね。

ボルキン。ねえ諸君、奈何して那樣に畏つて計りゐられるのです、何だか恁う陪審官とでも云つた風に！ 何か遣りませう、何んでもお望みのものを？ 盲鬼でも、繩打ちでも、燃えろ〳〵でも、或は舞踊でも、或は花火でも？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

令孃達。（手を打つ。）花火、花火！（庭に駈け出る。）
サーシヤ。（イワノフに。）貴方奈何して今日は那様に寂しさうなの？………
イワノフ。頭が痛むんでそれに何だか工合が惡いのですシユーロチカ………
サーシヤ。ぢや客間の方へ參りませう。（右手の戸口から二人は出て行く。ジナイダ・サキシナとレベデフの外は皆庭に出て行つた。）
ジナイダ・サキシナ。那云ふのこそ本統の若い人だ、まだ來たばかりで一分も經たない中に、もう皆を生返つたやうに面白がらせてさ。（大洋燈を細める。）皆が庭に出てゐる中は、蠟燭を無駄に點けて置くには及ばない。（蠟燭を消す。）
レベデフ。（彼女の後に尾きながら。）ジユシユシカ、何か客達に食物を出しちや奈何だ、何か……
ジナイダ・サキシナ。まあ、蠟燭を點けたこと點けたこと、これだからさ、人から私共が那樣に金持のやうに思はれるのだよ。（蠟燭を消す。）
レベデフ。（彼女の後に尾きながら。）ジユシユシカ、何か皆に出したら可いぢやないか、屹度若い者達は腹が減つたらう、可哀さうに……　えゝジユシユシカ……
ジナイダ・サキシナ。おや伯爵はお茶を飲み切らなかつたよ、たゞお砂糖を無駄にしたもんだ。（左手の戸口から出て行く。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

レベデフ。ちよッ！………（庭へ出る。）

第六齣

イワノフ。サーシヤ。

サーシヤ。（イワノフと右手の戸口から出ながら。）皆庭に行つたわ。

イワノフ。這麽譯なのでね、シユーロチカ、前には澤山働いたり、いろ〳〵考へたりしたが疲れるなんてことは少しもなかつたのですよ、所が此の頃は何にも爲やしないし、何にも考へもしないのに、酷く恁う肉體も、精神も疲れ切つてゐる、僕の良心は晝も夜も惱み通しさ、僕は全く自分には深い罪があると感じてはゐる、だが何處に其の罪があるのかと云ふことが解らん。而して又家ぢや妻は那云ふに病氣だし、錢が無いのでいろ〳〵面倒もあるし、風說やら、餘計なことの話やら、馬鹿なボルキン………自分の家は堪らなく可厭になつたですよ、其處に生活するのは拷問に掛けられるより辛いんです。シユーロチカ僕は貴方に打明けますが、僕はねえ、あの僕を其程に愛して居る妻の傍にゐるのでも、もう我慢が出來なくなりましたよ。僕が皆打明けて云ふのを、貴方は舊友として御立腹なさらんでせうね。それで僕は全くはね、恁うして貴方のお家へ切角遣つて來はしても、もう實は僕にや退屈で堪らんので、又家の方へ歸りたくなるやうな譯なんです。もう御免を蒙つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、そつとこれからお暇をすることに爲ませう。

サーシヤ。ニコライ●アレクセエキチ、私お察し申しますわ、貴方のお不仕合せを。私これは貴方がお一人ぼつちからなのだらうと思ひます。それには貴方の眞から愛してゐる、さうして貴方を先方でもよく理解してゐるものが、貴方に是非要るのです。たゞ愛です、愛其もの計りが貴方を屹度別な新しい人に爲せることが出來ると思ひますわ。

イワノフ。いやもう那樣ことは、シユーロチカ、奈何して僕のやうな、もう古ぼけた、さうして濡れた雄鳥のやうなものが、新しく愛のなんと云ふことが、初められるもんですか、まあ、そんなことは平に御免を蒙りたい！ いやね、そりや戀愛の譯ぢやないんです、實を云ふとね。僕は正直、一切を何でも皆我慢をするですよ。譬へば鬱悶(トスカ)をでも、精神病をでも、零落(おちぶれ)をでも、妻を失くすのも、自分の早く老けるのも、或は一人ぼつちになるのでも皆堪えますさ、然し、たゞ僕の我慢の出來ないのは、自分に對する自分の冷笑です。是計りは何としても僕にや我慢が出來んのです、僕、考へると死ぬ程に耻かしいですよ。僕は健康で、然も强壯な人間なのに、まるでハムレットのやうに、或はマンフレットのやうに或は餘計な人間のやうなものになつて了つた……　そりや世間にはハムレットとか、餘計な人間とか云はれるのを喜ぶやうな、下らない奴もあるが、僕

にや其れは耻です！　それは僕の自負心を激昂させるので、僕は耻かしくて始終心をそれで壓し着けられてそれが爲に煩悶するのです………

サーシヤ。（冗談に然し涙を堪えて。）ニコライ・アレクセエヰチ、亞米利加へでも逍げませうか、ねえ？

イワノフ。いやもう僕にや今は此の敷居にまで行くのでも面倒なのに、貴方は亞米利加なんぞと………（二人は庭の入口に行く。）實際シユーラ、此所ぢや貴方の爲には生活が難しいですなあ、僕あ貴方の周圍にゐる此所の人達を見ると心細く恐しくなつて了ひますよ、貴方は誰の處へお嫁きになるものでせう？　これに就いてたゞ一つの望の綱ともいふべきものはです、ひよつとまぐれ幸に此所の土地を通過するのに足を留めた旅の中尉か、或は大學生かゞ、貴方を盜めば盜んで行く、まあ那樣位なものでせう………

第七齣

ジナイダ・サキシナ。

（左の戸口からジヤムの壜を持つて出て來る。）

イワノフ。シユーロチカ、失禮だけれどあの、僕は直ぐ後から行きますから………

（サーシヤは庭に出て行く。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ。ジナイダ・サウシナ、僕は貴方に少々お願があるのですが………

ジナイダ・サキシナ。何か御用ですか、ニコライ・アレクセエヰチ？

イワノフ。（些と躊躇して。）はあ、實は其の、要事と云ふのは、明後日で丁度僕の借用證の終の日なのですがな、若しもう少々の間待つて頂かれるなら、大變に助かるのですが、其れとも又、利子の方を元金の方へ書き換へて頂くことにして下ずつても可しいのですが、左に右、只今僕の所にや錢が些とも無いんですから………

ジナイダ・サキシナ。（吃驚したやうすで。）然し其れはニコライ・アレクセエヰチ、どうも困りましたねえ、餘り其りや極(きまり)のない次第でせう？ まあ貴方だつて少しはお考へ下さいよ、那樣(そんな)ことが出來ませうか、那樣(そんな)に貴方、この不幸な私をお苦しめなさるものぢや御座いませんよ………

イワノフ。いや、失敬しました、失敬でした………（庭に出て行く。）

ジナイダ・サキシナ。ちよッ！ 本統にまあ何と云ふのだらう、吃驚させられたつちやないよ！ 私はまだ顫えてゐるよ……… 這麼にまあまだ顫えてゐる………（左手の戸口から出て行く。）

第八齣

コスイフ。

（左の戸口から出て來て、舞臺を通り過ぎながら。）

コスイフ。僕の所にダイヤの一と、王と、女王と、其れから八と、さうしてスペートの一と、あともう一枚……　少ない數のハートが一枚。それだのに何のことだ、あの婆はそれをちやんと云はなかつたのぢやないか、小さい勝負にすると云ふことを。（右の戸口から出て行く。）

第九齣

アウドーチヤ・ナザーロウナと第一の客。

アウドーチヤ・ナザーロウナ。（庭から第一の客と共に入り來る。）私や本統にあの女を八つ裂きにして遣るよ、あの吝嗇女(しみつたれ)を引き裂いてやりたいものだ、冗談ぢやないよ、五時からまあ座り通しで、黴の生えた鮭一つ出しやがらない！………　ふむ、這麼家があるものか！ふむ、這麼家の遣方つてあるもんか！………

第一の客。馬鹿々々しいこの退屈さ加減は、一層のこと向不見に駈出して、頭でも壁にこれ見ろと云ふやうに突當け(ぶつつ)た方が増だ！ えゝ、いま〳〵しい人間共だ！………　退屈はして了ふ、腹は減つて了ふ、篦棒め！　一つ狼のやうに唸廻し(うなりまは)、て片端から人間を嚙

り初めてゞもやらうかい………

アウドーチヤ●ナザーロウナ。本統に彼の女を八つ裂きに引裂いて遣るよ。

第一の客。僕は一杯飲んで直ぐ歸るよ、老婆さん！ 僕はお前さんの世話をする花嫁なんざあ要るものか、午食時分(ひるめしじぶん)からまだ一杯の酒も出しやしない始末ぢやないか、なか〳〵以て此の中で、愛ごころの那樣(そんな)粹な沙汰ぢやありやしない。

アウドーチヤ●ナザーロウナ。まあ、お出でなさいよ、何か一つ見附け出して遣らうぢやないかね……

第一の客。叱ッ！ 靜に靜に！ 何でもウオツカは食堂の戸棚の中だつけよ、エゴールシカに賴んで見やう………叱ッ！ （左の戸口から行く。）

第十齣

アンナ●ペトロウナ。リヲフ。

（右の戸口から出て來る。）

アンナ●ペトロウナ。構ひませんよ、屹度私等は喜ばれますわ。おや誰もゐない、大方皆庭なんでせうよ。

リヲフ。だが奈何して僕を這麼處へ、這麼穢の宿に連れて來られたのですか？ 我々や貴

方の爲にはこゝは來るべき處ぢやないのです！　我々議員を倘ぶ所の人間は、這麼處の空氣を呼吸することは出來ません！

アンナ・ペトロウナ。まあお聞きなさいよ、正直家さん、ですがね、婦人を送るその途中、婦人に向つて、たゞもう御自分の正直話ばつかりをさう浴せ掛けて下さるのは、あんまり御親切なことぢや御座いませんわ、ごく大目に見て上げても、少し退屈なことですのねえ。女の前ぢやなるべくまあ、御自分の正直話は藏つてお置きなさいましよ、さうなさらないだつても、女の方ではそれが自然と解りますもの、私の所のニコライなんぞも、丁度貴方の時分には、女の側ぢや唯歌を歌つたり、又色々な面白い話をするばかりでしたが、それでも彼の人が甚麼人間かと云ふことは、よく解りましたわね。

リヲフ。もう澤山です、その貴方のニコライ君のことは有仰らんで下さい、僕はもう彼の人のことはよく解つとるのですから。

アンナ・ペトロウナ。いゝえ、貴方は本統に好い方ですけれど、然し何にもお解りになりませんよ。さあ、庭へ參りませう。彼(かれ)は何時でも決して那樣ことは申しませんでしたよ、やれあの『僕は僞のない人間だ！　僕に這麼空氣は息苦しい、鳶の宿！　梟の巣！　鰐鮫！』なんて、こんな動物園を引合に出すなんてことは致しませんでしたわ、時折氣不

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

味いことでも御座いますと『あゝ今日はどうも俺が可けなかつた！』とか、また『アニウタ、可哀さうになるよ那麼人間は。』とか、まあ其位なことですが、貴方と云つたら……（退場。）

第十一齣

アウドーチヤ●ナザーロウナ。第一の客。

第一の客。（左の戸口から出て來る。）食堂には何にも無い、何んでも何處か、さうさ倉にでも有るかも知れない、エゴールシカに聞くのが一番だ、さあ行きませう、客間を通つて。

アウドーチヤ●ナザーロウナ。え、本統に八裂きにして遣りたいつたらない！………

（右の戸口から入る。）

第十二齣

バヾキナ。ボルキン。シヤベリスキイ。

（バヾキナとボルキンは笑ひながら庭から駈けて入り來る。其後から笑ひながら手を擦り擦りシヤベリスキイ伯が、ちよこ〳〵と尾いて來る。）

バヾキナ。何と云ふ詰らなさでせう！（聲高に笑ふ。）何て詰らないんでせう！皆お客達はまるで物差でも鵜呑みにしたやうな恰好で、たゞ歩いたり掛けたりばつかりしてゐる

の。餘り退屈で體軀（からだぢう）中の骨が皆硬ばつちやつたやうだわ。（飛上る。）あゝ少し運動でもしやうかしら！……（ボルキンは彼の膝を抱へて、其頰に接吻する。）

シヤベリスキイ伯。（元氣よく笑つて中指と母指でパチリと彈く。）畜生！（咳拂をする。）甘く遣つてゐるな……

バヽキナ。お止しなさいよ貴方、其のお手をさ、まあ耻知らずねえ、そら伯爵が何か變に思ふかも知れませんわね！　お止しなさいよ！……

ボルキン。貴方は僕の天使です、僕の心の寶ですよ！……（接吻する。）どうぞ僕に二千三百圓だけ貸して下さい！……

バヽキナ。駄目、駄目、駄目……　どうもお生憎樣、お金のことなら眞平御免だわ……駄目、駄目、駄目！……　よう、お離しなさいつてばよ、さあそのお手を！……

シヤベリスキイ伯。（彼女の周圍をちよこ〳〵歩いて。）可愛いね……奈何して那樣に可愛いのかなあ……

ボルキン。（眞面目になつて。）さあ、これから要談に移りませう。商人風に現金に、卒直に願ひます、而して僕に返答を與へて下さい、飾りなしに、冗談半分でなく、可しいとか、否だ、さかと。さてゝすねえ、（伯爵を指して。）此の人ですがね、金が入用なので、えゝと、

年に少なくとも三千圓の收入がなけりやならないのですがな。其處がそれ、その御相談なのですよ、貴方にも何れ御良人をお求めになられるのでせう、で、奈何です、伯爵夫人になられるお意はないですかなあ？

シヤベリスキイ伯。（大笑をする。）驚いて了ふ無作法ものさ！

ボルキン。奈何です、伯爵夫人を、お望みですか、或はお嫌で？

バッキナ。（狼狽して。）まあ、ミーシヤ、噓言ばかり……で貴方、這麼ことは考へて見ないぢや、直ぐ出來ることぢやないのよ……さうして又、若し伯爵がお望みなさるのなら、御自分でなさいますでせうに、さうして……さうして私解りませんわ、餘り急なのですもの……

ボルキン。そら／＼隱すより顯はれるはなし、一切ごうぞ商人風に……可のですか、否なのですか？

シヤベリスキイ伯。（笑ひながら手を揉で廻す。）それもさうだねえ、一番遣つて見ませうかなあ？奈何です？えゝ、この可愛いお人……（バッキナの頰に接吻する。）素敵だねえ！可愛いなあ！

バッキナ。まあ、お待ち下さいよ、貴方は全く私の氣分を變にしてお了ひなすつたわ、い

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やよ彼方へお出でなさいよ、彼方へさ！……ですがまあ些と待つて頂戴よ！
ボルキン。さあ早く、可いんですか、嫌なんですか、我々は暇がないんですから、さあ…
バヾキナ。ねえ伯爵？ 貴方どうぞ私の許へお客にゐらしつて頂戴な、三日計り……私の家は此家よりはもつとずつと面白いですわ……　ゐらつしやいな、え、明日ね……
（ボルキンに。）いゝえ、貴方屹度冗談でせう？
ボルキン。（怒つて。）誰か貴方、眞面目な話を冗談になんぞするものですか。
バヾキナ。あれ、待つて頂戴よ……あゝ私氣が變になりさうよ！ 何たか氣が變になつたわ！ 伯爵夫人……　あら、奈何しませう！ 私倒れさうだわ！……
（ボルキンと伯爵とは、笑ひながら彼の手を左右から取つて、兩方から彼女の頬へ接吻しながら、右の戸口へ連れて出る。）

第十三齣

イワノフ。サーシヤ。後にアンナ●ペトロウナ。

（イワノフとサーシヤとは庭から駈込んで來る。）

イワノフ。（失望の體で頭を抱へながら。）出來得べからざることです、そりや可けない、可けない、シユーロチカ……　あゝ可けない！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

サーシャ。(殆ど夢中で。)愛しますわ、私、貴方を、もうまるで無分別に……… 貴方がなければ私には生活の意味はありません、幸も、喜も皆たゞ貴方ばかりです………

イワノフ。奈何して、奈何してゞすか! 飛でもない、僕にや解らん、シューロチカ、そりや可けない!

サーシャ。私子供の時分から、貴方はたつた一人の好きな人でした、私貴方を、貴方の心を皆好きでしたわ、自分のやうに好きでしたわ、さうして今は……… 私貴方を愛しますニコライ・アレクセエヰチ………貴方と一所になら世界の際涯まではおろか、たとへ墓の中までゝも何處へでも、たゞ早く、たゞ出來るだけ早く、でなけりや私息がもう絶えて了ひます………

イワノフ。(幸福さうな高笑をして。)奈何したことだ? すればこれは生活を新規に始める譯か? シューロチカさうだらうか?……… 僕の幸福の人!(彼女を自分に引寄せて。)貴方は僕の若さですよ、僕の新しい生命ですよ………

(アンナ・ペトロヴナは其時庭から入つて來て、夫とサーシャとのこの態を見た。彼女は余りの驚愕に其處に其儘、植付けられた木のやうに突立つた。)

イワノフ。新規の生活が出來るのか? さうなのか? 新しく働くのか?

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（彼等は接吻する。接吻して互に振返ると、其處にアンナ・ペトロウナの立つてゐたのを見る）

イワノフ。（ぎよつとして叫ぶ。）サーラ！

――幕――

瀬沼夏葉譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

響の影 ——マッコア——

十二月九日

明日は愈々わが作の上場さるべき日なり。市民の感激は恐ろしき迄に著るし。切符は悉く賣り盡されぬ。諸新聞は筆を揃へて今年の最大事件なりと特筆大書しぬ。かの詩人は新に上梓せる詩集中に特にわれを歌ひぬ。知名の樂家は巴里、維納、ミラン、倫敦より馳せ來りぬ。セヴエラインは勝利なりといふ。翌日直ちにわれ等は休養の爲め暫時田園に赴く筈なり。

ああその翌日のごときなんぞ？　われは恐らく翌日を知るべく此處に止まることなからん多くの人々は奈何にわが唯一の作物によりて驚かさるる事ならん。曲進むにつれ渠等の動作は奈何樣に變ずらん。われは初より終りに至るまで渠等を注意せん。われは聽集の中にありて人々の心不安の狀態にありや、はた曲中に沒入して忘我の境に至るやを見究めん。

十二月十日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

時の進みの慢さよ。われは直ちに夜の來らんことを願ふ。われはかなたの白き家に匍ひゆく日影を眺めつつ數時間が消しぬ。日は靜かに照り輝やけり。室内は光に滿ちぬ。すべてのもの皆顯はなり。長き塵の柱日の光によりて中斷せらる。

今宵われは奈何なる衣服纏ひて行くべきか。種々心の中に定めかねたるが遂にかのロリャーの舞踏會にゆきしをり付けたる舊き衣に決しぬ、八月のかの夜セヴエラインを訪ねたる折着したるもかの衣なり。

わが父母はわれの何處にあるやを見出し能はざるなり。ああわが父母は今夜の勝利に與かること能はざるなり。われは父母のかしこにあらんことを切望す。何時かわれ等は相互に理解するの時機あるべし。

月の光り傾きまでわれを照すことよ。

われはかの室に相對して座せる父母の姿を再びまのあたり見る心地す。又しても同じき幻影よ。われはそれより脱れんことを願ふ。わが六歳の折の肖像畵に顯はれたる冷やかなる微笑よ。

人々は今大概十字街（スクエヤー）に集りて打語らひつつあるべし。われに就きて種々なる誹謗の噂を囁くなるべし。「ああ案に違はず、卿はわれの云々語りしを記憶し給ふや」など得意の色を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

面に浮べ頭を打ちふるならん。わが名は渠等が卑しき唇頭に上りて幾多の誹議嘲笑の的とならん。われはこの社會の習俗を破ることによりて何故然か非難せらるるにや？

かの舊き家の内は奈何に靜かならん！　ピアノの音は全く打絶へわが室の戸は鎖され、室内は全く暗黑なるべし。われは室の片隅に塵に埋沒せる樂譜の積重なれるを見る。壁上には古きベートーヴエンの畫像あり、窓の傍には黑檀のピアノ置かれたり。卓上の花瓶には枯れ凋める花と變色せる水とあり。われ室を去りし時歸り來る迄決して手を觸れざるべく僕に命じ置きたるなり。

されば恐らくわが室は依然として舊態を存しつつあるならん。窓の戸の閉ぢられたるところによれば人々はわれの最早此の世のものに非ずと思ひつつあるにてはなきか。ああかの花を棄てざりしを今にして悔ゆ。われは凋落せる花の姿を見るに耐へず。花は凋みぬ―われもまた―？　さなり、われも又凋落しぬ。われは今以前の如く決して美はしからず、されどかの若き詩人のみはわれの日に増し愛らしくなりつつあるかのごとく語りつつあり。

渠は數多の詩をわれに送りぬ。頃日も新らしき詩をわれに示しぬ。われは今尙ほ明かに其一節を記憶す。

「わが君のうるはしさ、今はただ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のがれぬなべて君が瞳に」

さなり。わが肉は次第にその形を失ひ顔は蒼白く痩せ衰へ眼のみ大きく奇しき光を帶びつつあり。

今は餘すところ僅かに三十分。われは身のまはり調ぶるに少なくとも二時間餘りを消しぬ。

われは今わが作を聞くべく行きつつありとは奈何に考ふるも事實とし覺えず。況してわれは責任もてる身なりとは――　われは今全てをなしはてぬ。批判の責は人々の上にあり。人々よりわが爲めにとて白薔薇の長き飾りを贈りきたりぬ。われピンにてそれをとめつつ屍を飾りつつあるが如く感じぬ。わが指先を打ち震はしつつ辛うじてわれは飾りをつけ終りぬ。その時セヴエライン入り來りてわが頭にも飾りをつけざるべからずとて手づからピンもてわが頭を裝ひぬ。君のかくなしつつある間われは。

「花嫁の床には百合
　主婦の頭には薔薇」

の匂を思ひ浮べぬ。その時われはデキナードに於ける「マドンナの顔」を見ぬ。質素なる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

黒き衣纒へる婦人の姿――われは寸斷々々にわが衣さき捨てたき程の感にうたれぬ。

かの君の呼ぶ聲きこゆ。行くべき時刻はきたりぬ。

十二月十一日　午前一時

なにものとも知れず恐ろしき速力もて回轉しつつあり。わが頭は混亂せり。眠らんと試みんは徒なり。

奈何に無敵の車馬彼處に群集せしことよ。さなり。確かに勝利なり。されどわれはかの巨大なる顔を忘るる能はず。ああ恐ろし恐ろし。

演奏は言辭の盡すべき限りにあらず、われは秘かに聽集の中に打混じりて耳傾けぬ。人々は始めより終りに至るまで靜肅なる態度を保ちぬ。

われ等の演奏を初むる前セヴエラインは無數の群集の入り來る中に知名の人々を一々指示してわれに告げぬ。軈て相圖の與へらるると同時に場内の燈火は一時にかき消されぬ。われ等は幕を距てて徐ろに初めぬ。

われは嘗てかくのごとき完全なる演奏を聞きたることあらず。

約二時餘り。最後の一節の終るや否やわれは又相圖を與へぬ。暗黒は消え去りぬ。われ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は嘗てかくの如く沒入の境に至りしことあらず。われは全くわが周圍を打忘れぬ。時にわれ鬱蒼たる深林の眞中にあるがごとく感じぬ。われは突如として巨瀑の奔放なる聲に醒めぬ。燦然たる光は溢るるがごとく流れ入りぬ。

最後の數節に至りし時白き薔薇はわが頭より落ちぬ。われは何處にあるやを意識しぬ。われは落ちたるを拾はんともせず幕の傍にいたり小さき穴より場内を見廻はしぬ。

他の瞬間に於て最終の一節は響き渡りぬ。場内は全く隅なく照り輝きぬ。

只見る巨大なる人の面場内を蓋ひぬ。口元には恐ろしき微笑をたたえつつ…………

われはこの巨大なるものに全身を魅せられぬ………　その時遽かに腐蝕わが肉を捕へ身内の細胞は恐く分離しゆくがごとく覺えぬ。わが頭碎くるがごとし。生氣全く失せ果たる肉にものともなき生命を注がれたるが如く、恐怖にたへずわれは眼をそむけたるがまま喘ぎぬ。同時にわが耳を聾するばかりなる響場内に轟きぬ。その響き次第に大きくなりゆきぬわ。れは何人がわれに觸れたるを覺えぬ。そはセヴエラインなり。激したる聲もてわれをうながしめ――眼は狂熱に炎えかがやきつつ――

「卿はゆきて直ちに聽集に挨拶すべし――いざ――人々卿を待つこと頻りなり」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われは辛じてその辭を解しぬ。渠はわれを導きて靜かに幕の外口われを突出しぬ。
ああ恐ろしき腐蝕(コラプシヨン)よ、激しくわが身内をめぐりつつあり、賞讃の聲は場內に響き渡りぬ
われは蹌めきぬ。聽集は再び始めぬ、初めは靜かに次第に激しくなりまさり遂に再びわれの顯はれざるべからざるを告げられぬ。されどわれは拒みぬ。幾度か響は昂まりては沈みゆきぬ。われは再びかの恐ろしき顏に接するの勇氣なし。われは疲勞もて死ぬる許りなれば何人にてもよしわが爲に謝辭を述べんことを告げぬ。

われは舞臺の傍なる椅子にわが身を沈めぬ。響は今やその絕頂に達しぬ。管弦樂の指揮者は幕の外に出でぬ。場內は忽ち肅然たるわれは渠が何事を語りつつあるやを知らざりき。軈て賞讃の聲は再び聽集の口に昇りぬ。遂には破るる許りなる床の音さへ聞えぬ。それの靜まると共に劇場を去る人波のどよみが耳に入りぬ。

われは激しき疲勞もて全身綿のごとくなり果てぬ。われは眼を閉ぢぬ。われは再び巨大なる樹木欝蒼たる森林の中にありぬ。されど人々はわれをこのままに捨て置かず。多くの名ある樂人は紹介を求むべく來りぬ。場外に於ける馭車の叫聲と舗道に落つる響とに打混じりて祝賀の合唱は空に鳴り渡りぬ。

その時セヴエラインわが傍に來りてある人の紹介を求むる由を告げぬ――偉人なりと、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

われはかすかにトルストイの名を耳にしぬ。われは朧ろ氣に記憶す。素朴なる姿と廣き額に針のごとき灰色の毛髮かかりぬ。粗野なる面に閃めく深き、暗の光には寛大なる熱情こもりゐぬ。

われはそのまま絶え入りぬ。漸く人心地にかえれる時、場内には最早一片の人影さへ認むること能はざりき。われはセヴエラインの腕に倚りて戸外に出でぬ、空氣冷やかに熱したる面に心地よくあたりぬ。

もの皆青白く鬱憂の色を帶びぬ。此處彼處に無數の炬火照りかがやきぬ。われは聽てわが顏と頸に柔かき葉のごときものの類數しれずあたるを覺えぬ。そは群集のわれを目がけて投ぐる花束なりき。われは微かに打震えつつ其處を過ぎぬ。炬火の群列をなしてわが馬車に從ひぬ。さまざまなる國歌のたぐひわが耳に響きぬ。

ああかくの如き勝利も畢竟なんするものぞ？　かの巨なる人の面は決してわが心より去らざるべし。

十二月十九日

演奏の翌日直ちに田園に赴く筈なりしも。わが病氣いたく重りて今尙ほ打臥しつつあり時にわが心さまよへどわが作物片時もわれを離れず。幾度となく始より終りに至るまで全

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

曲を繰り返しぬ。

われは床上より窓外の街を眺むることを得。

世界はわが樂譜の爲めに書かれたる一大詩篇に過ぎず。わが耳に響く樂の音を聞きつつ空と家と人とを打眺むる時然か感せざるを得ず。

空の象に無限の變化あり。碧空を漂へる雲のいろ〳〵。瞬時もその形を止めず。街路の光にも變化あり、また絶えず往來せる人々の姿にも同じく變化あり。かくのごとくしてわが樂にも無限の變化あり。

時に人と家と空とはわれに對して全くその意義を失なふ。われはただ徒らにかれ等を打眺む。そはあるものを表はしつつあるがごとし。されどわれは遂に見出し能はざるなり。かくのごとくにしてわが樂もまたわが心に定かならぬあるものを表現せり。われはわが頭の裂けんとするまでそれを思ひ續くることを止むる能はざるなり。

……………………………………………

十二月二十一日

わが樂なほもわれに纏綿りて放れず。そはわれを狂せしむ。われは何物をも見ず、何物をも感ずる能はず、唯だわが耳に樂の音の昂まりゆくを聞くのみ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

……………………………………

………………………………………………

………………………………………

嗚呼何故に人々はわれをかくのごとき處に閉ぢ込めしや？　われは奈何なる事をなしたるにや？　渠等はわれより全ての物を奪ひ去りぬ。人々はまたわれの病めるが故に暫時心を静穏に保たざるべからずと告ぐ。われは嘗てありしが如く今も尙同じき態にてあり。われはこの世に生れ出でたる日より人々の所謂「病める」者たりしに相違なかりしならん。そは兎に角何故に渠等はかくのごとき處にわれを携へ來りしにや？　何故に彼等の家に止まること能はざりしにや？　其處にはセヴエラインが――

われは記憶せず。演奏の終るや否直ちにわれは人心地を失ひたるなるべし。――さなり。われは寢室のごとき處に至れるを記憶す。それより――ここに充す能はざる間隙あり。次にわれは階下に導かれ全く同じ服裝せる二人の婦人と共に馬車にて何處ともなく搬ひ去られぬ。そはいと長き道中なりき。われ等の出發せる際、セヴエラインは門口にて何事をか二人の婦人に囁きたりと朧ろげに記憶す。されどわれには何の挨拶をもなさざりき。渠はわれを全く見ず知らずの人のごとく扱ひぬ、われは身體全く衰へはてて、一語をも交す能

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はず、半ば夢心地に周圍の物を眺めぬ。今われは快復しぬ、されど尙ほ人々は囚人の如くわれを此處に禁錮せり。

わが室は何等の趣きもなき白壁にてとり圍まれぬ、その一方には寢褥を入るべき戸棚あり、椅子、卓、ペン、インク、これらのものはわれにとりて言ふ迄もなく必用なり。されど何故に戸口をしかく鎖し窓には外部より太き閂などを塡たるにや？

わが身のまはりの不潔なることよ。わが髮はいたく縺れに亂れぬ。われは鋏と刷毛とを求む。わが衣もまた破れぬ。何人のしかくわが衣を裂きたるにや？誰——

わが頭痛み始めぬ。かの恐怖又もやわれを襲ひ來りぬ。

日の光の強き事よ。わが狹き室は至る處照り輝きてわれは逃るる術もなし。

窓より外を眺むれば平口展けたる田園遙かに遠く連なれり。何處にも人家と覺しきもの見えず。わが窓側近く裸形なる高き樹木立てり。梢はわが窓に達しぬ。

…………………………

わが頭は常に樂の音もて充ち溢れぬ。ああこの家の靜けさよ。われは樂の音以外に何等かの音を聞かんことを欲す。人々は何處にありや？

ああ荒寥なる景色よ。無慈悲なる太陽の輝きよ！　跫音きこゆ。慥かにわが戸口に近づ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

きつつあり——さなり人の跫音なり………

果してわが室に入り來りぬ。人は黑き衣纏ひぬ。左の袖には淺黃色せる徽章のごときものつけぬ。渠はわれの何を食すべきやを尋ねぬ。われは唯だ鏡と刷毛と櫛とを要する旨を告げぬ。渠は去りぬ。恐らくはわれさる病院の一室にありて渠はわれの附添なるべし。

われ少しく眠るべし。

日沈つつあり。靜かなることよ。數哩の間生物の姿一つとして見えず。唯だ遙かに枯れ萎せる白楊の並木を見解くるのみ。時にその枝のわが方に向ひて媚を呈するがごとし。廣漠たる原野には何等の生動なし。

なほ樂（ミユジツク）、樂（ミユジツク）、われ窓外を眺むる時、その調子低くなりゆくが如く思はる。

附添ひは入り來りぬされど鏡をば持ち來らざりき。

われは母君を此處に呼ばんことを欲す。母君今のわが姿を見給はば必ずわれを許し給ふべし、われ病みし以來わが家の宛名をさへ忘じ去りぬ。今は中々に思ひ起すこと容易ならず。われは數時間徒らに思ひ惱みぬ。されどわが頭を痛めたるのみ。ああそはなんするものぞ？　われは最早長からざるべし。

野枝譯

或る日──加藤籌──

藤子は一人子の良一を喪つてから、此の先き何をして暮さうといふやうな果敢い──何うかすると空おそろしいやうな心持になりました。亡くなつた當座の内は却つて心も確りしてゐたし、爲方が無いといふ諦めも付けてゐましたが、日が經つまゝに、幼い者の死といふことが何うしても不自然で不合理で殘酷であるやうに思へてならなくなりました。そして、死といふことが急にまともに目について來ました。自分は何故こんな悲しい目に逢はなければ成らぬかといふことも考へて見ました。

夫の健一もそれ以來俄かに酒量が殖えて參りました。毎日夕飯の時と決めてゐたのを朝も晝も飮むやうになりました。「酒でも飮まなきや愁のやり場が無い。」と口癖に申ました。午から飮み出して、可なり最う酒氣の廻つた午後の二時頃でした。健一は急に。散歩して見ようと言出しました。藤子も參りませうと言ひました。

子どもがゐた頃には滅多に揃つて散歩なぞに出た事は無かつたのですが、二人とも急に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

寂しい心持になつたのです。ブラ〱歩いて居ながらも、子どもがゐたらと思ひました。又子どもが無ければ夫婦なんてものは無意味だなぞとお互ひに思つたりしました。

二人は柳生川の縁に沿つて、室といふ所までコッ〱歩きました。シノといふ犬も連れました。まだ四月の初め頃で、堤には柔かな草の芽が萌えてゐました。かうして又春が來た——然う思つて、二人とも妙に涙含みました。此川筋には隨分思ひ出が多く殘つてゐました。子どもが川狩に來てお辨當を食べた所だの、シノを泳がせた所だの。下駄穿きで木のぼりをしようと言つた這ひ松だの——。シノは滅多に鎖を解かれたことが有りませんので獨り興がつて冷たい川水の中へ飛込んだり、田圃へ入つて捏ね返したりして喜んでゐました。

「あ、引かゝつてる。」と頓興な聲で言つて、健一は突然足を止めました。藤子が其所へ行つて見ますと、昨日の午前に健一が自分で流しに來た子どもの着物が一枚だけ、亂杙の釘か何かに引かゝつて、緩い流れに截つてユラ〱搖られてゐるのでした。それが又亡くなる時まで着てゐた格子縞のネルでした。健一はステッキで幾度も〱突いて見ましたが取れませんでした。シノに流の眞中まで啣へ出させようと爲て見ましたが、其所は存外深い淀でしたので、犬は何度と無く泳いでは岸へ上つて了ひました。其邊には銀色の芽を吹

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いた川柳がギッシリ並んで、何時の秋だつたか子どもが「これが炙になる木。」と言つた蓬が餘地も無く青々と萠え出てゐました。

健一は烟草を吹かし〳〵歩きました。「藤、お前は泣くことは無いよ。あの子はお前が苦め殺したやうなものだ。」なぞと振向いては時々憎い口を聞きました。

「えゝ。苦めようとは思ひませんでしたけれど、私は私の罪だと思つて、決して人を恨みは爲ません。」と藤子もムッとしながら申ました。

「當り前だ。食へもしない物を食へ〳〵つて、能くもあんな殘酷なことが出來たものだ。」とプと何かに投げ付けるやうに吸殼を棄てました。

「少しでも多く滋養分を取らせたいと一圖にそれを思つたものですから………」

「だつて、醫者も食へないと言つてるんだもの。デスといふことは最う知れてゐる體に、何も無理に物を食はせて苦めることは無いぢや無いか。」

「私はデスなんて事を生きてる者に豫想するやうな、そんな殘酷な心にはなれません。死ぬが死ぬまで何うかして助けたいと思つてゐました。」

「己が冷酷か！」といきなり健一は嚙付くやうに呶鳴り付けました。激しい怒りに聲が顫へてゐました。藤子は最う默つて夫の言ふことを聞いてゐました。「良一に對して己が冷酷

だと云ふのか！　怪しからん。」と氣色ばんで見たが、急に聲を落して、「彼兒の立派な性格を認めてやれ。見す〳〵苦みながら勸められる物は決して拒まなんだ……死ぬまで努めるといふことを忘れなんだ……」

藤子も胸が一杯になりました。思へば思ふほど良一の美點ばかりが藤子の心に數へられるのでした。

室の町へ入つたのは、最う三時を過ぎてゐました。室は近頃の新開町で、貧弱な海水浴なぞも出來ました。

「何處かで夕飯を食はう。」

「まだ、今召上つて行らしつたばかりぢや有りませんか。」と藤子は言つたが、健一は聞えぬ振をして、「梅月」と名ばかり美しさうな小料理屋の暖簾をくゞりました。普通の百姓屋に手を入れて小料理屋風に直したといふやうな、煤び切つた穢い家でした。それでも新しい建添へたらしいガラ〳〵普請の裏坐敷もあつて、二人は其の二階へ通りました。障子を明けると、直ぐ目の下まで入江になつた海水が來てゐました。其處から内海を通ふ小蒸汽やイサバがゴタ〳〵と算木を亂したやうに泊つてゐました。海から來る風は未だ寒いけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れど、二人は物珍らしさに障子を明けて見てゐました。健一は目を細めて潮の香を懷しさうに嗅ぎながら、やつぱり良一のことを思つてゐました。藤子も何か無し涙含んでゐました。

「お出ませう。何か持つて參りますか。」と其處へ田舍臭い二十位の女が顏を出しました。健一は有り合せの物でビールを命じました。持つて來たのを見ると、土地で取れたのらしい味も香も無いやうな燒海苔と、旬はづれのサハラの刺身とが、粗末な伊勢膳に載せてありました。女の立つて行く時、ふと其踵を見ると、溝のやうな皸が切れてゐました。女は部屋を出る時些と踞んで、「御用があつたら呼んでおくれませう。」と言ひおいて、ピシャリと音をさせて障子を閉めて行きました。

「氣を利かせる積りなんだよ。」と健一は笑ひました。

「嫌ですことねえ。」と藤子は本當に嫌な事だと思ひました。「我々はそんな伸氣な人間とは違ふ、愛兒を喪つた不幸な夫婦ぢや無いか。」と思つて、藤子はそれにも腹が立つたのでした。

健一も最うビールには氣も無いやうで、コップには口も附けず、コロリと橫になつて、烟草ばかり燻してゐました。

「私今頃は、此室の海岸へ良一を連れて保養に來る積りでゐました。」と、暫くしてから藤

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

子が申しました。

「己も然う思つてた……」と言つたが、毎日の深酒に充血した目がヂリ〳〵と潤んで來るのを見ると、藤子は自分の事は忘れて、ふと「傷ましい人」といふ語をそれに當て嵌めて見ました。

藤子の好きな鮨の注文も出來て來ました。

「たんとお上り。」と健一は寐轉んだまゝ申ました。藤子は眼を泣き腫らして、食慾が無いと言つてゐましたが、それでも勸められて一つ二つ食べますと、「好きな物は、どんな時でも彌ばり旨しいんですね。」と極り惡さうに言ひました。

「食慾が無いも無いぢや無いか。」と健一は笑ひました。藤子も笑ひながら、「悲哀と食慾とは別ね。」

「澤山召上れ。誰だつたかの小説にもあるさ、失戀した令孃がホロ〳〵泣きながら飯を食つてる所を書いてるが……其處が人間の淺ましい所だよ。」

淺ましいと藤子も思ひました。半分ほど殘して、階下に繋いで置いたシノに遣りました。ビールも刺身も其の儘殘りました。二人が日脚を眺めて最う歸らうと言つてる所へ、ガヤ〳〵と喧しい子どもの聲がしました。二人の心には、子どもなら何んな子どもでも懷し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いのでした。障子を明けて見ると、窓の直き下に、海の中へ掛け出しに作つた物干場のやうなものがありました。其處へ眞黒な子ども達が我がちに上つて來るのでした。鼻を垂らしたのや、赤兒を結へ付けられたのや、どれも〳〵皆頑丈さうな子どもばかりでした。

「丈夫さうですことね。」と藤子はシミ〴〵申ました。

「いくら頑健でも、こんな穢い餓鬼は要らん。」と健一は一口に言ひました。

二人は犬を連れて室の町をブラ〳〵と歩きました。健一の足元は何うやらフラついてゐるやうに見えました。これから歸ると、家へ入る頃には日が暮れる。佛壇に灯を上げて、合掌する時の心持を二人は思ひました。而して自分の家へ歸るのが、何だか暗い穴の中へでも入つて行くやうな氣がしました。些いとした道具屋の前まで來ると、健一は突然足を停めて、

「おい、マネーは。」と聞きました。

「有ります、何故。」

「ハウマッチ？」

「五圓くらゐ有りませうよ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「些つと貸しな。」健一は蟇口を奪ふやうにして道具屋へ入りました。
「何をお買ひなさるの？」と藤子も一緒に従いて入りました。健一の目に付いたのは唐金の香爐でした。雲龍の浮き彫りがあつて、藤子も何といふ事無しに惡くは無いと思ひました。藤子は店の隅つこに反具同然に繩でからげてあつた古本の中から觀音經の折本を一册買つて出ました。蟇口は虛になりました。二人は氣紛れとも何とも思ひませんでした。
「私は良一が濟度に來たと思つて、これから佛敎信者にならうと思ひますの、あの兒が何かの化身で私等を濟ひに生れてゐたのだと思ふと……いえ然う思つて見ますと、其處に何と云ひますか、一種の莊嚴な敬虔な意味が沸いて來るぢやございませんか。私は强ひても然う思つて、自分を慰めあの兒の終焉を價値付けたいと思ひますの。」
「ふむゝ。」と、健一も何時ものやうに交せかへしもせずに聞いてゐました。
「そして私、これから出來るだけの善業を積まうと思ひます。」
「到頭其處へ行つたかね……」と健一は眞面目な調子で言ひました。「己も何か摑みたい」
日が暮れかけたので、二人は室の町はづれから俥に乘りました。此節は何處にも餘り見掛けない鐵輪の古い俥で、車夫も二人とも五十位の爺さんでした。若い者が乘せて貰ふに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は痛々しいやうな氣がしました。ガラ〳〵と大きな音をさせて俥は室街道を眞直に走りました。シノも俥と縺れ合つて一緒にかけました。家へ入る頃には最う美しい星が輝きかけてゐました。

部屋〳〵のラムプは明く點されてゐましたが、佛間はまだ眞闇でした。平生暗がりの大嫌ひだつた良一は、暗がりの中におとなしく默して二人の歸るのを待つてゐるのでした。

（完）

（これが小説と申されますか何うか、私はそれは何うでも宜しいのです。ありやうを申せば或る日の出來事を有りのまゝに書いたといふだけで、日記の一ふしとも見られるし、淺薄な感傷文とも見られませう。又親馬鹿が一人よがりのくり言とも見られませう。他人樣には何等の感興も無いことでダラ〳〵と書きまして如何にも無責任のやうですが、度々と御手紙を頂きましたので、ホンの申譯にかやうなもので一時の責を塞ぐことにいたしました。一體私はまだ人生とやらいふものを見る目が開いて居りません、私といふ者がテンデ未だ完成してゐません、修練が足りません。こんな片なりの私が人生を見たとて何うして本當に見えませう、その私が作をするなぞといふ事が大それた僭上の沙汰だと實は思つてをります。何よりも私は私といふ者を修練しなければならないと氣が付きました。默つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私といふ者を磨かなければならないやうに思はれて來ました。其上で本當に人世を見て何か書けるやうになりましたら、乾度かうした無責任の責をお詫びすることが出來やうかも知れません。イヤに悟つたやうな事を申ますが、私は全く子どもの亡くなりましてからといふもの。さうした心持になりました。自分の人格を何うかして美しく作り上げたい何うかして滿足な人になりたいとそればかり存じますのです。申さば、人にならう、善い人に成らうとしてゐるのです。かうした氣分になられたのも動機は全く子供の死に在るのですから、此の意味から私は子どもに濟度されたのだと信じてゐたいのです。又信じてもゐます。かう申したとて、決して『或る日』の辯護ではありませんから、其處は宜しくお酌量を願ひます。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

八時間

—安田皐月—

一

北島の置いて行つた金魚は相變らず小さな金魚鉢の中を胴を折る樣に右へ〳〵と游いで居る。近子は曇硝石の樣にぼうと曇つた露を掌で拭ひ乍ら、今水を換へた金魚鉢を平手に載せて、小さい世界を窮窟さうにもなく、悠暢らしく引いた長い裾を時々思ひ出した樣に赤い上に金色を走らせ乍ら、一寸品をしてスイスイと振る樣子が、若い半玉などの口をきゆつと結んで一寸背向けた顏につんと流目をするこましやくれた、澄した顏に似て居ると思ひながら、敷居の上に立つて居るのである。

六月の日永を暮れるに早い午後四時の空は重く沈んで、雨を持つた風がひいやりと單衣の衿を搔き合はさせる。近子は金魚鉢を机の隅に置くと其儘べたりと坐つた。高臺の靜かな中に快い、何とはなく勝利者の樣な快い孤獨の寂しさを靜平と聞き乍ら。一輪插のカーネーションから揮發性の強い薫りが頭に染みる。近子が投げ插した花に強い香を欲しがつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て男が濔る程かけた香水が、まだ匂ふのである。慿那に強い刺戟でなければ感じない程痲痺して了つたのかなど丶、近子は辰之助の事を同情と反感と半々の心で思ふのである。

妙に投げ出した樣な氣になつて來た近子は、いきなり花瓶の水を庭に捨てると、手桶形の鑄物の中に有りつたけの香水を移して了つた。そして空瓶を本箱の抽斗に抛り込む時自分の書いた辰之助宛の手紙を見付けた。

「何時のかしら」

二月前の十二日の日附である。近子は取返しのつかない程自分で自分を傷けて了つたと云ふ苦痛が、胸を波立たせた。

急いで開いた近子は、慿那にも未練らしい字を其處此處に連ねて居乍ら、それで居て離別の凱歌を奏さうと思つて居た當時の自分が、いぢらしくも、恥かしくも、馬鹿らしくも腹立たしくもなつて、眞面目だ眞面目だと思ひ乍ら獨りよがりの大眞面目で遣つて來た何も彼にもが、皆向ふに廻した見物の顏を見い見い獨芝居をやつて居たのだとさへ思はれて自分に對する嫌惡の絕頂に淋しく我身を顧るのである。

いつか何かで死後の自分の周圍が見られたら死んで見たいと歌つてあつた短歌を見た時眞面目の陰に屹度冗談が付纏つてる、何でも動く前に先づ見物を振り返る自分は、屹度死

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

迄も舞臺の上で弄ぶ人間かもしれないなど丶思つて泣きたい氣になつたのだつた。

近子は讀み了つた手紙を机の上に置くと長い吐息を吐いた。あれ丈け泣いてこの手紙を書いた夜の事を思ふのである。慊りない寂しい戀を抱いて泣くよりは、棄て丶流す涙に强さも尊さ自も分に求められるものとして筆は採つても、何を對象に持つた處で息詰る程切迫した頂點に立つ事の出來ない自分は、華かであるべき戀をこれからは振返る事もなく、近寄る事もなしに生きて行ける女だと云ふ堪らない寂しさに泣いて泣いて書いた手紙、これが戀の頁の終、戀文の最後として神秘の幕を自分から閉ぢる悲哀に血を吐く思で書いた手紙、その手紙の奥からさへ、近子は又冗談の顏を探すのである。破れた戀を胸に疊んで辿る自分の今後の道や、不意にこんな手紙に接する男の狼狽てた氣分や、それ處か、慿う して醒めない戀に强ひて終局を付けて、男に離れる手紙を書いてる堪らない氣分迄が、藝術的に好奇心を唆つて筆を取らせたのだとさへ近子は思ふのである。そしてあの時男の返事に一字でも女々しい文字未練らしい離別の苦悶があつたら、あれきり逢はずに居られたらうに、少くも電報でよび出しを懸ける樣な醜態丈けは演じなかつたらうにと、近子は堪らない恥辱を感じて面火照りと共に手紙を引裂いて丸めると、ぽんと向ひ合つた壁に投げつけて机に俯した。そして體とも何處へなと打棄りたい樣な氣の愼まつた時、寂寥の中に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

悄然浮いてる近子の目からほろ〳〵と泪がおちた。
『如何なさいます。御飯お先へ召食りますか』
障子の外からお神さんが聲をかけた。
『もうそんなですか。私まだ欲しかないんですけど』
『ぢや御一緒になさいまし。もうお歸りになりますでせう』
『エヽ』
『ぢや又』
ばたぐ〳〵と廊下を引歸すのを
『あの一寸』
近子は何となく躊躇らはれるのを强ひて勇氣づけてビールを求めた。
『お獨でお浮かれなさるんですか』など陽氣らしく云つてる聲を障子の内で聞き乍ら、黄昏れて行く庭に向いて淋しさうに男の足音を待つのである。
ビールが來た時部屋がパッと明るくなつた。近子は靜かに立つて電燈を振つた。そして薄暗い中でコップの泡を眤と見つめて居ると眼の底から止め度なく泪が浮くのである。
『オヤッー、盛んだなあ。如何したの』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

格子縞の單衣の辰之助が部屋に這入つて來た。

『召食れよ。私見た丈けで澤山になりましたから』

近子は莞爾りともせず妙に取り濟ました態度で云ふのである。恁那に人戀しい寂しい時でも遂に戀人を笑顏で迎へるさへ出來ない。寂しかつたと縋り付いたらと思ふ程、妙に堅く他人行儀になつて了ふのである。其度に近子は何故かと自分が憎くなる。

『今日も又遲いと思つたんでせう? やけ酒?』

辰之助は快い笑顏を近子の顏から離さない。

『あのね、この金魚眇なんですのよ』

近子はあらぬ事を答へる。

『さう。で妙な游ぎ方をするの?』

『ね、右へ許り行くでせう』

『此奴生れ乍ら自分の左は見た事がないんだな』

『生れ乍らかしら―今は右の方へ丈けが自分の世界だと思つてるでせうね。さう云ふもんだと諦めて』

『知らないんだから諦めるも何もないでせう』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「馴れつこになつたんですわ、何日かしら。諦めさせられて」

「何方にした處で左は盲なんだ！ 昨晩のがまだこんなに匂よんですか」鼻をひこ付かせ乍らコップを取つて、

「では之れを飲むかなあ」

近子を見てにつと笑つた。

近子は一輪挿の手桶を花のまゝ中指に掛けて男の鼻の先へ持つて行く。

「恁う強ければ貴方の痲痺した神經にも應へるでせう」

「痲痺した神經か。斯う強くては頭が痛い。どんなに掛けたの」

「恁麼に」

近子は空瓶を男の方へ轉がし乍ら、赤い花を一輪へし折つて手の平で丸めると男の胸に打突けて笑つて居る。

「香水漬の花が紫に染みた。何故赤く染まらないのかなあ」

男は笑ひ乍ら縞糸の染まつた襟元を眺めて居る。

「貴方の血が紫だと云ふシンボルに」

皮肉らしく狂暴な調子で云ふと、辰之助は反感に充ちた嶮しい目を近子に向け乍ら、暫

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くして、

「嫌やだ嫌やだ。女が嫌やになつた」

「虫見たいな女なら好きでせう」と近子は云ひたいと思つた程相手を侮蔑する氣になつて居た。そして離れて居る時のあの極度の戀着が何處へ消えるのか、何物に消されるのか、男を前にして泌々自分を情けなく見るのである。何方が何方を寄せ付けないのか、何方が何方を警戒するのか、二人顏を合した時は只薄い垣を透して中を探り合ふ事許りして、何方からも破つて出樣とはしない。思索に落ち過ぎて突き進んでは呉れない男をもどかしく思ひ乍らも、近子の方から破つて出樣とは決してしない。辰之助は女の妙にいこぢに守つてる垣を女自身から破つて出るのを待つより仕方がないと云つたやうな、慊りない諦めに強ひて從ひ乍ら一歩も先へは出ない。女は男に、男は女に凡てを求め樣として居る。

二人は冷い顏で膳に向つた。

二

「北島が貴女を從順さうな女だと云つて居ましたよ」

辰之助は長い體を仰けて片手を頭の下に枕し乍ら、アイロニカルな顏を女に向けて居る。

「だつてほんとにさうぢやありませんか」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近子は金魚を持つて來た時只一度逢つた丈けの男の言葉を味ふ氣にはなれないが、無二の親友として北島に如何自分を紹介して置ゝのか頻に知りたくなつて
「皆御存知？　北島さんは。何と思つて被入るでせうね」
「行く先々で女を殺して歩いてるつて。大したもんだつて。僕をさ」
女を調戯ふと云ふよりはもつと侮辱の意味を持たせて、何かの閃めきを意地惡く女の顔から待つのである。それを承知の近子は態と平和な笑顔を返した許りである。
「初對面だのに其前で寐轉んだりして惡かつたけど、君の女だと思つたからなんて、辯解して居ましたよ」
近子は凡てが馬鹿らしくなつた。
大膽になつて何でも生死を控えた第一義の生活を得やうと焦慮つて居るのも、「君の女」と云ふ男の通俗語で徹頭徹尾滑稽化されて了つた樣で近子は馬鹿馬鹿しいと思ひ乍ら、いら付き出す氣を強ひて壓へて、顔には氣の緩んだ軟い笑ひを矢張り續けて居た。
「北島さんて字が隨分お上手ね」
暫くしてから近子は思ひ出した樣に云つた。先刻押入を掃除した時、カステラの箱の中にあつた何が何やら讀めない程金釘流の萬葉假名を連ねた手紙の差出し人が。北島であつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た事を思ひ出したのである。そしてそれが女の書いたものだと云ふ事も知つて居る。近子は異性に對して不思議にチャームを持つた男に、何か非常に綺麗なものとか、濃艶な色とかを求めたくて、此部屋に入る度によく彼方此方を引掻き廻すのである。そしていつもこの种の手紙で男に興醒め乍らも幾等かの安心がないでもないのである。

辰之助が不思議さうに近子を見た時、

「私カステラの箱を又見ましたのよ」

妙にぢり〳〵した氣持が云ふまいと思つた事を近子に云はして了つた。近子は嘲笑を高く引き乍ら男の次の語を自暴氣味の興味で俟つた。けれど辰之助は靜かに

「見たつていゝでせう」と云つたまゝ顔の筋肉一つ動かさず莨の煙を天井に吹いて居る五分十分と男は靜かである。近子は其顔から眼を離さないで居るうちに堪らなく悲しくなつて來た。詰らない興味が恁うも男を滅入らしたと云ふ事が。で、何とかしたい。仰むけたあの胸に體を投げ掛けて甘い言葉が聞きたい、さうしなければ……むづ〳〵恁那氣分に唆られ乍ら、一方の妙に取澄ました、平氣で男の次の運動を待たうと云ふ心が容易に近子の膝を動さないのである。

だが、鋭く男に注いて居た目が男の次の動作を豫覺した時。近子はついと膝を寄せた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「枕上げませう」と優しく云つた。

「イエ、澤山です」

辰之助は起直つた。

「まあ」

近子は淋しさを無理に胡魔化した様な復雜な笑ひを見せた。

「僕お近さんが馬鹿に好きなんですが」

近子は半分で

「馬鹿に厭やな時があるんでせう」男の言葉を引手繰つた。

「ほんとに嫌やな時がある」

さも〳〵厭やさうに辰之助が云ふと、

「神經衰弱でせう。………けどいつも好かれてるよりはいゝんですね其方が」

近子は又恁那事を云つて了つたと思ふと男の顔を見る氣にはなれず、眤と自分の膝を見て居る。

此處まで導いた男の氣分に此麼棘つぽい事外云へない自分が悲しかつた。何故淨瑠璃に出る女の様な我を棄てた、涙つぽい、暖みのある言葉が自分には云へないのかと、近子は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何日も自分を責めるのであるが、たまにそんな事を口に出しても後は矢張りいゝ氣持はしないのである。

　近子は男も矢張り愛憎の中間に立つて、二方に走る正反對の感情の不統一を、自分とは違ふ意味で、同じ樣に感じて居ると思ふ事も悲しかつた。で、近子は

「如何な時でも嫌やにならない女は……」

と云ひかけてふつと言葉を切つた。

「男にやない？」

「イヽエ」強く打消して、「只ねお金を振卷くと云ふ近道がありますつて云ふ事。男には」

早口に云つてぽつりと語を切つた。

「馬鹿らしい」と云つた辰之助は直、

「さうさ。金で動く女が一番從順だ。望まない先に向うから思ひ通りに動いて來る。苦しみのない樂しみだ。ちとお稽古しちやどうです」外方を向いて云つて居る。

無智な女に飽いて反響を求めた女に、辰之助は又いつか無抵抗を欲して居るのだ。そして其麼傾向を女に見透されるのは苦しい屈辱だと思ふ心さへ薄らいだ。それでも女を愛する事は女を侮蔑する事だと思ふ事は戀が承認しない。と云つて慾望は其處へ走る。男性的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

驕慢な慾望として、辰之助はそれも卻けたくはないのである。

近子は又青い顔になつた。そして膝を交じへた男からは遂に何物も得られないのだと思ふと、眼頭が熱く湧れて呉る。

二人が離れて居る時、激烈に戀の苦痛を訴へ乍ら、一分の寛容もなく苛酷に自己を苛責して居る、あの悲慘な手紙を書く男が、膝と膝の觸れ合つた女に、何故上づつた戲談や、自己を落しめる驕慢が表れるのだらう。手紙が僞か？ 見た今が僞か？ 戀の前には如何な最小部分でも僞は見たくない。それとも苦しむ時筆を取るのか、筆を取る時苦しむのか何れにしても苦む時は一日の僅かの時間である。其余の時は男の心中の雜多の中に自分も同居して居ると云ふ丈けで、全部の所有者と云ふ誇を何方が何方へ求め得られ樣………

近子はよく知り拔いて居る男に、汚らしくくだらなく、醋たらしく自分を落しめてまで恁那猜疑を、反感を廣げて行くのである。

辰之助はいつか膝の上に破られた手紙の切を並べて居た。

「其麼手紙を何故書いたでせう。私は」

近子は書いた自分が此處に恁うして居ると云ふ恥しさよりは、それが男の心を驕らせたと云ふ苦みを多く味ふのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「眞面にこんな手紙書いたのね、貴女は」
「眞面目ですわ。私はいつだつて………」
「だつて今此處に居るんでせう」
皮肉を云ひ過ぎたと思つた辰之助は
「濟んだ事なんか如何だつていゝんですね」
近子はその優しい調子が腹立たしかつた理屈づめに行く樣な御注文通りの心ぢやないんですから。私にや自分で自分がほんとに判つた事があるかしら………」
「人の事の方がまだ判るかもしれない」
「私、自分も判らなきや、人も判りませんわ。薄ぼんやりした霧の中で………唯だ一人」
近子は大きい眼に泪を一杯溜めて、眞面に辰之助を眤と見て居る。
辰之助は女のこんないぢらしい容子を見るに堪へない。引抱へて自分の胸の上で思ふ樣泣かして遣りたい自分も泣いて遣りたい。と思ひ乍ら石の樣に坐つて女の顏を見たないで居る。
近子は遂に男の廣い膝に寂しい身を投げつけた。
「如何かして下さい。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

辰之助はもみ上げの毛の顫へる近子の泣顔を横から見て居ると、何も彼にも投げ出して縋つた樣な女のしほらしさに、背負ひ切れない責任を感じて來た。そして苦痛の全重量に壓されて立ち上ると其場を胡魔化して外へ出た。

三

幾重にも重つた雲を通して半過ぎの月明りに眞暗な夜がいくらかぼんやりした頃、近子はお仕立物處と云ふ看板と並んだ臺處口の半障子を開けた。

「まあ、如何なさつたの今頃。姐さんが狠狽てまさあねえ貴方」

「お國ちやんは?」と近子が二階を指し乍ら茶の間のお稻荷樣のお堂の前で新聞讀んで居た婆やに聲をかけた時、婆やは仰山に顏をしかめて飛んだ事をと云ふ樣に近子を見て居たが、

「さあお坐んなさいな、よござんすよ。私が甘い工合に追歸しますから。何なの………長尻で、なささうな奴ですからね」

指と拇とで圓い形を拵らへて胸に當て乍ら「なささうな奴」と顏をしかめた容子がをかしかつたので、近子は袂で顏を覆ひ乍らクツクツと笑つた。そして梯子段の口から上へ、お客樣ですと云つてる婆やの濟ました顏を袂の間から見乍らまだ笑つて居る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「アイヨ、一寸待つて頂いて頂戴」
お國ちやんの艶めいた返事に
「どうぞ姐さん、先刻からお待ちなんですから………」恁う云つて婆やは近子に
「又虚客だと思つてるんですよ先生」
笑ひ乍ら火鉢の前に坐ると一服つけて近子に渡した。
懐中の淋しさうなお客や、長尻のお客は、階下と階上との拵らへ事に何とか甘く吊り出されて追歸へされるのだと云ふ事を、近子は嘗つて聞いて居たので、煙管の煙を吹き乍ら天井を見てにやく〳〵笑つて居る。
暫くして婆やが同じ事を繰返すと、二階は一切りごた付いて居たがやかて梯子段を降りたお國ちやんは、思ひ掛けない近子を茶の間に見ると、顔にも容にも如何し樣と云ふこなしで二疊の着物部屋から急いで玄關に出た。
そして癪に障つちやつたを繰返し歸つて行く客を見送ると、
「余りだは夜なんか」
恥ぢた顔を近子と對ひ合せに坐つた。
「いゝわよ何時だつて。今日はいゝ處の歸りなの。焦慮つたいやら寂しいやらで此儘歸へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れやしないんだから、今日は泊つて行くのよ私」

泪の眼で哀願するのを振切つて辰之助の出た後、近子はこれ以上の寂寥の疲勞に堪へかねて只、當もなく男に續いて家を出た。獨取殘されて、對象を持つた孤獨――もしさう云へたら――の中に溶け込んで行く寂しさをどうし樣もない。無闇に只外へ出たのである。暫く歩いて居るうちに男の不明瞭な態度や、卑怯な振舞が、男に對する温い理解を眞黒に塗消して、何の執着もなく又近子は男と離れる事を强く思ふ樣になつて居た。それで居て其陰には、それが男の胸にどれ程の傷を印し得られるやら。致命症を與へ得ないで何で身が引け樣と云つた、嫌やな片意地が窺いて居る、近子は其麼心を振歸り見乍ら、離愁に腸を斷たれる前に此那敵意が先に意識を上にと云ふのが口惜しい迄悲しかつた。

眞面目に戀の爲には苦しんで、幾度か絶望の聲を揚げ乍ら又跳ね起きて、戀と個性と理智の三巴の鬪爭の中に打突かつて、得られない、飢えてる何物かを内に求めて止まなかつた男の雄々しい態度が、内に强ひて閉ぢた目を色相界の上に瞬つて、其表面から掻き集めて得たものに强ひて滿足し樣として居る此頃を、近子は情けないとも、女々しいとも思ふのであるが、それでも色々と理窟づけて其那行爲からも充分な價値を認めて居るのである然し其處から湧いて來る反感は近子も如何する事も出來ない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

程考へ乍ら兩側に灯の明るい町を歩いて居る、男の戀に疑があるのでもない。自分の戀、勿論信じて居る。戀し乍ら戀されて居る二人が惩う迄空虛な物足らなさを感じると云ふのは何かしらと近子は思ふのである。そして遂には戀愛の强い欲求を充し得ずに終る樣に運命づけられて居るらしい自分の性僻を思ふと、自分に掛つて來る凡ての罪を音なしく背負はなければならない自分がいぢらしく、ぽろ〳〵泪が頰に落ちるのである。

丁度其時近子は人通りの多い道を歩いて居たので、軒並の眩しい明りを避ける爲に急いで橫町に折れた。と、闇い通りの何處やらから騷々しい三味線につれて廢頽した女の肉聲が洩れて來た。近子は天神下だなと思ひ乍ら、自分の男も今は此那な肉聲と濃艶な色彩とあくどい肉樂とに自滅の快哉を呼んで生きて居る……自分の只一人の女の前で、聖なるもの純なるものを酷たらしく破壞して行く事に依つて自身への復讐として居る……と思つて矢鱈に同情されて來たり、只惰性の波に押され乍ら漂ふて居る自分を、自身にも自身の周圍にも無理から何とか價値づけ樣と務めて居るのに外ないなどゝ、男をくだらなく思つたりして居るうちにふと吉原の女――男に聞かされた夜から妙に逢つて見たい氣になつて居た女――の事を思ひ出した。近子は彼壓女の話を笑ひ乍ら話したり聞いたりして居る二人は、矢張り何物も這入る隙のない程密接して居るのだと思つて、負け嫌ひの氣性につ

け込んで自分を雑多な女より高く離さして置く事に依つて、男の便宜を得様爲に、云はないでもいゝ話を態とする見え透いた男の術數だと云ふ僻見を打消した。

近子は宵の口の浮いた町を歩いて居る間に色葉と云ふその廓の女が頻に見たくなつた。で思ひ切つて身を其方へ急がせた。そして大門で降りて始めての世界に足を踏み入れた時今迄の十二分の興味も好奇心も消え去つて、妙に自分の身の廻りが見廻される樣な極り惡さと、馬鹿らしさと、詰らなさが一緒になつて進む氣にはなれず、其儘引返した足を此處へ向けたのである。

「登樓らないで來たのなら何にもならないぢやありませんか」

お國ちやんは紅梅絞の袖を顏に當てた。

「一人で行くなんか抑々押が強いんだもの。其代り此處へ登つてるぢやないの」

近子は先刻の淋しさうなのと打つて替つて陽氣な顏をして居る。外に灯の洩れない樣に方々を扉して三人は盃を揚げた。

親類が中に立つて自分を堅氣に返して家に戻さうとして居る事などを、お國は嘲弄半分に近子に話すのである。

「そんな事小母さんが許すかしら」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近子はよしんばお國が承知した處で、理屈つぽいお國の母が許さないだらうと思ふのである。

「エヽ、どうせ駄目ですとも。親類の者が中に立つて獨で力んで居るんですよ。元々「母」が「父」らしい許りに私も恁んなになつたんですもの。女は矢張りゐらいより弱い方が本當ですよお近さん」

「さうよく。小母さんはお國ちやんが女らしくハイく云つて居れば恁うはならないものをと云つて居るは。お互樣よ。私も此頃弱くなりたい心と強くなりたい心と喧嘩許りして居て仕樣がない」

「何方が勝ちさう？」

「彼方が勝つたり、此方が勝つたり」

「如何して？　益々一緒におなんなさるの」

「一緒に？　私其那に考へると泣きたくなるの。まだ四五日外一緒に居ないのにもう寂しくて仕方がないの」

婆やは一品づゝ岡持から銅臺に並べ乍ら自分は麥湯を態と盃で呑んで居る。

「寂しいつて何が寂しいの」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「只寂しいのよ。一緒になつて了つたら私は寂しい丈けでも死んで了ふわ」

近子は二人がどうし樣と云ふ具體的の望みはない。只戀がいつか結婚と打突かるのではないかと、そして戀の頂點は結婚を必ず欲求するものとして男の居るらしいのが、近子にとりとめない恐怖心を抱かせるのである。

「離れて居るとね、結婚と云ふ事が矢も盾も堪らず急がれる事があるのよ。だけど駄目ね一日で嫌やになりさうで危つかしいわ。只別れる時を造るか、早めるか丈けだと思つちやふの、一緒になる事が」

「何故？　彼方が浮氣だから？」

近子は返事を止めた。男の弱さに不滿はあつてもその遊戲衝動に何の痛痒も感じて居ない只笑ひ乍ら近子は乾した盃を相手に差した。

「面白いぢやないの。女房小供の着物を質に置いて女郎に注ぎ込むんでなくちや、淨瑠璃になりやしませんよ」

「さうですとも。女の爲にや封印も切るぢやありませんか。强氣ですね。男にやそれ位の腕がなくちや面白味もありませんよ」

婆やが恁那事を云ひ足したので近子は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「だつて婆やさん、自分の男ぢや困るぢやないの。人のならほんとにきびくゝと氣持がいゝんだけど」

三人の笑聲の消えた時近子は打算的なのか狹量なのかと自分を思ふのである。男には濃厚な色彩の强い部分的行動が必ず欲しい。面白味も賑かさも粹な通な味も其處から色を增す。エピソードが濃ければ濃い程、惡でもいゝから濃い程男がよいと思ひ乍ら、自分と一寸でも交渉のある男には許したくない。と云つて自分の女獨り、外見えない樣なお目出度い窮窟な生眞面目は物足りない。何が何やら判らない自分を近子は嘲るのである。

「ぢやどうするのよ。夫婦となるのも嫌や、別れるのも嫌や、斯うして居るのも嫌や、嫌や々々々々と被仰るは、お姫樣が。一體何がいゝのよお近さん」

語尾を妙に上げて、醉つた眼許にあどけない笑を見せて居る。

「心中が」

「お戲けでないよ此人は。婆やおちいちやんがあべこべに私に云つてのおぼこになつちやつたよ」

醉ふと此種の女特有のさばけた言葉を聞かれるのを近子はいつも喜ぶのである。

「だけど實はまだ死ねないのよ。私仕事が殘つて居るんだもの。それさへ濟めば死んだつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て別れたつていゝ」

「何に、そりや」

「だつてね、私まだ彼人を泣かした事がないの、一度だつて。大仕事か殘つて居る……」

片手を後に壘に突くと體をぐつとそらして近子はだるさうに顎を襟に埋めた。

「惚れさして惚れ乍ら、振らうてのね。强勢罪な惚れ樣もあつたもんだ」

思ひ切つた言葉を普通さうに使う樣にいつか慣らされて了つた女の綺麗な顏を見て居るさ、近子は羨しい氣になるのである。自ら好んで極度の苦痛、極度の悅樂、極度の悲哀、極度の不安、極度の寂寥………凡て感情の至極を取込んだ充實した戀を夢見乍ら、その强烈な欲求を充し得ず悶えて居る自分の慘めさに比べて、毎夜の樣に外面的の悅樂に戀らしく醉つて行かれる女の氣安さを美しさ見るのである。

「何故見るのよ、そんなに」

「綺麗だから。醉つた眼付が素敵よ」

「オホヽヽヽ」

突然笑ひ出して

「貴方の目だつてそれで何が見えるのよ」

「私酔はして頂戴なね。今日は泣けない程寂しいんだから。婆やさん何故麥湯許り呑んで居るのよ。一杯位いゝぢやない事？」

酔つたと云はれると近子はしらふの人に傍に居られるのが氣が置けて來た。

「貴方お酔ひなさる處ぢやありませんよ。お顔が眞青ですよ」

「私、今日は切ない………」

「酔つたんでせう」

酔つた苦しみと見られる方が未だ幾等か自分を強く見せる仕方だと近子は思ふのである。

ふら〳〵と立つた近子はお國ちやんがまだ〳〵と手を振るのも構はず菊五郎格子の裕衣に着換へると、直床に這入つた。

同じ蒲團に寢たお國の快さゝうな寢息を聞き乍ら死んだ様に動かない近子は、慣れない衾から流れ込む程の寂寞にわく〳〵し乍ら堪へ兼ねて床を辷り出た。

いつか雨になつた十二時過の町を車の中で、戀に依て自分の生活がどれ丈け高められたと云ふのだらうなどと思ひ乍らも、愛情の渇求に強く促されて、近子は離れられない人の懐に又歸へつて行くのである。（完）

八・一二・

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てがみ

——小林歌津——

一

いくら意地をはつて見ても、二人の心持は、だん〱にほぐれて行つて、遠くなるばつかりでした。——

おもんは身體中もがいてもたりない程何にもかも、じれつたくなつちまいました。どうかして元のやうな、熱い、なま〱した、突つけば生血がほとばしりそうな心持にかへりたいと、思つては、自然の掟にならつて行く自分の感情にさからい〱今日までは、男の袖にすがるやうにして、歩いては來たもの丶、もうこの上に反抗しつゞけることは、とても出來そうにもないと、あやぶまれる程、おもんはすつかり、くたびれきつて了つてゐます。もう別れて了いませう——とは思いながら、それでもまだ、いくらかは胸の底に殘つてゐる筈の、二人の情火のほとぼりを、當てにするともなく、あてにしてゐたのでした。過ぎさろうとする夢のかづ〱を袖から袖へしたうつり香を、後になつてなつかしかるやうな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

こゝろもちで、幾度となく、くりかへしては見るのでしたけどやつぱりそれは駄目な事だつたのです。

おもんは、何だか、自分も、男も、白粉をぬつて、空々しい、しばゐをしてよろこんでゐるやうな氣がして、なりませんでした。――そしてそんなことを思はなくつてはならないやうになつて了つた自分が、しみじみ悲しいやうに思ふのでした。それに、もう自分逹の、ふこやかだつた感情までも、さんざんに、おもちやにしてとりかへしのならない程も荒しぬいて了つた樣にも思ふのでございました。

新之助は何を考いてゐるのか、氣のぬけた樣な横顏をおもんにむけて、足にまかせて、と云ふやうな捨てた歩き付きをしてゐます。おもんは又、今日限りもう逢ひますまい、私の初戀はいつまでも淡い、美しい色のまゝにして置きませう、奇麗な追憶だけを殘して別れませう、と思ひながら、新之助の行く方へ、ついて行きました。

ぎらぎらした光線の針を、まわりに、ぎつしり植付けた眞赤な太陽が、本願寺の大屋根に落ちかゝつてゐます。まだ白晝の色が空を去りきらないのに、町の兩側の軒並には騷々しい、赤や青の燈の花がつきはじめました。夏には入つたばつかりのですけど、そうした、あたりの落付かない感じが、汗ばむ程もむし暑うごごいます。おもんは袂の先きで、散り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かゝる後毛が、氣味惡く汗ではりつく額ぎわを、ふきふき足の早い、新之助におくれない樣に歩いて行きました。

「砂の上に家は建てたくないがらね。よくあの事は考へてからきめやうよ、――もつちやんもよく考へてお置き。」新之助はおもんの忘れてゐた話のつゞきをふつとつゞけ出しました。

――それは、おもんと新之助が、かうした仲になつてゐると云ふことを人傳にきゝ知つた、おもんの母親が、結婚をしたいなら、するやうにはからをゝからと、おもんをよんで云つたと云ふことを、新之助へ話したいつかの話のつゞきなのでした。それにはおもんも、又若い自分の身を、新之助一人にあづけて了つて、他の戀は覺えないと思ふ操からその氣になつては見たものゝ――けれどもそれは、おもんが考へおよびもしなかつた、生活といふ事から今では出來ないことだと、新之助に云い聞かされたのでございました。――

おもんはもうその話なら、どうでもいゝ事だと思ひました。せめて別れやうとする今日だけは、何に付け色々な不安のかぶさらなかつた以前のやうに、氣安い心持でありたいと思ふのでした。で

「えゝ、そのことなら、もうよく私解つててよ。お母さんにだつてよくそう云つて置きま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すから……もういゝわ」

とおもんは答へました。

はしやぎきつてゐた空が、どつからとなく影をさしれたやうに、沈んで來て、あたりは昏く暮れて來ました。觀音堂では、もう黒い扉をしめるのか、夕暮を合圖するやうな重たい音のする太鼓をうつてゐます。——

「もう夕方だね、歸らなくちやなるまいね。」

新之助はおもんを見かへつてこう云ひました。おもんは無言つて、只こつくりをしてゐました。

「今度は何日逢へる、あさつて？」

「どうだか——」

「ぢやしあさつて」

「そうね、それもどうだか」

おもんは冗談らしく笑い顏をして、冗談ぢやないんですよ、ほんとうにもう私は逢ひませんよと、目に云はせながら、ちつと、馬鹿〳〵しいと云つたやうな男の顏を見つめるのでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二

「お鐵さんが見えたけど、お前結つておもらいかい」

と母親に聲をかけられて、おもんは目をあけました。寢てゐるうちに、急に厚くなつたんぢやないかしらと思ふ程眼瞼が重たうございます。

「結つてもらいます、すぐ起きますから」と云ひながら、おもんは起き上りました。そして、恐いものを見るやうに、そつと机の上に眼をやるのでした。目先きは机の上の薄紅色のものに走つて行きます。――それはゆうべかいた新之助へあてた手紙なのです。(もうあなた樣には重ねてお目にかゝるまじく……)――おもんはその手紙の文句をふと思ひ浮べて、何がなしに、いやな氣になりました。その手紙は自分でポストへ入れやうと思つて、おもんは手文箱の中にしまつて了ひました。そして急いで寢まきのまゝ顔あらいに立つて行くのでした。

おもんはその朝恰ど何の意識ももちませんでした。頭の中が、がらんとしてゐます。廣く廣くがらんとしてゐます。そして、一杯に烟のやうに薄黒く、もや〳〵したものが、ひろがつてゐるそこの方に、かすかに、もう新之助とは別れたのだ私の「小說」には結び句がついて了つたのだといふだけが、おどんでゐるきりなのです。忘れたやうに、淋しいと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も悲しいとも思はれないのでございます。

おもんは大鏡臺の前に座つて、ゑり白粉をねりはじめました。首筋へこく、だんだんに頬の方へ、ぼかすやうに前はけを働かすのでした。

………初戀の香ひを失くさないやうに――ふつとおもんはそんな心持のうごくのを覺えました。それはこの頃、いつも鏡に向つて、お化粧をする時、くせのやうに、きつと、浮びあがる情緒なのでございます。白粉の匂いのやうに甘く、まつわりつく様なその情緒を、おもんは冷たいところへ、暖かい水をさゝれたやうな心持で、その朝はなつかしいと思ひました。

「お鐵さんお待遠う様」

座りなほしながら、おもんは次の間の方へむいて云ひました。

髪の毛の癖を、からんではほどき、ほどいてはからむやうな手つきをしてお鐵は、お湯をふくました切れをうごかしながら、次の間の母親と、さつきからの話のつゞさらしい昔流行た髪の話をしつゞけてゐます。おもんは。油斷をしてゐる間に、さつきのなつかしい情緒を、逃がさない様に、と思いながら、ぢつと鏡の中の自分の眼を見つめてゐるので

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。けれど、ぢきそれにもあきて了いました。——鏡臺の抽出しをぬいて見たり、紅皿の青く光るふちに藥指をこすりつけて、きまぐれらしく自分の唇をそめて見たりするのでした。

鏡の中に、下品な、赤い唇をした自分の顏が薄笑つてゐる——おもんは、ゾツとしてあわてて、着物の袖で、唇をふき取つて了ひました。

「どうぞ」

お鐵は、いつの間にか、櫛を置いて、手鏡をさし出してゐました。

前髷の思いきつて大きな、いちの仰向き可限な潰しの眞中を、水淺黄の角絞りが細くくびつてゐます。——おもんはこうした、草双紙の挿畫にありそうな豊國ゑがくと云ふやうな、髮つきを好んで結ふのでございました。

「後からだけ見てゐると、かつらみたいだよ、」

母親もいつか煙管を下げて、後に立てゐました。

——おもんは何の用もない今日をどうして暮そうかと鏡の前にペッたり座つたまゝ、ぼんやり考へてゐました。どうかしなくつてはならない——あゝして新之助とはなれて了つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て、この先き自分はどんな氣で暮すんだらう、………おもんは疳高な聲をたてゝゐるカナリヤのさえづりに、自分のいとゞにごつてゐる頭の中をかきまわされるやうな氣がするので、耳を塞いで、どうしよう〳〵と、思ひなやむのでした。

「もつちやん、お前今日何か用があるかい」

おもんはそう云ふ母親の聲をきゝました。

「いゝえ別段。何是?」

「用がないならね、杵屋さんへ行つて來ないとすまないだらうよ。この間のお月ざらいの時もわざ〳〵お使までいたゞいたんだからね。持つて行くものを持つて行かないと、惡からうよ」

「ぢや、今日行つて來ませうか」

おもんはしほ〳〵が出來たと思いながら立ちあがりました。

「そうおし、御飯を食べてね。もうお前十一時半だよ」――

母親の出して呉れた着物をきて、おもんは新之助の手紙を袂に入れて家を出ました。

これからの暑い日を思はせるやうにこい藍色の空が晴れて、陽氣な日ざしが外を流れてゐます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四

門口を通るので、ちよいと聲だけをかけて通るつもりだつたのが、丁度家にゐたお友達のみつ子に、ひきとめられたので、おもんが杵屋のある藏前の長い新道を曲つたのは、もう町に片影が出來る頃でした。

格子戸と並んだ窓下の、少しばかりの空地に朝顔をからました家、二階の軒で風鈴の赤い小札がふるえてゐる家、さては物腰に垢ぬけのした女達が張物をしてゐる黒い板塀、どれもこれもふきこんで、つやの出たやうな家が、立ちならんだこの新道は、おもんが何かにつけて大事に思ふ、自分のなつかしい思ひ出でのうしろ繪なのでございます。おたばこぼんに、やつと毛のとゞく時分から女中に送られて、よくこの道を師匠の家へ通つた頃と、あんまり今でも變つてはゐません。けいいしを抱えて、ほゝづきをならしながら、好きなお友達と連れだつて、よく通つた路なのです。――そこらはおもんにとつて、故里の様な親しさがひそんでゐます。

「あら、お師匠さんとこだわ」

おもんは、派手な「吉原雀」の合の手を二挺でひく、三味線の音をきゝつけてふつと首をかしげました。おもんが忘れてゐるその合の手に口のうちで、口三味線を合せながら杵屋

と書いた軒燈の二三軒手前まで來ると、ぽつつりと糸の切れた音がしてぴつたりと、三味線の音が絶えて了いました。――

「ごめんなさい」

思はず子供ぽく聲をたてながら、おもんは格子戸を入りました。

「あら、もつちやんですかお暑いとこを、よくお出かけね。」

おかみさんは窓ぎわの方へ座蒲團を手ばやく敷きながら愛相よく、おもんを迎へるのでした。

せまい庭を控へた方の座敷には、師匠の代稽古をする名取のお弟子が本箱を間にしやぐまを唐人髷にしたお酌に糸をかけ代へてやつてゐるのが、葭戸を越してぼうと見へます。何の氣もなく、そつちを見やつたおもんにお弟子は、だまつて首を下げて會釋しました。

「お師匠さんもうお出かけ?」

「この頃は三時半に開幕(あく)もんですからもう出かけたの」

お茶器を揃へながらおかみさんはこう云つて、につこり笑つて見せるのでした。

――女二人は苦勞のなさそうな顔をして芝居の話、流行物のこと色々に話を取りかはし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

合ふのでした。おもんは何にも忘れて了つてゐます。——がらんとしてまとまりのつかない頭を、強いてひきしめるのでもなくさして頭をつかふことのない呑氣な話を夕方になるまでしつゞけてゐました。どこかへ行つてゐたとみえて、見えなかつた幸三郎も、何時か茶の間の隅に遠慮らしく新聞なんかをひろげて居りました。おもんがこゝの家に毎日來てゐた頃はまだ、この息子はほんのよちよちしてゐた赤ん坊だつたのに、今ではもう見るからに若々しい血がその頰の下にながれてゐるらしく見受けられる程成人して了つてゐます。……時々自分にも覺えてゐる子供の時の話などだとうつむきながら口を入れる、おぼこらしい樣子をおかみさんは嬉しそうに見やりながら、去年小學校を出るとその後は節付の家へ通はしてあつて、もう少したつたらば芝居の方へ出そうと思ふ等と、話すのでございました。

話の切れ間を見付けるとおもんは歸り仕度をはじめました。

「まあいゝぢやありませんか——ゆつくり遊んでゐらしやいましな」

とひきとめるのを、おもんは又と云つて立ち上りました。

「ぢやそこまで御一緒に出ませう稽古へ行く時間ですから」

と云ふ幸三郎と連れだつておもんは杵屋の家を出ました。

もうその細い通りには蚊燻しの匂ひがどことなくただよつてゐます。——

「幸ちやん、あなたをおぶつて私の轉んだのはこゝいらよ、何でも！」

おもんは、ちいさい時分幸三郎をおぶつて轉んだ事を思ひ出してこう云ひました。

「えゝ、しんこ細工の雀踊りを買つてもらつて、——あれがぺつしやんこになつてつて泣きましたつけね」

幸三郎は氣まり惡そうに赤く顔をそめて低く答へるのでした。

新道は細い堀割に突き當つてゐます。二人は電車路の方へ堀割にそつて行きました。

「幸ちやん、あなたどつちの方へ行くの」

「濱町の方、もつちやんはこゝから電車へのるんですか。よかつたら…………」

「え……何に？」

「よかつたら大川端の方へまで歩いて行きませんか、涼しいでせうよ」

「そうね——」

おもんは幸三郎が駄だつ子らしくそばをはなれないのに、無下に別れにくゝなつて了いました。そして一旦出た電車路を後にして代地へ通ふ露地口へもどつて行くのでした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四

褄をとつた藝者衆が箱をもたせて、もうちらほら行きかひます。……すれちがひざまに、幸三郎に挨拶をして行くお酌や若い藝者達を、幸三郎はあれが稲屋のお梶さん玉中村のお三ちやん等と、一々おもんに敎へるのでした。

柳橋の下あたりは火をもやしてゐる舟もあります。潮はあげてゐるらしく向ふ岸の灯や橋のあかりを浮かばせて、びたびたとうねつて川は遠く流れてゐます。おもんは丁度涼臺のやうに少し突き出した河岸端の板のやうなもの丶上へ、しやがみました。そして小石をひろつては投げて見たり砂の上に字を書いて見たりしては、涼風をまともにあびてゐるのでございました。――

「もつちやん、新川の文さんお覺えてゐるでせう」

「知つて丶よ」

おもんは、今出た二人の男と一人の女をのせた向ふ兩國へ行く渡舟の舟頭の向ふ梅に助と書いた袢纏を見送つてゐましたこ

「この間の、おさらいに來たんですよ立派な旦那になりましたよ。――そしてね、誰れかゞ文さんが根よくお稽古に通つて來た時分のことを云ひ出したんです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と急に、文さんが（今日はおもんちやんは來ないんですか）と聞きなさるんです。そいから、お母さんが、來なさる筈だけど未だ見えませんねとそいつたんです。それから文さんは久ばらく待つてゐました。けれど遂々晩になつてもあなたが見えないんで、もう來ないのだらうつて殘念だ殘念だと云ながら歸つてゐらしやいましたよ、そしてね今度逢つたらよろしくつて――」

「まあ、文さんが、そう」

おもんは、未だ自分が十五か四の時分だつたらう、文さんが芝居へ連れていこうかの、なんのと云つたり、藤見に行きましたからと云つては、藤棚のかんざしを買つて來て呉れたり、三社樣のお祭りにお師匠さんとこの皆なで出かけた時わざ〳〵後へおくれておもんに千代紙を買つて呉れたりしたことを思ひ出しました。そして誰れかゞ、「おもん文吉中宵月」だのやれ何だのと、からかつたと云つてはもう、文さん何かさにも云くもんかと怒つて泣いてさわいだ、ことを考へ出して、おもんは、何だか一人お可笑しく、なつて來ました。――

「私からもよろしくつてね」

「又今度のおさらいには來ますつて………」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

芝居のつけたてに見るやうな、油墨をなする樣な空の黑い晩でございます。――すつかりあたりは暗くなつて了つて、幸三郎の白い着物だけがはつきりと、目だつて暗に浮いてゐます。

永代橋の方へまがりなりに行く河岸通りには、一つ辻占ひの圓るい灯提が、ぽつかり見えるぎり淋しく夜になつて居ました。

川風が身に寒いと思ふくらい涼しくふきます。

「さあ、もう歸りませう、ちつとの間に暗くなりましたね」

立ちあがりながら、袖をかき合せたおもんの指先きに、何やら、かたい手ざわりのものがふれました。新之助の手紙――おもんはすつかり忘れて居たんです。手紙――（お目にかゝるまじく）と書いてある手紙――おもんは顏の色が、自分でも變つたろうと思つた程ハツとしました。こうして幸三郎なんかと河岸を步いて居るのなんかを、新之助が見たら――おもんは何だか、一ぱいに黑雲が胸へおいかぶさる樣な氣がして來ました。

「さよなら幸ちやん、私歸へるわ」

おもんは云い捨てる樣に云つて、人目もかまわず長襦袢の麻の葉をけちらしながら電車の

方へ馳け出して了ひました。

何とが幸三郎が云つたやうではあるけれど、おもんは耳にもかけやうとしませんでした。

五

×町で電車を下りるとおもんはすぐ赤いポストを見ました。

一思ひに投げこむつもりだつた、手紙はやつぱりそのまゝ袂を抱えてポストの前を通り越して了ひました。

黒い屋根の重り合つた坂上に、赤い、お伽噺の魔法にかゝつた月のやうな、赤い三日月が大きくあがつて居ます。

おもんは、いつものやうに新之助からの手紙が家にもしや待ては居ないかしら――と云ふやうな氣に、いそがれて、ぬける程疲れた足をひきづる樣にして、家の方へ急いで行きました。

――八月十三日夜――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

占ひ ―岩野清―

幹子は例になく早く目が醒めた。其日は花時には珍らしい程風も立たず穏やかだつた。四月の月に這入つてから斯う云ふ長閑な日が續いたので、上野飛鳥山あたりも早咲きの單へ櫻は滿開した。日々の新聞に二號活字で花！ 花！ 花！ などゝ賑やかな見出しをつけて人の心をそゝり立てた。

幹子は此四五日來、良人こそぐはない氣分になつて針の先きにふれるやうないら／＼した日を送つてゐた。机や書棚や簞笥や鏡臺やで只さへせまい三疊の自分の居間に引込んで一日中良人と口もきかずにゐた。毎日／＼日課にしてゐたイプセンの建築師をよむことも氣が進まないので四五日來机の上に讀みかけの所を開いたまゝになつてゐた。良人の書齋との境の襖をぴつたり立て切つて寢るにも起きるにも他人同士のやうに顏も見合せなかつた。平常はめつたに先へ寢てしまうやうな事はなくたいがい二時三時になつてもあくび一つしないで良人の寢るのを待つてゐる習慣になつてゐたのであるが、良人と口をきかない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やうになつてからはねむくもないのに十二時頃になると自分の居間のランプを消して寢たやうな風をしてゐた、其癖常から寢付きの悪い幹子は中々眠りにつけない。夜具を顔の上までかぶつて隣りの物音をきゝまいとするけれど、興奮して一きわ神經が過敏になつてゐるので、頭がいよ〳〵さへてねむる所ぢやあない。

原稿紙の上をペンの走る音、陶器の火鉢の椽に煙草をはく音、いつも物を書く時にする癖の鼻をくん〳〵云はせる音までが耳もとでするやうに幹子の神經に響く。

「あゝ又例の癖をやつてゐる」と思つた。すると顔の上にのせてゐる夜具を徹して、隔ての襖紙の向ふの良人の姿が眼にみえる。右の手にペンをもつて煙管を手にしない間は絶えず髪の毛の中を左の指でせゝくる様子までがあり〳〵と浮ぶ。

良人が髪の毛をせゝくる癖は物を考へたり書いたりする時ばかりではない。友人と碁や將棊をさす時でも、本をよむ時でも、左の手さへ明いて居ればいつでもする癖である。幹子はいつもそれを氣にして、

「そら又手が――」とよく注意した。すると氣が付いて直ぐ降ろすが、二分と經過しない中にもう髪の毛の中に指をつッこむ。時々は幹子が默つて良人の側に行つて其左の手をはらひ落すこともある。三年以來その癖は一日も出ない事がないので、幹子もとても直ら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ないと思つて成るべく見ないやうにしてゐる。それでも見るとだまつてはゐられなかつた。
「あなたも隨分癖の多い人ですね。」幹子は度々こんな事を云つては笑つた。さうすると良人もまけない氣になつて、
「自分だつて來たての時分にやア「年中年中」つて話をする度に云ふ癖があつたぢやないか。」
「だつて、私の癖はそれきり直つたぢやありませんか。あなたなんぞは三年此方今たに直らない。あたしが毎日〳〵あれ程うるさく云ふのに。」
「おれのは直さうと思はないからさ。」
「それぢやアなぜ頭へ手をもつてゆくのです?」
「頭がかゆいからさ。」
「かゆければ思ふさまかいたらいゝ。見てゐるとあなたのはかくんぢやアない。指の腹でなでてゐるんですもの、なんて云つたつて矢ッ張り癖に違いない。」
幹子はこんな平常の座談などがふと思ひ出された。すると眞面目くさつてお互ににらみ合つてゐる今日此頃の冷やかな氣分が少しゆるんで來た。
「もう喧嘩も此位にしてやめませうね。」と良人の側に行つて機嫌を直してみやうかしら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と思つてもみた。

然し此間中からの良人の自分に對する態度を考るとさうくだけて出る氣もなくなる。

夕飯をすますと、極つて近所の友人の家へ出かける。大底の場合十時を過ぎなければ歸宅しない。して又歸つて來ても直ぐ机の前に座つて書き物を始める。茶なんぞを湯のみに入れて持つて行つても飲まうともしないで冷えてしまふまで忘れてゐる事もある。そうして三時、遲い時は四時迄も原稿に向つてペンを走らしてゐる。

「下宿人だつてこんな無愛想な人はありやしない。ついぞのんびりと向ひ合つた事はありやしない。一體夫婦と云ふものを何と思つてゐるんだらう。筆ではよく愛がなければ夫婦ぢやアない。形式だけ夫婦と云ふ名はあつても事實は他人同樣なんだ。なぞと戀愛と結婚とを離すことの出來ない人の癖に。」實生活の上では矢ッ張り世間普通の平凡無味な夫婦と同樣なしぐさをしてゐる。そしてよくこんな笑顔ひとつ見せない淋しい生活をつゞけてゐられるものだ。もしこれがまだ一緒にならない戀人同士の間柄であつてこんなに落付いて相手の顏もみずに物足りなくも感じない人があつたら、それが戀人と云へようか。

幹子が良人に對してあきたりないのは多くこの考へから起るのであつた。

「君は何時來て見てもきつと仕事をしてゐるね。」とつい近頃近所に住んでゐる友人が折

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

々將棊をさしに來た時さう云つた。

「僕は何んにもしないでは一時間もゐられないんだ。だから家にゐる時は書いてゐるし、それでなければ友人と話すか、外に出るかするんだ。」と良人は自分の仕事に對して熱心だと云ふことを誇つてゐるらしい口ぶりで答へた。

此話をきいてゐた時でも幹子は心の中で不快だつた。

仕事々々つて一日中妻に愛情のある言葉一つ與へるのさへ惜しい程大事なものなら、天から結婚などしないがいゝ。それがために、其良人一人に愛をそゝいでゐる妻の心を犧牲にされてはたまらない。男の性慾の起つた時だけの道具として備へて置かれるだけでは滿足できない。こんな屈辱には堪えられない。

幹子は心の中でいつものやうに又同じ事を考へ始めた。

「あちらがさう云ふつもりなら私だつてそれに相當の取扱かひをするからいゝ。家庭なんぞ無視して私は私だけの世界を造るからいゝ。もう私は元の獨身生活に歸つたと思つてゐやう。隣りの室にゐる男は下宿人だ。良人ぢやアない。あの人と私は肉體も精神もまるで關係のない赤の他人だ。さう思つてゐれば、あの人が何をしやうと私の知つた事ぢやない。一年中口をきかなからうと、苦痛とも思はないでゐられる。あしたはどこかへ獨りで遊び

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に行かう。花も盛りだと云ふし、誰れか友人でも誘つてお花見に出掛けよう。」

隣りの室ではペンを筆立に投げ込む音がした。次で障子を開ける音がする。せか／＼と足音あらく私の居間の前を通つて便所に行つた。やがて書齋に返つて着物をぬぎすてる。手荒く夜具を引かぶるらしい音。家の中は一時にしんとした。どこか近所の家で時計が三時をうつた。

良人も氣分がいら／＼するのだらう。常なら横になると五分と經たない中に寢付く人がいつまでも／＼寢返りを打つて折々大きくためいきをしてゐる。あの人も矢つ張り氣持はよくないのだ。いくら仕事が生命だと云つてゐたつて他の事を丸つきり無關心ではゐられないのだ。妻を相手にしないやうな態度をとつた報酬だ。氣味がいゝ。

幹子は襖にへたてられた隣室の人の身じろぎに耳を傾けた。

二

翌朝良人が口をゆすぎに湯殿に出て來た時、幹子は自分の一番好きな大島お召の小袖に消炭色のうづら縮緬の羽織をつけて外出の用意が出來てゐた。又遊びに出るのかと良人は苦り切つた顔をしてちらと幹子を見て其儘ゴシ／＼齒をみがき出した。

「私、一寸出てまゐります。」

幹子は臺所口に立つて良人に云つた。良人は何とも云はなかつた。幹子はさう出るだらうと豫期してゐた。それでもこちらは云ふ事だけ云つて置けば自分の義理はすむと思つて小女に下駄を出しておくれと云ひつけてすぐ玄關へ出た。

山の手線の電車停留場に行く道の坂の下の櫻は單へばかりなのですつかり咲きほころびてゐた。

「花もこんなに盛りになつた。どこへゆかうかしら。」胸の中で幹子は行先を考へた。

「獨りで歩いたつてつまらない。さうだ水道橋の近所のT子さんの家へゆかう。あの方なら大底留守なことはあるまい。」

幹子は急な坂をのぼりつめてホッと呼吸をついた時やう〳〵行先を思ひついた。其坂から一町程しかない山の手線のステーションの切符賣場で幹子は水道橋までの切符を買つた。

プラットホームには大分花見に出掛けるらしい若夫婦や、子供をつれた細君や、紳士や大勢電車をまつてゐた。

あゝして世間の人は夫婦親子友人が相伴つて浮々と樂しさうに出掛けて行くのに、私はたつた獨りで淋しい氣分を抱いて此處にゐる。どうせ花を見たつて、友人と話したつて、心の底の底の自分の淋しさを忘れ得られるものぢやない。只時間つぶしに過ぎない。あの

墓の中のやうな光明のない家に、良人と無言の爭鬪をつゞけてゐる苦痛に堪えられないから出掛けて來たもの丶、自分としてこんな空虛な日を送つてゐると云ふことは無意義な事だと悔ひられもした。友人達は女ながらも皆文藝のために自己を修養することに努力してゐる。皆自分々々の事業をもつて活氣のある生々した生活をしてゐる。私がこんな荒んだ氣分になつて先月まで友人達に後れまいとして勉强してゐたのに此頃では本をよむ氣もしない。私が日々こんなにして時間を空費してゐる中に友人達は、日々新らしい智識と、新らしい空氣とを味はつて若々しい精神を發達さして行つてゐる。私はかうして行つて結局どうなるだらう。友人達から一歩々々遲れて、果ては友人達にも落伍者として相手にされなくなるだらう。幹子はもう自分の其時の淋しいみじめな時代の落伍者となつてしまつた姿を今目の前に見る樣な心持がした。

「かうしちやゐられない。世間は一日〱に進んで行つてゐる。一時間だつて徒に過ごしてゐては自分が遲れるばかりだこれから歸つて勉强しやう。此四五日徒費したのを取返さう。」

然し幹子は又心の中で、あの苦り切つた良人の顏を思ひ出すとどうしても家へこのまゝ、歸る氣はしなかつた。いやだ〱あの良人の冷たい顏をみるのはたまらない。どうなつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて此氣であの人の隣りの室で落付いて讀書なんぞしてゐられるものか。遊んで〳〵遊び疲れるまで家へは歸るまい。

乘客は首を延ばして左手のトンネルの方を見てゐる。幹子も思はずそちらを見ると、運轉手臺だけ見えた。

「來た〳〵。」

待つてゐた乘客連は異口同音に叫んだ。

電車は滿員だつた。さすがに大きな山の手の電車もつり皮のあきさへない。幹子は雜集の中に交つて立つてゐた。

水道橋で停車を捨てゝ〇〇町の友人の家の帳場に立つた時は、平日の通りの氣持のいゝ幹子になつてゐた。

「T子さんはいらつしやいますか？」

「あなたは？」

「わたくし、淺野！」

帳場にゐた小娘が奥に通じに行くとすぐにT子はにこ〳〵しながら出て來た。

「まあ淺野さん！　お珍らしいこと。さあどうぞ。」先に立つて通りつけたいつもの居

間に案内した。

「ほんとうに隨分お久しぶりね。今日はどちらへ?」

T子は例の愛想のいゝもてなしぶりで座に附くや否や懷かしさうにかう云つた。

「あんまりお天氣がいゝし、花も咲いたしするので遊びに出て來ましたの。」

「まあさう。ほんとに珍らしいのね。私もね昨日まで客がたてこんで忙がしかつたのよ。それでも今日は珍らしく暇なのでやつと久しぶりで机に向つた所なの。」

T子の机の上には今迄書いてゐたらしい原稿の書きかけや、新らしい雜誌などが一ぱい載つてゐた。

「あなた近頃何を書いてゐらしつて?」

「あたし!」と幹子は自分で耻ぢるやうな氣分がしながら、「近頃は氣がいら〳〵してちつとも書きませんの。でもあなたは感心ね。其忙がしい中で書いていらつしやるのだから。」しみ〴〵心から感心して云つた。

「書間の中はそりやア忙がしくつてぢつと座つてゐる暇なんぞないのよ。今日みたいにかうして机に向ふなんてほんとにめつたにありやしない。」

世間並の娘なら、親がゝりで着物の詮義でもしてゐる年齡なのに、一軒の宿屋の主婦に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なつて親妹弟を養つて男女を使つて切りまわしてゐるT子さんは、それだけでもゑらい。それに其忙しい中で創作をさへしてゐる。幹子は常から此人を尊敬してゐた。年は自分より七つばかり若いのに、とお世辭でなく感心してゐた。

客商買をしてゐるだけT子は相手の氣分を見るのに敏かつた。

「あなた、今日は元氣がないのね。どうかなすつて。」

「えゝ、此間中から氣が沈んで仕樣がないの。それで今日は氣分を變へやうと思つて。」

幹子はかう云つてゐる中にいつか眼に涙がみなぎつて來た。然し年下のT子にみられては耻かしいのでそれとなく顔をそむけて、

「お暇なら外へお出なさらなくつて?」と話を外らした。

幹子はいつもかうである。自分がいくらいら〳〵してゐても、友人などに愚痴を云ふのを耻ぢた。たとへどんなに親しい友人でも、自分と良人との間柄の事は話したくない。話して心配をかけたからつて第三者としてはどうする事も出來ない。又第三者によつて解決のつく樣な事なら自分で仕末をする。又一日でも一緒にゐる間は、良人の惡口を云ふのはやがて自分の恥を表明するものだと思つてゐるからだ。よく世間の細君が良人の惡口を親類や友人にくど〳〵並べたてるのをきくと、そんなに御良人がお厭やならお別れなすつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らい〳〵ぢやありませんか。」と幹子はたしなめてやつてゐる位だから。

T子は「それでも私今日は出たくないの。」と云つたので幹子は强て勸めもしなかつた。

話は同じサークルの友人達の上に續いた。

○子さんは○畫會へいよ〳〵出品したが大變よくかけてゐるとか。M子さんは近來一生懸命に長いものを書いてゐるとか。A子さんは大變勉强してゐるらしいとか。中々つきなかつた。然しいつも程話がはづまなかつた。

幹子は話のとぎれる度に氣分の沈んでゆくのを覺えた。かうして好きな氣の置けない友人と話してゐても心は少しも浮き立たない。目には苦りきつた良人の顏が見へる。今夜歸つても家には笑顏を自分にみせて吳れる人はない。歸つたかとも云つて吳れる人はないんだ。又しても遊び步いて良人の世話もしない。と良人は一途に怒つてゐるんだらう。私の心では無意味に遊んで步いてるんぢやアない。滿たされない愛の渴望。そのやるせなさの爲にかうしていら〳〵した心のまぎらし場を作つて出るのだ。

幹子は一事に偏し過ぎる性質を持つてゐた。周圍の氣分に同化する事や、刹那の氣分に醉ふことの出來ない女であつた。

「ぢやア夕御飯になるまで○○座へ行つて一幕見て來ませうか。」

T子は幹子の何か屈托してゐる様子を察して誘つた。

○○座はT子の家から二丁とない所にあつた。

○○座では丁度中幕の忠臣藏外傳彌作の鎌腹をやつてゐた。

新派と舊派をつきまぜた樣な其芝居の俳優の舞臺ぶりは武士道德から起る悲劇を喜劇のやうに滑稽にみせた。

幹子はどうかして一つ考へにこり固まつた自分の現在の苦惱から離れてみやうと勉めた。何んにもわすれて舞臺に心を引つけてみやうと勉めた。

然し群衆のやうに可笑しい所を笑ふ事が出來なかつた。只彌作が代官の七左衛門を殺した後鎌で腹を切つて、痛い／＼と叫ぶ所では神崎與五郎や彌作の女房の嘆きにつりこまれて泣いた。

外に出てからT子が

「矢ッ張り古い芝居ては泣かされるわね。」と云つた時幹子も心では自分を考へてゐながらついつりこまれて泣いた事を思つて、

「えゝ」と同感した。

引止められるまゝに夕飯の御馳走になつて又暫く話した。

T子に送られて水道橋のステーションに向つたのは九時過ぎであつた。

「私はね此頃毎日〳〵出歩いてゐるのよ。寝る時間になるまで家へ歸りたくない。夜が明けると今日はどこへゆかうか、どこへ行つて時間をつぶさうかと考へるの。あしたはどこへ行つたらいゝかしら。」

道すがらT子にかう云ふと、

「ぢや又明日いらつしやいな。毎日でも。」T子はやさしく慰めるやうに云つた。

三崎神社の境内を通りぬけると、その玉垣の外に、紙で張つた看板の中に薄暗いランプを入れた大道占ないが、客もないのでぼんやり腰かけてゐた。

ふと幹子は占なひと云ふものはどんな事を云ふものか聞いてみたい様な氣がした。

二三歩ゆきすぎてから小聲で

「T子さん。あすこに占なひがゐてよ。見てもらはふかしら。」と相談した。

「えゝ占てもらひなさい。あたしも占てもらつてもいゝ。」

T子は横に幹子は正面に立つた。易者は、思ひがけないと云ふやうな顔をして薄暗いランプの光で幹子の顔を見た。

T子はニコ〳〵笑つてゐる。幹子も微笑しながら棘髯をはやした易者の顔を見ながら。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何と云つたらいゝかとためらつた。氣が付いてみるとテーブルの黑ずんだ赤毛布の上に巫竹と算木と左の手の形をかいて指や筋に細かな字で名稱の書いてある紙が載つてゐた。

「手相を御覽なさるんですか。」

「いゝや外の事でも、たとへば身の上……………」

「あゝさうですか。では身の上を見て下さいまし。」と云つて置いてT子を見ながら、

「生れて始めて占と云ふものを見ていたゞくんだから見當がつかない。」と微笑した。胸の所へ兩袖を合せてゐたT子は默つてうなづいて見せた。

易者は眞面目顏して年はいくつだとか何月れ生だとか聞いてから、うやうやしく巫竹を持つて拜をして、其中から一本を拔き取つて左の方に於て、更に殘りのを半分に指でわけて口の中で何かとなへながらパチパチと二本づゝ指ではじいてゐた。二度づゝ繰り返しては算木を置き更え、又更に始めから同じやうな事を繰り返しては六つの算木を表を出したり裏返したりした。

幹子は始終微笑しながら、卓子の上の左の方に置いてある易の本や手相の圖を見てゐた。

易者は一通り型の通りをすませると巫竹を置いて暫く目をつぶつて考へるやうな風をした。さうしてくどくどと地水火とか何とか幹子には解らない易の文句を云つて置ひて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「あなたの御運勢は、今年は誠によい。すべてが思ふ通りに成る。五月がいゝ。六月は少し家内にもめがあるが然しこれとても大した事はない七月八月九月十月皆好い、と其度に算木を裏がへしたり表をむけたりしながら、十一月は少し惡いが十二月はまたいゝ。かう云ふ工合ですからつまり本年はあなたの御運勢はたしかに好いのです。

幹子は易者の云ふ事は大して氣に止めてゐなかつた。只算木の眞ん中に五分ばかり朱を入れてあるのや、易者の艶のない皮膚やあかじみた姿を見てゐた。

いつの間にか幹子の後ろには近所の商店の子僧らしい股引をはいた十三四の子供や、職人體の男が立ち止まつて聞いてゐた。

「あなたも占てお頂きなさらなくつて?。」

易者が云ふだけ云つて口を閉ぢた時幹子はT子に易者へお世辭のつもりでかう云つた。

「人が立つからあたしは又今度にしますわ。」

二人は水道橋停車場の階段の下で別れた。幹子は一人重い足どりで階段を登つた。待合所には幹子の外にだれもゐなかつた。改札口で驛夫が手だけ動く人形の樣な何の表情もない形でペンチを入れた。

幹子はそこから下の三崎神社の通りを見下ろした。今占てもらつた易者は暗いランプの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

蔭に先刻のやうにぢつとこゝんでゐた。

「あなたの御運勢は………」易者の云つた言葉がふと思ひ出された。「私は今、自分がどうなつて行くか分らない位精神が動搖してゐるのだ。今夜だつて明日だつてどんな動機で、どんな風に變つて行くか自分ながら豫期出來ない位危機にのぞんでゐるんだ。それを夫婦相和の卦だと云つた。馬鹿々々しい。どうせ大道易者に人の心の奥底まで見すかせる譯もないが、それにしてもあんまり滑稽な觀察をしたものだ。」

幹子は冷たい笑ひを口元に浮べた。

巣鴨行の電車が水道橋を渡る音がゴーッと響いた。暗の中をつき破るやうに進んで行く。幹子はふとレールの向側の待合所に立つてゐる「すゐだうばし」と云ふ立て札に目がついた。するとつい二三日前友達から借りて讀んだ「煤烟」を思ひ出した。要吉が朋子を此處で待合はしたんだ。あの主人公はどんな氣持で此處に佇んだらう。約束の時間になるのを五分八分と命をきざまれるやうな思をして此土をふんで立つてゐたに違いない。

「あゝ私ももう一度さう云ふ心持を抱いて此處に立つてみたい。いや此處には限らない。どこでもいゝ。戀の女主人公になつてみたい。夫だの妻だのと云ふまなぬるいたるんだ形式を捨てゝ戀の目に向つてみたい。熱い唇に觸れてみたい。」

驛夫が幹子の前を通つた。氣がついて見ると電車が目の前に止まつてゐた。

（をはり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

手紙の中から ——らいてう——

拜啓、一月一日出の御手紙は山の方へ轉送されて、只今あなたの所謂可愛い弟でそして私の可愛いい弟のHからの手紙と一緒に私の手に落ちました。

Hは昨日山を下りたのです。

愛するものの去つた後の靜かな、內へ內へと沈もうとする心で、白樺の樹や、靑草の山や滑かな水を前にして一人仕事をとつてゐるこの落着いた今の自分の中に突然こんな不穩當な手紙が飛込んで來やうとはとても今が今まで思ひもつかぬことだつたのです。

東京から手紙の來ることさへあまり喜んでゐない今の私に「至急親展」などといふことはその文字丈でも隨分そぐはないものですのに。一體あの御手紙は御本心に出たものでせうか、眞面目で御書きになつたものでせうか、若しさうだとすれば、あなたは今余程どうかしてゐられるやうです。あなたは今滅茶苦茶に興奮してゐられるのぢやないでせうか。さうでもとらなければ私は自他に對してあまりに沒理解なあなたの頭腦に愛想をつかし、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

續いてあなたの人格を疑はねばならぬのを誠に悲しみます。

私は正直に云ひますが最初御手紙を手にした時、馬鹿に不愉快でした。次に開封して一通り讀み終つた時、大變腹が立ちました。そしてあなたに對する憎惡の念がむら〱と動きました。けれどこの腹立しさと、憎惡の念は、あなたに對する憐憫と輕蔑によつてすぐ消滅いたしました。

それはかうなのです、あなたの先の御手紙（—月—日出の）と今度の御手紙とを前に擴げて暫くぢつと見詰めて居ましたら、あなたといふものが——勿論私と且に對するあなたです——表からも、裏からもはつきりと私には見え透いて來たやうに思はれたのです、そしてあなたの今の立場と、あなたの淋しい、慘めな、あの卑劣な、ともすると淺間しい迄に見える御心根が私には寧ろ憫然に堪へぬほどになつて、さういふあなたの無法と僭越を憤るのは却て自己を侮辱するやうなものだと氣付いたからなのです。

自分より年下な者、劣つた者、弱い者、敗者の位置に置かれたものに對して自分はどうも怒る氣になれません。恨む氣にもなれません。憎む氣にもなれません。まして復讐などゝいふやうなことは思ひも及ばぬことです。それはかういふ感情を動かすことを惡いなどゝ思ふからではありません。自己を信じ、自己を重ずるところに、優者である、勝利者で

あるといふ自覺のもとにさうした心は生れやうがないからなのです。

どうも嫉妬といふ奴ほど人を無智にするものはありますまい。私は世の中に無智ほど敵し難いものはないと思つてゐますが、この意味で嫉妬無敵と申したいのです。隨分聰明な立派な青年でもこの手に捕はれますと、まるで人も我れも見えなくなつて、たゞッ兒かなんぞのやうな始末のわるいわからずやに忽ち變じ、自からは其醜さを羞ぢないのが常であります。

といつて私は何も以前に接近してゐた御承知のKといふ女――この間のあなたの御手紙によるとKがあの病的な嫉妬に狂つた時飛ばした手紙は今あなたの御手許にあるさうですが――と混同してゐるものではありません。あの女の嫉妬は徹頭徹尾女性的のものでした。けれどあなたのは嫉妬といふよりも男性の女性に對するヴアニテイから來たものだと私には考へられるのですから。

さう御自身では意識してなさつてはゐられないらしいあなたは――それもまだお若いのだから當前だと思いますけれど――私が嫉妬だとか、男性のヴアニテイだとか云ひ去つたことを屹度御快くは御受取りなさいますまい。殊に、人間といふものは殆ど誰れでも、自分のほんとの處を突き止められると怒るものです、そして極力否定し、辯解するものですか

ら現にあなたは私やHに對する今回のあなたの御行動を御自身では總て「厚い好意」から出たものだと仰有いました。眞にさう認めて入らつしやるかどうかは疑問としても相手に向つてさう公言して憚らないで入らつしやる丈は事實です。しかもその厚い好意を賣物にしてそれに對する報酬として私の心の幾分かを要求して入らつしやるらしいのも事實でせう。

私は當事者の口から好意々々といふやうな言葉をきくとついそれ丈でも反感が起ります。そして聲を出して笑ひたくなります。惡いことかも知れませんがあなたの所謂厚い好意といふ御言葉をそのままに頂戴して何の考へもなく卒直な無邪氣な感謝の心を呈するには今の私は少し年をとり過ぎて仕舞ひました。

あなたはお怒りになるかも知れませんが、これから私はあなたに對する――勿論あの前後二回の御手紙を通じて見た丈のあなたです――私の露骨な感想を述べて、私のこれ迄及今後のあなたに對する態度を明にして置かうと思います。

Hの友達――といふのもあなたから伺つたのでHからきいたのではありません――といふ以外あなたに就いて何も知らなかつた私は最初の御手紙を見た時からひどく不愉快でした。私の可愛いゝ弟の只一人の友達だといふことですから出來ることなら善意をもつて解釋したいと時には眼を閉ぢてまでも努めましたけれどあの中から見出した多くの不純な或

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ものをどうも否定することが出來ませんでした。私は考へれば考へるほどあなたの心事を疑ひました。そしてお逢ひするのはもとより、手紙を差上げる必要も毫もないと思ひました。それがあなたに對する私の態度として最も正當なことでもあり、又私としてあなたに對する出來る丈寛大な態度でもあり、せめてもの善意の表白であると信じたからです。けれど私も只一度あなたにほんの世間的な、形式的な御禮狀を差出さうかと一寸考へたことがありました。併しそれはすぐ打消して仕舞つたのです。いかに私の心から何ものかを受取ることを期待してゐられるあなただからつて、又私にどうかして近づかう、何處かで接觸を保たうと望んでゐられるあなただからつて、又それが何程男性としてのあなたのヴァニテイを滿すものであらうと、又は私とHとの事件を只第三者として傍觀する淋しさに堪へないにせよ、若しくは若い男にありがちな好奇心から若しくは興味から自分もこの事件の何處かに適當な位置を作らうとあせつてゐられるあなたにせよ（併し私にはこの最後のものはあなたの中には殆ど見出せないやうに思はれますが）そんな私の心にもない虛禮をお貰ひになることは御本意でもあるまいし、私もそんな手紙はどうも書きたくなかつたからなのです。

ところが其後―月―日出の　の手紙の中に「Nにはお逢ひになつてはいけませぬ、手

紙も御出しなさいますな、あの男は用のない男です、あの男の義務はとうにもうすんでゐるのです、あれ以上私達のことに立ち入つて何をいふ力もあの人は持つてゐない筈です。私からあなたに申上げることはあつてもあの男からあなたに何も申すことはないわけです。あの男は自分の作つたかた通りに他人をおごらせやうとするのです。そんなことが出來るものですか、あの男は自分と他人とを一緒にしてゐます、あんまり他人のことにたち入りすぎます、私は私ですものを。」といふ言葉を見出しました。Hは私の心を察し、私の考へてゐることを、私を喜ばせやうと云つてくれたのかも知れませんけれど、私はふたりの考の一致をよろこんでいよ〳〵最初の決心を固めて仕舞ひました。

若し私が今少し人の機嫌をとることの上手な利巧者であつて、あの場合平氣であなたに一片の白紙に黑い文字を出した御禮狀とでも言ふものを差上げてありましたなら、あなたは屹度それに御滿足なさつて、今度のやうなあんな御手紙は御書きにならなかつたことと思ひます。無論まだ御記憶のことでせうが、「私があなたに對して、私の立場として取つた態度は私以外の誰れ人が衒らうとより外にあるまいと思はれる處であつたと思ひます。併しそれに對してあなたは私にどうして下されたか、思ひ切つた（私は思ひ切つたことだとは少しも考へられません。私共の愛の發展に伴ふ自然の行爲だと思つて居ます。）今度の行を

決行なさるにハガキ一枚も飛ばしては下さらなかつた」など〻。

私はあなたの今の御心を憐んでは居ります。けれどどちらが果して正當でせう。私はあなたに御願ひいたします。あなたが今少し落着て「自分は一體Rに對してどんなことをしたのか」といふことを反省なさることを。あなたは物を仰有る前に、又なさる前に今少し御考へになる必要が確にあると思ひます。相手に對する何等の理解もなく、頼まれもせぬに、獨り合點の途方もない見當違ひに出た場合、たとへそれが眞實の好意からであつたにせよ、相手にとつては隨分迷惑なものです。おせつかいもい〻加減にして貰いたいとつい云ひたくもなります。おまけにその迷惑を恩にきせ、恩人の特權かなんぞのやうに相手の行動にいつまでも干渉したがつたり、何等かの無形の報酬を相手の心に求めたりするに至つては、そして自己のヴァニティに或る滿足を與へやうとするに至つては其心根の陋劣がまづ其人に對する總てを不愉快なものに思はせるのはもとより、相手たる人にとつては全く迷惑以上の邪魔者でせう。

私は可成り忌憚なき云ひ方をいたしました。といつて私はあなたを憎む氣は少しも有つてゐないのです。何故ならあなたを弱い男だと思つてゐますし。又あの最初の手紙の中に御書きになつた、あなたは知らないかも知れないが、私とあなたとは決して路上の行過ぎ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の人ではない、何故ならHにあなたが逢はない前からHは私のかあいゝ弟であつたのだからとか、（H宛のあなたの御手紙（たしか手紙二通と葉書一枚だつたかと私は思ひますが）やKさんの御手紙はHより先きにまづ私が見るやうにしてゐたとか、Hに昨夏あの最後の手紙を書かしたのは自分でHは只清書した丈なのだとか、（この事はあの最後の手紙を通してHに對して當時懷いた私の或疑問を解くに十分なものです。私はそれがHの本心でないことは直覺的に分つて居ました。けれどあの技巧の多いのと、惡い意味での餘裕のあり過ぎるのがどうも不思議でならなかつたのですから。）あなたとKさんとの手紙を保管する任に當つたものは實に自分だつたとかいふやうな意味のことはHの蔭にかういふ人のゐたといふことが已に私にとつてはあまり快いことではありませんが、かういふことをさも得意らしく特筆大書なさつたあなたの幼げな、あまりに見え透いた御心の働きは寧ろ可愛らしくも思へた程ですから。併し折角ながら是等が皆事實でも、それはあなたとHとの親しさの證據にはなりますが、私とあなたとが路傍の人でないといふことの證明には不十分だと思ひます。ましてあなたが勝手になさつた是等を以て私に恩をきせるといふことは猶更出來ない筈です。

私は改めて明に申して置きますが、Hは私の可愛いゝ弟で、私はHの姉なのかも知れま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せん。けれどＨの友達は同時に私の友達だとは云へません。私の知らぬ時、Ｈの友達であるあなたがＨに對してなさつたことはそれはもう色々ありますでせう。けれどそれはＨに對してなさつたことで私に對してなさつたことではないのは申す迄もないことです。從つてＨはあなたの御世話を受けてゐるかも知れませんが、それは私の知る限りではありません。

あなたは一體私に對して何をしたと云はれるのですか。

あなたはともするとＨとあなた自身とを混同したり、Ｈと私とを混同したりして入らつしやる、だからあなたの仰有ることがだゞつ兒の言ひ草のやうになるのでせう。

よくお聽きなさい。あなたは私に對して何の權利もおもちにはなりません。從つて私はあなたに對して何の義務も負ひません。私が私自身よりよく生きむがために如何なことをしやうが、それがどれ程あなたから見て思ひ切つたことだらうが私の自由ではありませんか。その每度にあなたに通知したり、「ハガキを飛ばし」たりする義務が何處にありますか。

あなたはあなた御自身の立場を知らねばなりますまい。

それからこれは私の容喙すべき限りではないかも知れませんが、もし少し許りＨとあなたとのことについてほんの傍觀者としての感じを述べることを御許しになるなら、Ｈに對

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

するあなたの態度はまた友達としての權限を越えてゐやしないかと考へられるといふことを申したいと思ひます。Hが未丁年者か、不具者か、精神病者でない以上、あなたはあまりに彼の行動に干渉し過ぎると思ひます。殊に戀愛事件に於ては――尤も昨夏當時のふたりの間はまだ戀愛と呼ばるべきものの成立するまでに熟してはゐなかつたと私自身は考へますが――其當事者以外の人はたとへ親友でも助言する位な程度以上立ち入る權利はない筈だと思ひます。あなたが御自身でも言はれる通り、あなたの「少々卑屈な心から」Hに其心にもない手紙をかくことを勸めて、一旦私から遠ざけながら、今度はあなたの勝手な考から又近づけやうとしたりなさるその潛越は友達に對してあなたのとり得る態度の上々なものだとはどうしても思はれません。成程Hは自己を主張する男ではない。Hの消極的な性格の中にはあの際、Kの猛烈な嫉妬が起した暗い渦卷や、其渦卷に觸れてはぢかれたり、乘せられたり、卷き込まれたり、又はそれを利用しやうとしたりした有象無象の低級な雜言のうるささに堪へて自己の眞の感情と意志とを生育させて行く丈の强いものは實際なかつたかも知れませんが、それにしてもHが思ひ惱むでゐるに乘じて、いち早く私から離さうと企てたのは單に友に對する好意と見るにはあまりに不純な分子を多く含んでゐるやうに私には思はれてならないのですが。これは私の誤解でせうか。それとも雅推といふものでせうか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

聞けばあなたは近頃、Hの留守中に、彼の部屋におはいりになつて、H宛の私の手紙をわざ／＼引出して其裏に、君は負債がある、僕に總てを話さねばならぬといふやうなことを御書きになつていらしたといふことです。殊にその中の或葉書を一枚矢張り無斷で持出して、或人に自分が貰つたのだといつてお見せになつたといふやうなことも聞きました。そんなこと迄なさるあなたの御心持は私にはよく分つてゐます。嫉妬と男性の虚榮心は隨分色々のことをさせるものなのでせう。

けれど私はあなたを拒絶いたさねばなりません。新しい愛を尊重し、愛の純なる發育を妨げることを恐れる私はあなたを退けねばなりません。あなたは今所詮敗北者です。敗けた時は敗けたと觀じて落付いてゐるのが强者の道ではないでせうか。併し「深く骨に泌みるものがある」となほ仰有るならばどうなりとあなたの御心の少しでも休まるやうに御遠慮なくなさい。（私には何がかう迄あなたを興奮させたのかよく分らない位なのですが）

私は私の愛の爲めにはどんなことでも別段いとひもいたしません。もし私の愛とHに危害を加へるものがあるなら私はいつでも用捨なく征服いたしませう。私は大抵の場合勝利者となり得るといふ確信をもつてゐますから。

御手紙によればあなたは私への「御禮として」Hと私に關する事件の事實全部と私のH

にあてた手紙の全部とを公開するといふやうな御話ですが、そんなことでもなさらねば御心が落着かないのかと思ふと御氣の毒に堪へません。興奮したこの今のあなたが造り上げる所謂事實といふものの發表されることは私にとつて決して愉快なことでもありません し、屹度幾分の迷惑もするだらうと思ひますがさうかと言つて、腹を立てるほど眞の自分にとつて直接關係あるものでもなんでもないのです。だから安心してあなたの氣の濟むやうに勝手に記事をおこしらへになつたらそれでい〻でせう。

まだ新聞記者となられたばかりだときくあなたにもうかうした一種の記者根性が芽ざしたかと思ふと私はたまらなくいやな感じもいたします。

私も又何かの廻り合せで今のあなたのやうなみぢめな位置に立つことが他日來ないとも限りません。其時私はどんなに振舞ふことでせう。混亂した頭の中から思ひ付く復讐といふやうなことは大抵こんな處より出ないものでせうか。

何はともあれあなたは今少し落付かねばなりますまい。そしてあなた自身とあなたの周圍とを見なければなりますまい。

私は思はずも多辯を弄しました。さぞあなたの反感と憎惡と、憤怒を買つたこと〻思ひます。併し私は自分の思ふところを或程度迄無遠慮に語り得たといふことに滿足してそれら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の何なりと甘んじてお受けいたす覺悟です。

最後に念のために申上げておきますが、今後あなたから御手紙を頂きましても、又ハガキや手紙の御催促を受けましても私に於ては右樣の次第ですからこれ限り何も申上げまいかと思ひます。それが一番正しいことだと考へられますから。右御含みのほど御願ひいたします。　以上。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

山の月　―矢澤　孝―

けふ戀に痩すると云はば驚かむわれのきなよふ
をしれるひとびと

つれなくもわがふるまひしひとゞをけふか
へりみる君を思ひて

ぬめりなば谷に墜つべき細みちもうれしちか
らをみ手にあつめて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

風の音おどろかすこそかなしけれ都はなれし
山の家にも

唇をかみしむるくせ君にありわれはふしめに
さしぐむならひ

おばしまにならびて風のすずしさをそらそら
しくもなど語るらむ

旅のやどわが化粧するうしろより鏡にうつる
君の顔かな

なすまゝにさせたまふこそおかしけれ旅の湯
あがり鏡のまへに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

安らかにきみ疑はでゐたまふをあきたらぬげ
にわれうらむかな

わがごとくまことに君もおもふやとかく思ふ
こころ怨言とぞなる

さもすれば洩れくる糸の音にしも耳かすきみ
があきたらぬかな

さびしさにこころと心いやふかく結ばれにけ
り山の夜ふけて

枕かみ白き日掩ひのすきまよりゆれて青葉の
すずしかりけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かたはらにはかなき吐息もらす子をしらずや
たかく君のかたれる

口づけを胡蝶のごとくつとさけて百合のかほ
りをただへけるかな

心をばのこしてかへる夕ぐれの山の月こそ思
出となれ

わがほかのひとを思はぬちかひせよ大天地に
その生涯に

よその子の美しさをばただへけりわれをおも
ふと云ひしくちもて

ゆきずりのひさもたたふる君ゆゑにあまりは
かなくなりにけるかな

束(つか)のまも忘れがたかりつかのまも思はであり
し日にかへらまし

くりかへし繰かへすこそくるしけれども泣
きたる思出のあと

魔に似たるこころのさけびきくものかあまり
はげしく戀ふる日きたり

君すてむふたたび見じなおもはじなあまりに
胸のくるしきゆゑに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たか笑ひものを思はぬきみをみてはかながる
子を抱きしめたまへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

八月の作の中より

——柴田かよ——

縫ひなやむ
白献上の男帯
夜深み行けば蚯蚓なき出づ

土竈炭の
俵の中に啼く虫に
脅やかされて逃げて行く夏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よもすがら
芭蕉の上にころ〱と
鳴き明したるちいさき蛙

蚊がさせし
上唇のむづがゆさ
忍（しのぶ）にかろく風の轉ろべる

汗ばめる
肌をぬぐいのび〱と
ゐねつ疲れし足を掻い撫づ

初秋の
夜更けの風がさら〱と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

簾を鳴らし茄子畑に落つ
槲の葉に
夜風辷れり寝ぼけ蟬
ぢぢと鳴きつつ屋根裏へ飛ぶ

氣紛れに
砂の枕をすると云ふ
知人の事も思ふ夜半かな

チブスをば
病めりし兄が食卓を
視る眼の色に
心泣かさる

寝そびれし
夜のわりなさ一定の
蚊の囁く音にも心苛立つ

蚊やり香
たゆればさみに蚊の聲の
まされる事の何ぞ敢果なき

幾つかの
電燈の灯が寝そびれし
瞳に痛し瞼を閉ず

凝視居れば
何等かの意味ある如し

手の甲にある二つのほくろ
呼吸をつめ
暫く壁を睨みつけ
居れば不思議に胸の開くる

磨りガラスに
淡くわびしく映り居る
顔見てあれば哀しみの湧く

張り詰めし
心に視入る槲の葉の
淡黃る光る八月の色

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はた〳〵こ
風に日光掩が鳴る音を
聽きつつ居れば睡むけさし來る

淡甘き
糊の匂のなつかしく
浴衣の袖に額を押しつく

滑かに
文鳥が啼くわんはく‥
三人の兒の喚きの中を

油蟬
午睡の後のしまりなき

心を强く脅かし啼く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

玉のくもり

――青木　穠――

ひそやかに龍王の使のぼるかと闇の底なる波
の音きく

わが袂ひれともなれよ沖遠くいでゝうたはむ
うきこひの歌

ものおもひ思ひつかれてぬる床にふさはし星
のまもる芝生は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すあしにてふめばほろ〳〵夕露のちるよつめたき磯の芝原

髮などのまつはるがごと海草の波にひたりて岩が根による

手のひらの粉おしろい吹く汐風に湯殿のいよすさら〳〵となる

我が前にたてし鏡のまろぶちにつゞく海原さみどりの汐

眼にしみてうすらつめたき琅玕の玉のかざしに黒髮をまく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

水晶の玉のくもりとかろやかに我がおとろへの思はれなくに

人の子のあれしときくもあぢきなし我れにえられぬ玉の心地に

寂しげに青葉見つめておはします君のうしろに涙ながしぬ

すき透るたまの如くに美しく君にさゝげしわがこゝろかな

こもり居て我が世うたはむたゞ人は枯野の原にものを爭ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美しと見ればものみなうつくしき人の世にあ
りおもしろき哉

二人してつちかひし花なよ〳〵と咲く秋のき
て寂しさのます

秋草の花の吐息ざし身にせまる朝の庭に立ち
て空見る

たれかいふこの市中に花つくる若きふたりの
隱者ありなど

日の光つよくみなぎる青空を仰ぐこゝちに君
を見る哉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひとり歌へる ——岩淵百合——

あざけらるるままに捨身となりぬべし我をわれ
とし人を人とし

かりそめのたかひの心ふたいろにおもふ男の
あはれなるころ

君ゆゑにきみ我ゆゑにあじきなきことのつづ
くを好しと云へるや

あじきなし世界のうちのたわけものきまぐれものに與すこのごろ

さがしくもことのよしあしさだめたる驕慢ぶりの白ダリヤ哉

おのづから心そむきてあるものを戀がたりさへおどけがましき

死ぬべきやひた狂ほしく生くべきや知らず葵は赤赤とさく

おまん源吾兵衛 ——岡田八千代——

お断り

この脚本は西鶴の五人女を讀みました時に是非書き度いと思ひながら、つい其儘になつて居たのを今至急に書き上げたので、書いてしまつてから、下手なのは是非もないとしても、もう少しはつきりさせ度いと思ふ處が方々にあるのですが、何分にもメ切から度はづれに遲れてしまつたので、ともかくも此度は此儘出して頂く事にしたのです。いづれ折を見て、書き改めて見直して頂きたいのでございます。

人物、

菱川源君兵衛　廿六歳

中村八十郎（亡靈）　十五六歳の若衆

磯島　丹後（亡靈）　同

琉球屋の娘おまん　十六歳

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

村人の一、二、

駕籠舁二人。

時。　むかし。

第一場

松林の中なる孤屋。

流球屋の娘おまん。美しき若衆姿にて立つて居る。杉の木立の間から、夕日が赤々とさして、谷川の響きが淋しく響いて居る。

おまん。村人が教へて呉れたのは確かに此家に違ひない。………圍爐裏にも物が炎べたまゝになつてゐる。見臺にも讀みさしらしい御本もある………源吾樣はお留守なのかしら。

おまんは其處の障子の半ば閉つた椽に腰をかけて草履の鼻緒をしばつた紅絹の紐などを解く。夕日がやう〱薄くなつてゆく。

おまん。あゝもう日が暮れかゝつて來た。おゝ圍爐裏にも火が薄くなつた。お湯でも沸かして置かうか………

おまんは片寄せて閉いてあつた障子を兩方へ開く。今迄見えなかつた室の一部には、心ばかりの佛壇をしつらへ、其前に經机を置いて、其上に色よき振袖が片々と横笛が載せてある。

おまん。（直ぐに夫に目をつけて）まアゝ何といふ美しい振袖であらう。あゝ分つた。この振袖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の主故に源吾様もあの、美しかつたあのお髪も剃つたのであらう。わしが度々の通はせ文にも返事一ッ下されなかつたのも之で分つた。(嫉ましげにその振袖を手に取り) 女の道は一生捨てたと御仰らうとも、若衆狂ひ遊ばせば同じ事ぢや。これでは折角、わたしが惜しい黒髪を中剃して、男に化けて來たとて、何の甲斐があらう、源吾様のお心はもう此振袖ゆゑに冷たくなつて居られるのであらう。え丶、嫉ましい、振袖、お前があつたばかりにまんが願ひも聞かれず。お前があるばかりに源吾様のお心も冷えきつてしまつたのぢや……

おまん、悲しみと妬ましさのあまりに、袖を取つて投げる、袖はひら〳〵と舞つて圓爐裏の中でパッと燃える。その煙の中から飾つてあつたのと同じ振袖を着た中村八十郎袴を穿いた若衆姿で朧氣に表はれる。おまんは「アッ」と叫んで打ち伏す。同時に横笛も見えなくなる。丹後はうつ伏しになつたおまんを見て幽かに微笑んで椽の處から消えてしまふ。其間に日は全く暮れて、佛壇に上げた燈明丈が、ポカリと僅かな明を四邊に投げてゐる。おまんはまふ其儘氣を失つてゐる。間もなく、下手から、微かな炬火を照らした源吾兵衛が出て來る。美男、僧形。黒い衣を纏ひ齒のついた下駄を穿いて居る。その右の側に八十郎(以前の着付のまゝ)左の側に磯島丹後若衆髷、水色の袷かたびらに紫の帶、着流し、飾りたると同じ横笛を持ちて寄り添ふ。源吾兵衛は惱ましげに暫く歩いて、そこの石に腰を下す。

丹後。ねえ源吾様。あなたもまだあの頃は、所の風俗とて長い脇差に、お髪も後下りに髪

先を短かくお結びなされてゞございましたが、あのお姿のりゝしかつた事は忘れはいたしません。わたくし達二人は、毎晩毎晩あの邸の離座敷にたてこもつての連吹。この樂しみは一生！ 例へ、この前髮を剃り落さねばならぬやうにならうとも、變るまいと思ひましたのに。人の命の果敢なさ、この笛を息の通ふ程にもなくわたくしの命は無くなつてしまひました……けれども、あなたが供養の時々に、必ず後から行つてやると言はれるのを樂しみにしてをりましたのに、夫から間もなく、何處のかしらぬ、大官の子息とやらに思ひつかれてからといふものは、十のものなら、五ッはその人の爲めに其日をお暮しなさるのがわたくしはお恨めしいのでございます。

源吾はたゞ默してゐる。

八十郎。のう法師樣。あなたは、あの丹後とやら言ふ若衆の爲めに、髮も剃り、衣も着て、世を果敢なむあまり高野へまで上らうとなされた時。わたしの家の庭先を通られて、丁度わたしがその時鳥を差さうとして居たら、法師樣は、その竿を此方へお出し、わしはかう見えても鳥差がいかう上手いのぢやと片肌をぬがれ。夫から身構へして、これ諸々の鳥よ。この兒人の手にかゝつて死ぬのが何で惜しいぞ。さても〳〵衆道のわけしらず奴と御仰つて、まア、時の間に數かぎりもなく取つて下された時の嬉しさ、親にも兄弟

にも明さず、其夜は法師様と語り明して、又も法師様が下向の折に御目にかゝるを樂しみにいたしましたが、何の事！　わたしが命は間もなく限りとなつて、今はかうして幻の姿で只おつき申ずばかり、せめて、わたしの事ばかり思はれ度いと思つても、此處へ來て見れば、法師様には、わたしよりも先に思ふお方のあつたのみか、今日は又してもあのやうな美しい若衆が尋ねて來たのでは、何の死んだ者にお心なんか殘りませう。やがてわたくしは曉に燈火の消えるやうに忘られてしまふのでござひませう。然しさうなる時には、いよ〳〵地獄の底の奥深く鬼の側へ行かなくてはならないのです、わたしは只、まがつらいのです、つらいのです。

丹後。あゝ、あの晩、わたしはあなたと雨の夜を例の通り、連吹をして居ました。開けさいた窓からは嵐が梅の香をうつして、くれ竹のそよぎには寢鳥のねぐらもざわめいて、殊の外淋しい夜でございました。わたしは夜中に目が覺めたかと思ふと、もう如何しても死んでしまふやうな氣がしたので、あなたをお起し申したら、直ぐに又お寢つてしまふので、又お起し申してお別れの言葉を言つたきり、わたしはあなたのお手に抱かれて息が絶えてしまひました。その時にあなたはそのお髮を切つてお終ひなさいましたのに、夫からもまだ他の方に馴染み、やがては又今日來た若衆の爲めにこの髮も長うお延ばし

になるのでござひませう。ねえ、さうでございませう。

亡靈源吾兵衛の兩側より取りつく。源吾は思はず炬火を捨て、家の中に懸け入らうとしたが二人の力に引きとめられて又空しく座す。暫く舞臺は朧氣に暗い、

源吾兵衛。（丹後に）あゝわしは決してお前を捨てやうとしたのでは無かつたのだ。わしはお前が息の絶えたのを見た時には、全く、直ぐにも死んで終はふと思つたのだ。けれ共、せめて三年の間は後を吊つて、夫から月も日も同じ日にお前の側へ行かうと覺悟はして居たのだつた。夫から間もなく髮も下して西園寺の長老の御弟子となつたが、夫でもあき足らないので、丁度翌月の十五日、高野山へ上らうと思つて、思はず、八十郎どのゝ邸の前を通りかゝると、八十郎が餘念もなく、鳥を差してゐる。つい心が引かれて、手傳つたのが緣となつて、お前には濟まぬ譯だつたが八十郎の世話になり、其時の約束で下向の道に寄つて見ると、もう八十郎は此世に居ない人だと言ふので、わしはどんなにか驚いたらう。お前と言ひ、八十郎と言ひ、二人までわしを慕つてくれた人に逝かれてしまつて、全くわしは一時呆然としてしまつたのだ。けれども、わしは決してお前がた二人の中、どちらが餘計可愛いゝと言ふ事は無い。どちらの事も同じに思つてゐる。たとへ其後どんな若衆に逢はうとも、お前がた以上に思はうとは思つては居ない。今夜も

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

若衆が尋ねて來たとかお前達は言ふけれ共。わしには一向そんな心當りも無い、どうぞ、何か思ひ違ひをしないで、かうして爰に庵を組んで住んで居るのも、みんなお前方の爲なのだから、どうぞ源吾を見捨てずに、今迄通り毎晩尋ねて來て下され。源吾兵衛は、此後女に思はれゝばしらぬ事、もう若衆の戀にお前以上を望まうとはしない。どうぞさう思つて、毎夜變らず尋ねて來て下され。好いか、丹後どの、八十郎どの。

源吾兵衛の言葉の半ば過ぎから廿日頃の月がやう〳〵庵を照らしはじめる。言葉の終る頃おまんは心づきて身を動かし、起き上らうとして思はず外を見、再び丹後の姿を見て、「アッ」と聲を立てる。同時に二人の亡靈消え失せる。

源吾兵衛。（驚いて家に近づき聲をかける）あなたは何方です。何處のお方なのです。

おまん。（源吾にとりつきて）あゝ、わたくしは何の爲めに此處に參りましたのでせう。かねがね法師樣の事を聲き傳えて、定めしお情も深いお方であらう、一度お目にかゝつて、優しいお言葉なりとかけて頂き度いと、はる〴〵お尋ねいたしましたのに、まア何と言ふお氣の憂い事でせう。之では、とても我々風情が何の及ぶ戀でございませう。あゝわたしはあきらめてもう歸りませう。

おまんはふら〳〵と立つて出て行かうとする。源吾兵衛はいつかおまんの美しさに見されて、此時思はず抱きとめる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

源吾兵衛。（優しく）まアそんなに氣の早いことを言ふもんではありません。せめては夫ほどに思つて來て下すつたのですから、わしが立てるお茶でも呑んで行つて下さいまし、まアさう言はずに家へ這入らうぢやありませんか。

おまんは押されるまゝに家の中に入り、默つて座つてゐる。

源吾兵衛。何もかも御覧になつた上ですから。何もお隱しする事は無いと思ひます。實は今の二人はもう此世のものでは無いのです。

おまん。えゝ？　この世のものでは無いのですつて？

源吾兵衛。さうです。あの一人はわしがまだ俗の頃の馴染で、もう一人はわしがかう言ふ姿になつてからの馴染なのでどちらも源吾兵衛が今迄に逢つた人とは格段の美しさなのです。したが（改めておまんを見詰め）あなたに比べては、白芙蓉の前のしこ草にも劣つて見えます。何うして、わしは、あなたのやうな方に　俗の時に御目にかゝらなかつたのだらうと不思議に思はれます。

おまん。（心中に可笑しさを堪えながら）夫ではわざ／＼爰までお尋ねしたのは無駄でも無かつたのでございませうか。

源吾兵衛。（熱心に）何で無駄になりませう。無駄と言ふのは、わしが、あゝした亡靈に少し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でも心を惱まして居たのを言つても好いかと思ひます。
おまん。まア、それは眞實なのでございませうか？
源吾兵衛。噓といふのはわしの今迄した事をでも言ふのでせう。
おまん。あゝ嬉しい！

おまん思はず源吾兵衛により添ふ。二人の亡靈源吾の後に立つ。おまん「アレ」と叫んで逃げんとす源吾兵衛笑ひておまんを抱く。その途端佛壇の燈火消え暗黑となる。

第二場

秋晴の繩手道。源吾兵衛、髮を延ばし、患れたる風俗にて編笠を冠り、其處の一本松の根元に病苦に惱んで腰を下してゐる。おまんはひなびたる島田に結ひ、石持の着付、布さらしの女に扮したる姿にて付きそひゐる。

おまん。（編笠をとつてやり氣遣はしげに）ねえ、あなた、もう少し行つたら、宿をするやうな家も見付からうと思ひますけれども、もうちつともお歩きになる事は出來ませんの？
源吾兵衛。さア、とても難かしい事だらう。あゝ心柄とは言ひながら、何と言ふ苦しさだらう。山を出てからと言ふもの。一夜として安らかに眠つた事はありはしない。
おまん。夫もみんなわたくしの罪でございます。とも角も、坊さんのあなたをお騙し申したのですものね。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

源吾兵衛。そんな事を己れは悔いてゐるのでは無い。山を出てからと言ふもの、お前にばかり苦勞をさせるのが己れは心苦しいのだ。己れも一時は、源吾兵衛どこへ行きやる。さつまの國へなんてしやれに歌つても見たが、かう病みほうけてしまつては、只お前の厄介になるはかりで夫が氣の毒で堪らない。

おまん。夫と言ふのも、わたしのやうなものが出來たので、あの無くなつた二人があなたを呪ふからなのでございます。さうかと言つて、わたくしはあなたを離れてしまふ程強くないのが恨めしいのです。かうやつてゐればゐる程、あなたを苦しめる譯だとは思つても、どうしてもあなたを離れるわけにはゆかないのですもの。(泣く)

源吾兵衛。そんな事は己れにも分つてゐる。己れにとつては、其方がどんなにか嬉しいだらう。もし爰でお前が親切めかして己れを捨てゝ御覧、己れは如何なるだらう、幾ら思つてくれた處で、あの世に居るものと如何する事が出來やう。己れはやつぱりお前にも捨てられず。あの世の二人にも呪つて居て貰ひたいのだ。

おまん。そんなら、わたくしがおつき申してる事を嫌つてお出でゝはございませんか。かんにんして下さいますか。

源吾兵衛。嫌ふどころか、こんな幸福があるもんぢや無い。只此上の望みにはお前にもあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の二人にも忘られず、さうして身體が丈夫になつて、髮も結ふやうになり、湯にでも這入り度いと思ふばかりなのさ。

おまん。さうして、又何處かの人を迷はさうと言ふのでございますか？

源吾兵衛。（淋しく笑ひて）さう出來ればねえ……

おまん。まア憎らしい。（源吾兵衛をつめる）

源吾兵衛。あゝ痛々。病人をいぢめちや困るぢや無いか。

おまん。だつて憎らしいんですもの。でも好うございます。此處まで來れば、わたしの親里ももう見當がついて來ましたから、ちやんと、婿、嫁となれば、もう〳〵決して外へ出す事ではありません。

源吾兵衛。あゝ〳〵、さうした窮屈な身にはなり度くないものだ。

おまん。ではいつかはわたしもあのお二人の若衆のやうに捨てられるのでせうか？

源吾兵衛。（力なく）ハヽヽヽ。そんな事が捨てるとか捨てぬとかの問題になつていやしないぢや無いか。

おまん。でもこんな苦勞した揚句に……（泣く）

源吾兵衛。戀に勘定は無い事にして貰ひ度いな……

おまん。でも……

源吾兵衛。あゝ又胸先が痛んで來た。お前濟まないが、何處かで水を貰つて來て呉れないか。

おまん。まア、あんまり長く話しをしたので惡かつたのでせう、どうぞ許して下さいまし、

源吾兵衛。そんな事よりも、水を賴む、賴む。

おまん。では一寸行つて來ますから、何處へも行かずに待つてゝ下さい。

おまんは腰に下げた編笠に人目をよけて走けて這入る。

源吾兵衛。あゝ、痛い、痛い、おまん、もう行つて呉れたのか、え？ 水を早く呑み度い、水を……

丹後、八十郎の靈、源吾の側に出る。舞臺、段々に薄暗くなる。

八十郎。法師樣。お苦しいのですか。

丹後。源吾樣。どんな御心持です。

源吾兵衛。あゝ、あなた達は、又來たのですかさりとは餘りしつこいではありませんか、生のあるあなた方を捨てたと言ふわけでは無し、もう許して呉れても好いぢやありませんか。

八十郎。わしは何も法師樣をせめてゐるのではございません。法師樣はわし達を決して忘れてはお出でなさらぬのに、さも道端の石ころでも蹴飛ばすやうに御仰るのが可笑しいのでございます。

丹後。夫に、あんな疑ひにばかり滿たされてゐる女子にお迷ひなさるのが可笑しいのでございます。男同志の戀といふものがどれ程純なものかと言ふ事がお分りにならないのが可笑しいのでございます。

八十郎。法師樣は、わたし達二人をも忘れず、おまんをも思つて御出でになりながら、人間は、さも、一人の人の外には戀の出來ぬものゝやうに定めて御出でになるのが可笑しいのでございます。

丹後。おまんに向つてはわたし達を塵かあくたか、夫よりも氣のつかぬ、人間が片時も無くて叶はぬながら、少しも氣のつかぬ、この空氣のやうに御仰るのが可笑しいのでございます、そして又わたくし共には、おまんの事を、ほんの持て遊びものゝやうに取扱つてお話しなさるのが可笑しいのでございます。

八十郎。なぜ法師樣はお前達も忘れぬが、おまんも捨てられぬからとは御仰らないのでございます。何故、戀人に向つて見得をなさるのでございます。あの世に居るわたし共に

思はるゝのも興ある事に覺召すなら、あの世に逝つて、この世に居るおまんの事を思ふのも又興ある事ではございませんか、

八十郎、あなたはどうして戀と言ふものの、あの世、この世の別をおつけなさるのでございます。夫にもうあなたは、この世に長く生きられる身體ではありません。夫にもうこの世に居たとて、あなたとしては何の樂しみも無いではございませんか、口ばかりの戀に滿足してる程、またあなたは老ひ込んで入らつしやりはしません、もつともうこの世ではその氣力もありますまい。

二人聲を合せて低く笑ふ。

源吾は、うち伏したまゝ身動きもしない。亡靈消えて舞臺明るくなる村人の一、二、左右より出づ。

村人の一。庄兵衞さんぢやないか。

村人の一。松さんかい、何處

村人の一。えゝわたしは之から、薩摩屋へ行かうと思ふのさ。

村人の二、又例の捜し物か、何とか當りがついたのかね。

村人の一、夫がね、今朝の話に、何でも昨夜遲く、舟から上つた二人連れの男と女が、どうもさうぢや無いかと言ふのでね。まづ宿を捜したが、どこへも宿らないらしいのさ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

處で、なんでも女は布ざらしの風をしてゐると言ふのでね、町と言ふ町にふれを出してゐると、どうだい上手い事に、どうもその女らしいのが今しがた、薩摩屋へ水を貰ひに來たので、そら、捜しに來てると言ふ、その娘の親に知らせると、直ぐに出て見た處がやつぱりその娘だつたさうでね、どんなに喜んだか分らないと言ふ事だ。それでまア、なんでも、捜しに出た人達には骨折を呉れた上に馳走をして呉れるつてんでね、今から行かうと思つてるのさ。

村人の二、ふゝむ、さうか、夫はめで度い話だな。ぢやア、己れも一處に行て馳走にならうよ。

村人の一、だつて、お前は、捜しにも出やしないぢやないか。

村人の二、お前だつてあんまり、よく捜した方でも無いぢやないか。毎日の日雇は呑んでしまつて、………

村人の一、まアそんな事は言はないで、ぢやア、一處に行かう。ハヽヽ

村人連れ立つて行かうとする、源吾兵衛起き上つて、呼びとめて。

源吾兵衛。もし〳〵承れば大層御めで度いお話しでございますが、その娘さんといふのは何處の人なのでございます。

村人の二、お前は、土地の人で無さゝうだから、知らないのも無理はないが、なんでも薩摩で硫球屋と言つたら聞えたもんださうだが、そこの娘のおまんとか言つたよ。
源吾兵衞、へえ、左樣でございますか。そして、その娘の連れの男は如何いたしましたでせう。
村人の一、夫もなんでも昔は大層な美男だつたさうだが、今では酷く落ぶれてるとか言ふはなしさ。したが如何したか、夫は聞かなかつたよ。
源吾兵衞。然し、娘は定めし喜んだ事でございませうね。
村人の二、さうともさ、なんでも娘も大變に喜んで、直ぐ、まア髮を直すやら、白粉をつけるやらしてるさうだよ。
源吾兵衞。さうでございますか。ではもう男の事なんぞは忘れたのでございませうね。
村人の一、さうだともさ、何も好き好んでの零落ではあるからね。
源吾兵衞。然しわたくしなら、まづ第一に男を迎ひとらなければ氣がすみませぬ。
村人の二、お前さんはあの〳〵親切ものだよ。
村人の一、アハヽ、ヽ、さア早く行かう行かう。

源吾兵衞ちつと考へる。何處ともしれば。ハヽヽヽと笑ふ聲がする。夫と一處に源吾兵衞、息が絕

えたやうに後へ倒れる。おまん、風呂敷を持ち髮も結ひ直し、着附も振袖になり、目の覺めるやうに美しくなつて走け出る

おまん。（うつゝ心に）ほんとに嫌な番頭だこと。人が幾ら一處に行つてお呉れつて言つてもお酒と天ごんで夢中になつてるのだもの。お父さまもさうさ、あたしが一生懸命にあの方の事をお願ひしても、只よしよしと御仰るばかりふのだもの、ほんとうに張合もなにもありはし無い。（源吾の側に來て、）あたし、あたし、如何ぞなさいまして？（俄かに心づいて、）あゝ、あたしは水が欲しいと言つて入らつしやいましたのね、まア、わたくしうつかり忘れてしまひました。でも家へゆけば幾らもありますから、ねえ、さアお召を替えて下さいまし、でもおつむりはどうぞ編笠でかくして入らして下さいまし、でも、わたくし辱しいですもの。（だんだんさうつゝになりて）でもほんとうにお父様は好い方ですわ、あたしの事をなんども御仰いませんの、少しも叱りはなさりませんでした。こんな位なら、もつと、早くこんなに困つてしまはない中に早く國へ行けば好うございましたわね、今考へて見るとあたしどうして、あんな布ざらしなんかゞ出來たと思つて、ほんとに辱かしくなりましたわ。（我にかへりて）さアあなた、あなた。（源吾の胸に手をかけ驚いてしさる）あゝ！あの方は死んでゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

源吾兵衛。（起き返る）アハヽヽヽ。（自ら嘲り）何が可笑しいのだ。

おまん。（喜びて）まアお氣がつきましたか、ほんとにびつくりいたしました。さアもう好うございます。二人は助かりました。お父うさまがどんなにあなたに逢ひたがつて入らつしやるか。さア、お召を替えて下さいまし。（源吾おまんの自由になり居る）まア立派になりましたこと。これなら、誰の前へ出ても辱かしくはありませんわ、でもおつむり丈は編笠を冠つて下さいまし。

源吾兵衛。（おまんの冠せやうとする編笠をうばひて）何が辱かしいのだ。

おまん。あら、そんなにお怒りになつては困りますわ。いろんな人に逢ふのですもの。わたくしは好うございますけれど、あなたが御嫌だと思つて。

源吾兵衛。うむ、夫でが。ハヽヽヽ、アハヽヽヽ、坊主が還俗して髮を延ばしたのが如何して可笑しいのだ。アハヽヽヽアハヽヽヽ（笑ひ聲はだん／＼に病苦の爲細くなる）

おまん。まア何をお笑ひなさるのでございます。

源吾兵衛。（空を見詰めて）全く源吾。はじめて悟りました。源吾は、あなた方を捨てないと申しながら、捨てやうとしたのです。ハヽヽヽヽ源吾は可笑しな奴です。アハヽヽ深山笑つてやらうぢやありませんか。ハヽヽ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おまん。（心づきて）まア、あなた、あなたは、又あの亡靈になやまされて入らつしやるのですね。もし、もし源吾兵衛さま。

源吾兵衛。まんの聲がする。アハヽヽヽ。あヽ、わしはまんを可愛ゆう思ひます。あれはわしの爲に髮を切り、わしはあれの爲に延した。アハヽヽ。その延した髮が、またまんの爲には可笑しいと申します。アハヽヽヽ。（編笠をもつたまゝうろ／＼と立つて）源吾兵衛何處へ行く、薩摩の國へ、（歌ふ）………

おまん。まア、源吾さま、お前まア、如何なされたのでございます。今駕籠が參りますから、一寸待つて下さいましそちらへ行つては道がちがひます。

源吾。招くわ招くわアハヽヽヽわしは可笑しい。可笑しい、可笑しい男ぢや。戀をするのに見得をする。可笑しい。可笑しい。

おまん。（うろ／＼して）源吾さま、源吾、あなたどうなされたのでござります。何處へ行くのでござります。

源吾兵衛。（歌ふ）

源吾兵衛何處へ行く薩摩の國へ
鞘が三文下緒が二文………

源吾ふら〳〵と行く。

おまん。源吾樣。源吾樣。

源吾。アハヽヽ、招くわ招くわ。

源吾入る、おまん呼びながら追つてゆく。駕籠舁二人駕籠を舁きて他の方面から、出て、呆然と二人の行くのを見てゐる。

幕

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この頃の感想――西崎花世――

一

私達が生きて行く間には止むを得ないと嘆じられる事が可成多い。然しながら私達は其の止むを得ないと嘆じられる事を一つなりとも少くしたいものである。止むを得ない事實と見えるものも其の正體を幾度か追求して當を得た手段さへ致されたら、それを見る自分の眼が高くなつたらそれを轉じて可能の事實となし得られる事は云ふまでもない。止むを得ないとして自分を低い位置にあきらめ捨てる事をせずに、出來るだけ止むを得ない事實を突き仆して進まないではならぬと思ふ。廣く生きてゆく上にも、また戀の上にも。

二

○新なる戀へ、怜悧なる戀へ、私は戀に歩いてゆきたい。聰明な男がほしい。私の心がその影響を受けてこの心が生れかはるまでみがき出される異性がほしい。さう云ふ力強い男

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が見えなくてはならない。私はその男の心に突き進んで、その男の總ての血汐を飲みほしたい。その男の心の秀れた熱にこの全身を燒きたい。かくまでにものにせかれて停滯して腐らうとする自分を流れさせるものはその男の力の外には無いと思はれる。

三

あんな男になぜ自分の心が、かう引きづられてゆくであらう。あの自分より年の若い、自分よりものを考へない、自分より感情の粗い、自分より眼のさめて居ない、自分よりも心の重たさの少い、あの輕く存在してゐる男になぜ今の自分の心が、かうひきづられてゆくのであらう。男に饑えた枯れやうとする心が、私の上に暴逆なたはむれをする。自分の心が男にうえてゐればこそ、あの男は私の心の前に巨漢のやうに歩いて來る。男にうえたこの心の他愛なさを自分ながら笑つてやりたいと思ふ。

四

私は田舍に暮す母の生活と、都會に住む自分の生活とが妥協しない限りは早晩相せめがねばならない事を知つて居た。自分を蹈みにぢるか、母をふみにぢるか、そこに必ず痛ま

しき爭鬪が生せねばならないと知つてゐた。私はほとんどその爭ひを期待するやうな不安の中に數日を送つて居た。やがて母の手紙をうけとつた、私はそれを讀む眼から熱い涙があふれた。私は母の激しい愛に觸れてふるへながら泣いた。母の生活と私の生活とは相爭はなければならない一つの線の上に出逢つて爭を生じなかつた。爭を超越した母には「愛」をもつて居た。あの母は自分を我子に見出して、自己の生活とした。母に取つては子の生活が自己の生活であつた。子が自分を主張しようとする生活は同時に母の生命を主張するものであつた。母と自分とが合體してゐた事を今更に見出した時、私は太陽に照らされて咲く花のやうな自分を感じた。

五

血まみれになつて生きて來た。私は自分がこの處まで赤い血に濡れて動いて來たのを感じた時、かうまでして歩いて來た自分を、可愛らしくてならなかつた。それとともに私は自分が血まみれで歩いて來た事を耻ぢる事なく露骨(あらは)してゆくのが本當だと思ふ。私はかくす事はしないであらう。

六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ある男女の作つた家をはじめてたづねた。玄關をはひつて二人の同棲の空氣にふれた時私はこれは考へなくてはならないと思つた。そこには塵と、反古とが汚く積んであるやうに見えた。私を痴妬させるものよりも私に涙ぐませるものがあまりに多かつた。今これだけの人の家庭がかうしか作られないものとすれば、よく生きてゆかうとする自分の入られる處ではないと思はれた。その日から私は女を生き生きさせてゐる家庭が眼の前にどれほどあるかをさがしたくなつた。しかし私はまだ一軒にも出逢はないでゐる。

七

男などはほしくない、それよりも美い着物を着たい、芝居にゆきたいと云つて暮す女がある。その女は心の底からそう云つてゐるのであらうかとうたがはれた。しかし可成その女を横から眺めてゐるうちに、其の女が男がほしくないと云ふ心を理解した男よりも美い柔らかい肌ざはりの着物がほしい。而して芝居にゆきたい。うまいものをたべたい。快くねむりたい。それだけで樂しんで生きてゆかれる女であつた。女にはまつたく着物だけに生き甲斐を求めるものが多い。

八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

書物をよむといふ事はたゞ準備にすぎない。本當に人の心が一段高いところに引き上げられてゆく力は自分よりすぐれた光をもつ人に向つて、自分の心をなげかけて、眞劍な接觸をしたあとに燃える火その火の力の外にはない。それは單に戀をさして云ふのではない、むしろそれよりも廣い意味の人と人とのよい接觸は私たちのつねに求めねばならぬものだと思ふ。今私たち、女と女とがさう云ふ意味の靈の接觸をする勇氣を出さない間は、私達はさして進まないものだと思ふ。

九

求める事は一種の冒險である冒險だとすれば、與へられない失望も、意外に與へられた幸福もみなともに冒險の意味で取りあつかひたいものと思ふ。求める人はつねに回避せぬ冒險者である。人と人との眞實な交りは、それが眞實であるだけ死に身の冒險であるわけだ。人性には時々冒險が必要である、女はなぜ冒險することに興味を感じやうとしないのであらう。冒險しないから動けないのに相違ない。

十

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私たちはそれがどう云ふ感情でも、必らず一度味つてみる必要がある。それとともに、その感情を殺す事はつらいと思ふ。同じく殺すものとしても自分の内で殺すよりも外で殺すのが本當であると思ふ。

私はつねに良い感情を殺すことがあり易くて惡い良い自分の感情を殺す事は、自分の生命を廣げるすべを怠る爲めである。いつまでも私たちは、生命を廣い世界にひろげてゆきたいと思ふ。

十一

どうして此の次の生活を切り開いてゆかうさう云ふ事については、その判斷の必要が切迫する時までは、出來るだけ多くの考へ方を作つてみたいと思ふ、考へて置けばその判斷と撰擇とは生れながらに持つてゐる私のよく生きんとする本能の力がそれを左右するまでである。考へ方を多く作る。それほどたのしい事はないのであつた。

十二

私は私が無智な求めを人に寄せた時、それは當然むくひられないで欲しいと思ふ私は私

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の迷妄な心を殺されていいとともに他人が私に強ひて來ようとする迷妄な心も情實なく殺してしまつていいと思ふ。他人が私に無智な求めを寄せた場合には當然それをふみにぢつていいと思ふ。併しそれは人と人との接觸をさけやうとする臆病や厭ふべき傲岸ではない。良く生きやうとする痛切な判斷の一である。

併し他人の無智と迷妄とを理解の上に愛しやうとおもふ心が私にはある。その意味から私は私の無智と迷妄とを理解してとりあつかつてくれる人があるべきだと思ふ。

十三

長い間の努力と忍從とを今こそ押しのける時が來た。私は自分の生活がたしかにこの機會にひきあげられるものである事を知つて居る。今まで長い間彈丸をこめてゐたその銃を私は手に取つていい時となつた。火蓋を切らう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美濃より　柴田かよ

野枝さま。

十五日までと曰ふお約束をして置きながらその日になつても何一つ書く事が出來ません大變に申譯けのない事だと思ひます。

けれども野枝さま。

私は決して無精けて居て書かなかつたのでは御座いません、それかと言つて宅が多忙かつたのでも御座いません、また書きたいと思ふ事が無かつたのでも御座いません、こんな幼稚な腦にでも絶えず沸々と燃え立つて居るものは抑えても抑えても抑えきれないほど充滿して居ります。さうして機會にさへぶつゝかれば流れ出やう流れやうと何日でも恐ろしい力で混亂して居るので御座います。

それで居て書かれないので御座います。いえ書かれないのではなくて、私の現在の境遇が書く事を許さないので御座います。何と謂ふ慘めな事實で御座いませう。

ね、野枝さま。

あなたは八月號の私の歌に對する讀賣新聞の評を御覽下さいましたか、――かよはよいものを捕えては居るが自己と眞劍に共鳴して居ない――とあつたそれを御座います。若しお讀み下さいましたら吃度否定しては下さいませんでしたでせうか。かうした評言を受る事、私は望んでは居はしません。けど悲しい事にはそれが事實だから仕樣が御座いません。私はそれを讀んだ時情ない事だと思ひました、が一面には待ちかまへて居た或物を願ひのまゝに與へられでもしたやうな心に限りない滿足を覺えました。

野枝さま。

私は決して敗け惜みを言ふのでは御座いませんがそれを承知してやつて居たと謂ふことを申させて下さいまし。事實私がこれ迄發表したものは自己と共鳴を覺えるやうな見甲斐のある作品では御座いませんでした、八月號のなんかは殊に烈しいので御座います。

あの批評家、何と謂ふお方かは存じません、けどもあの方は作品を――少なくも私のだけは――眞質に理解して下さる方だと謂ふ事を思つたので御座います。私はそれが大變に喜ばしかつたと同時にその鋭い批評眼に多大な恐怖を抱きました。引續いて發表する勇氣も何も消えて了ふほどで御座います。

だつて野枝さま。

私の作はその大部分が製造したもので充たされて居るので御座います。お察し下さいな什麼ぞ……私の耐えられぬと謂ふは此點で御座います。莫迦だつて人間ですものこれが私の作で御座いますッて皆様の前へ持ち出す以上、よく言はれないまでも惡く言はれたくはありません。出來なければ出來ないなりに努力もしませうし推敲もしませう。何處の國に心に染まぬものを喜んで持ち出す愚者が御座いませう。それを私は行て居ります文藝に對する強い執着が斷ち切れないばつかりに。

ともすれば頭を出さうとする僞のない自己に十重廿重ヴールを被せてそれで我慢して居るので御座います苦いと謂ふも絕したもので御座いませう。

私は今でも自己の作品に對しては歌一つ小品一つにでも眞實の描寫とゆふ事に重きを置いて居ります、たゞもう流れ出るありのまゝの氣分に形を與へてそこに強い共鳴を見出さうとして居ます從つて過去に屬する朧げな記憶などに技巧や修飾を加へて、澱んだ一個の小物語を製しあげるなどは私には出來難い事で御座います。それで居て旺んに製造をして居ります哀しい矛盾で御座いませう。脫れたい脫れたいとは思ひ續けて居りますけどそれは絕對に不可能なので御座います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たゞ人の妻とゆふ名の爲めに力強い情實の枷に締められて自由を許されませんもの。

野枝さま。

私が今赤裸の自分を世間の前へ抛り出したらどんなに大きい誤解を招く事で御座いませう、それでなくてもいゝ加減見誤られて居ります。私自身には當然と思つて居る事にさへ世間は怪訝の眼を見張つて大仰に騷ぎ立てるので御座います、尤自身が普通の女としては容られぬ精神的奇形兒に生れて居るのかも知れませんが……。

青鞜社に對する東京人の迫害――私はそれを忘れて居るのでは御座いません。けれどもこんな半開な都會とゆふも名ばかりで舊道德に枘泥されて居る五萬餘の腦が、新らしいものと謂へば何でも否定しよふ壓迫しよふと死にもの狂になつて居る土地とはわけがちがいます。

御地での嘲罵や迫害や冷笑はほんの一都愚人の聲で謂はゞ引れもの丶小唄なので御座いませう。その證據には格別のこだはりもなく青鞜社が二年とゆふ短いやうでも長い月日を重ねて居ませう、それにはあなた方の强固い意志と大きな努力とが第一の原動力(シエネルギー)になつてるとは申すもの丶、やはりそのかげには誠實な理解の力が光つて居ります。

野枝さま。

愚痴だと御嗤いなさらないで私の周圍を御覧下さい。目に遮ぎるものは女の自由を否定し束縛する濃い濃い空氣と、無理な無定見な俗衆の群とで御座います。悲しい哉生國でもない土地に連れて來られたと謂ふ弱味を持つた私は、吸い馴れない空氣に驚き視馴れない色彩に眼を視張つて居る隙に、他愛もなく囚はれて了ひました。私はそれに反抗したいとは思つてます。けれども私の後に附いて居る人妻とゆふ弱點を什麼しませう。良人の爲に且つは可愛い丶者の爲めに是非なく唇を噛んで自我を殺して居ますもの丶、その慘めさと言つたら全く泣くにも泣けません。

昨年御社の社員の末席に加へてお貰ひしてからと謂ふものは、私の身邊には絶へず新らしい女五色の酒を呑む女お女郎買をする女とゆふ惡罵が起つて居ます、まして今年四月風俗壞亂の張本人とかで各地の新聞に載せられて以來は、全然肉にのみ惑溺する女で丶もあるかのやうに見誤られて了いました。こんな事私個人の考へでは什麼あろうもので御座いませう、自覺といふ文字の意義さへ解し得ぬ人々から百千の嘲罵を浴びせられたつて、それは遠い行路の退屈しのぎとも視て自己の確信と共に進む爪先きを曲げはしません。が私の今の境遇はそれを形に現す事を絶對に許さぬので御座います。さればこそ私は今日迄生命の一部とも思ふ藝術にすら露骨に沒頭し得ないで、心にもない嘘僞の生活を續けて來ま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。私があまり作品を持ち出して皆樣の御批判を俟うともしないのは、これが最も大きい原因なので御座いました。

野枝さま。

そんな譯で今度も書くことを止めました、舊作の内には拙いながら自信のある作もありますけど、それを思ひきつてお送りする氣になられません。今度は特別號の事ですもの吃度皆樣も華かにお執筆なさろうと思つて居ます、私はそれを見せられるのが嬉しくも哀しくもあります。けどそれを什麼する事も出來ません、せめてこんなものでも書いて見たらと思つたので御送りします。

私は近頃寧文藝から離れて了はふかとゆふやうな事も思ふやうになりました。人々の自由な生活の内部を見せつけられるのが耐えられないからで御座います。でも捨てれば生命の一部に空虛をおぼえねばなりません。それに耐ゆるのも苦痛で御座います。こゝに至つて私は自の心弱はさこ腑甲斐なさを染々と感じます、靑鞜社の玄關番などゝゆふ名を附けられて居て、それが幸に嘲弄の意味であるからよいものゝ、若し眞面目な僻でゝもあつたら私は皆樣の前に愧死せなければなりますまひ。

野枝さま。

私は現在自分の住まつて居る土地を呪ふやうな穏ならぬ物の言ひ様を致しました。これにも亦新らしい嘲罵を期待して居なければなりません。面倒な事だと思ひます。

けれども私の前には――元始女性は太陽であつた――といふらいてうさんのお言葉が力ある盾とも強い強い誇ともなつて無限の光りを放つて居ります、私はそれを唯一の武器として行くべき路を開拓くのに心懸ける事にしませう。

もう蟀が鳴いて居ます。

秋といふ感じが犇々と身に迫ります。寢冷へなどなさひませんやうに尊いお體を御自重遊ばせ

――八月十五日夜――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□青鞜もいよ〳〵第二週年を迎へました、この一年間は今迄になかつた色々な事に多く出逢ひました。子供は新しいそして若い經驗にます〳〵太らうとしてゐます。

□それで今迄の組織の上に色々不都合を感ずるやうになつて參りましたので、内部の者が相談の末この九月限りで社の規則といふものを變更することにいたしました。それと同時に社の外に社の補助團といふものを新に組織することにいたしました。其等の委しいことは在來の賛助員始め社員其他の直接讀者諸君には追て一々御通知して御賛同を願ふと共に確實な御返事を煩はす筈になつて居ります。それらの事は十月の誌上で凡て發表いたしたいと思つて居ります。

□「動揺」と「索引」を讀んで大變書きたくなつて來ました。是非自分のあれに對する感想をこの號で書かうと思つて居たのでしたが。〆切迄にどうしても間に合はせることが出來ませんでほんとに殘念です。次號で發表しやうかと思つて居ります。

□女性に於ける性的轉倒も或事情の爲め本月號で發表することが出來なくなつた事はこれも殘念なことに思つて居ります。

□エレン、ケイの「戀愛と倫理」とエンマ、ゴールドマンの婦人解放の悲劇とを一つにして近々出版する筈になつて居ます。いゝ本になるだらうとたのしんで居ます。御讀みになることを御すゝめいたします。

□紀念號のことでもあり、何か骨を折つたものを書きたいと思つて居たのでしたが、社の改革のことや自分一個の問題など考へればならぬ多くのことが一時に頭に上つてゐるものですから、どうもまだその氣になれないで、すまないことをしたと思つて居ります。

寄贈雜誌

歌舞伎	詩歌	新女界	生活
サンデー	早稻田文學	三田文學	スバル
白樺	中央公論	藝術	アラヽギ
心の花	帝國文學	劇と詩	新潮
モザイク	層雲	人生と表現	婦人評論
聖盃	智仁勇	新眞婦人	藝文
近代思想	六合雜誌	新人	新小說
婦女新聞	新佛敎	婦人世界	新文林
みづゑ	創作、クワルテツト		日本圖書新報

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新刊紹介

傳説の時代　タマス、ブルフインチ著　野上彌生子譯　定價貳圓　尙文堂發行

七百頁に近い大部なもので、全部四十一章に別れてゐて古代希臘羅馬の神話東方北方の傳説が殘らず集まつてゐる。

譯しぶりが如何にも自由で平易でちつともギコチないところがなくて讀んで行くうちに、やさしいお母さんのお話でも聞いてゐるやうな氣持になる暖か味を感ずる活き〳〵した自由な拘束のない古代の神々や英雄ののんびりした、何處となくせまらぬ、動作がはつきり浮んで來る。そしてせゝこましい自分達のいまの生活と遠くかけはなれた、それ等の物語りがよんで行くものゝ心持を、だん〳〵にその純なところに引き込んで行く。

裝幀も氣のきいた、氣もちのいゝものだ。中にはさんだ寫眞版にも、ロセッチのパンドーラなどのいゝのが、あるが、それよりも、章の初めにはさんだ挿畫がこの物語りの本の挿畫にする爲めに集められたかのやうに、しつくりと、あてはまつてゐて、すこしもいやな感がしないすこしも目障りにならない。兎に角全體として、念の入つた、ちつともいゝかげんでなく何處までも注意のとゞいてゐる點がうれしい。

それに、おしまひに神話の系譜や索引までも丁寧につけてあるのは、あくまでも行き屆いた仕方だと感心した。この大部な面倒な仕事を家事の忙しいおひまで立派に、完成せられた、譯者の忍耐と、助力には本當に敬服の他はない。

（野　枝）

東京景物詩　北原白秋氏著

東京夜曲、S組合の白痴、靑い髯、棺持、雪と花火、銀座の雨の數篇よりなる。

この詩集を讀み終つて浮び上つてくる「東京」は、氏一人の味はつた東京なので、勿論誰れにも共鳴が出來るといふわけはないけれど、兎に角讀んで面白いものだと思ふ。

紺に細く金線でわくをひいた、極氣のきいた裝幀であるこの裝幀も氏の手になつたものである由。

（定價一圓、東雲堂發行）

啄木遺稿

故石川啄木氏の遺稿である。これは後に、熟讀の上あらためて紹介しやうと思つてゐる。（東雲堂發行）

夢を描く（歌集）　尾崎楓水氏著

數篇の歌に加へて氏の自傳と云ふやうなものがついてゐる。（名古屋、一人一篇社發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鐵道沿線遊覽地案内

鐵道院編

本書は大正二年七月出版で、鐵道院所屬の各線沿道の勝地が記述されてある。挿入の寫眞、地圖によつて各所名跡が說明されてあるので居ながら日本全國の遊覽が出來る。卷頭には索引があり、卷尾には廻遊旅行の栞、鐵道營業案内鐵道所屬線路名稱、陸上交通系統表、主要驛間乘客賃金表、鐵道院所屬線略圖がある又附錄さして朝鮮南滿洲臺灣等の鐵道沿線勝地があげられてある。旅行者に取ては便利此の上なしさいふ本であらう。

十月號豫告

イヷノフ（戯曲）……チエホフ　瀬沼夏葉譯
ソニヤコワレウスキーの自傳……野上八重譯
夢の影……マツニア　伊藤野枝譯
女性に於ける性的轉倒……エリス
戀愛の進化……エレン、ケイ　らいてう譯
婦人運動……エレン、ケイ　白雨譯
題未定（戯曲）……長谷川時雨
題未定（小說）……田村俊
題未定（小說）……藤岡一枝
題未定（小說）……小笠原貞
ながれ（小說）……小林歌津
短歌……岡本かの　柴田かよ
青鞜社詠草……同人
ひさり言（感想）……白雨
この頃の感想……伊藤野枝
動搖さ索引を見て……らいてう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東雲堂藏版書目

歌集	桐の花	北原白秋	定價金壹圓
歌集	水莊記	吉井勇	定價金壹圓
歌集	別離	若山牧水	定價金七十錢
歌集	死か藝術か	若山牧水	定價金七十錢
歌集	黄昏に	土岐哀果	定價金五十錢
歌集	收穫	前田夕暮	定價金七十錢
歌集	啄木歌集	石川啄木	定價金八十錢
歌集	馬鈴薯の花	柿人憲吉	定價金八十五錢
歌集	赤光	齋藤茂吉	定價金九十錢
歌集	涙痕	原あさを	定價金六十錢
歌集	早春	岡稻里	定價金七十錢
歌集	かろきねたみ	岡本かの子	定價金二十五錢
英詩集	The Pilgrimage.	野口米次郎	定價金壹圓
詩集	思ひ出	北原白秋	定價金九十錢
詩集	邪宗門	北原白秋	定價金八十五錢
詩集	東京景物詩	北原白秋	定價金壹圓
詩集	白き手の獵人	三木露風	定價金壹圓
詩集	霧	河井醉茗	定價金五十五錢
詩集	路傍の花	川路柳虹	定價金五十錢
詩集	夜の葉	森川葵村	定價金六十錢
小說	青鞜小說集	青鞜社	定價金八十錢
戯曲集	午後三時	吉井勇	定價金壹圓
戯曲集	和泉屋染物店	木下杢太郎	定價金壹圓
論集	演劇新聲	小山內薰	定價金八十錢
評傳	哲人カアペンター	石川三四郎	定價金八十錢
隨筆	扃ある窓にて	らいてう	定價金九十錢
隨筆	啄木遺稿	石川啄木	定價金九十錢
隨筆	歐洲美術遍路 上卷	石井柏亭	定價金貳圓
隨筆	歐洲美術遍路 下卷	石井柏亭	定價金貳圓

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

露ドストエフスキー作
内田魯庵氏訳

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

露ドストエフスキー作　內田魯庵氏譯

罪と罰

前編新刊
再版將出

四六版五百五十餘頁
ポイント式印刷裝釘雅麗
正價金壹圓四拾錢
郵稅金拾貳錢

聖書が萬人の爲めの經典たるが如く罪と罰は萬人の爲めの讀物也、啻に所謂小說讀者、文學研究者、文人技藝家のみならず哲學家も宗教家も倫理學者も教育家も法律家も政治家も皆本書を讀んで未だ曾て經驗せざるの痛烈なる人生の恨みを味ふべく、滿身の血液凉凝して腦髓の皺が一々微顫するの感あるべし、近代小說が人生の活きたる經典として思想界に重きを有する所以も本書を讀んで初めて知るべき也

小說 **復活** トルストイ翁一代の傑作　內田魯庵氏譯

前編正價金壹圓五拾錢
後編正價金壹圓八拾錢
送料各金拾貳錢

東京日本橋通三丁目（振替貯金口座東京第五番）
大阪東區博勞町四丁目　同（大阪第七四番）
京都三條通麩屋町西入　同（大阪第一七三番）
福岡市博多上西町電車通

丸善株式會社

第一回 藝術座 上演

愈々九月拾九日より二拾八日迄十日間丸の内數寄屋橋側「有樂座」にて毎夜午後五時より開演

メーテルリンク作 秋田雨雀譯
内部（氣分劇の代表作）一幕

メーテルリンク作 島村抱月譯
モンナ、ヴンナ（新史劇の模範）三幕

開演中は泰西の舞臺面及劇場美術に關する製作品二百餘點を有樂座内に陳列す

登場技藝員

松井須磨子　逢見一枝　藤尾ゑ子　星野ちか子　山村露子　倉橋仙太郎　澤田正二郎　鎌野誠一　中井哲　宮島文雄　高濱徹樹　笹本甲午　波多譲　高山篤一郎　田中介二　外男女技藝員十數名

入場料

特等　一圓五十錢（ボックス）
一等　一圓（椅子）
二等　卅五錢（三階）

入場券は有樂座及本會事務所は固より市内各所の書店にあり

會員募集

會費は一ヶ年六圓（一月割五十錢）但し第一回拂込は金壹圓の事
會員は上演毎に入場券を受くる外種々の特權を有す

東京市牛込區西五軒町三十四番地 清風亭内　「藝術座」假事務所　電話番町四五七六

東洋大學講師　釋清潭先生新著

狐禪狸詩

三六判美本
定價六十錢
郵稅八錢

今世何ぞそれ狐禪狸詩の多きや著者大獅子吼猛然として起ち狐禪の窟狸詩の窟を蹴して之を壞る其の筆端に上りしもの實に此の一書なり今や裝成りて人間に横行する世の狐禪狸詩に太平なる者は讀むも詮なしただその狐禪狸詩に不平なる者のみこれを讀むべし

釋清潭先生著
寒山詩新釋
定價五十錢　郵稅八錢

[illegible]先生著
禪の極致
定價六十錢　郵稅八錢

釋清潭先生著
和漢高僧名詩新釋
定價五十錢　郵稅六錢

高島米峰先生著
一休和尚傳
定價九十錢　郵稅八錢

東京小石川區原町六　振替東京一五六八六　**丙午出版社**
東京小石川原町六　振替東京一二五三　**鷄聲堂**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四六二倍版 百二十五頁

創作

本號特價 二十錢 送費一錢五厘

九月評論號內容

■長詩■
三木露風
加藤介春
福士幸次郎
室生犀星
萩原朔太郎
邦枝完二
富田砕花
[illegible]中太郎
山村暮鳥

■短歌■
太田水穗
和田山蘭
橋口谷山
三ヶ島葭子
矢澤孝子
四賀光子
若山喜志子
菊地野菊
加藤東籬
小川水明
尾山篤二郎
若山牧水
創作詠草

破調私見(評論)……北原白秋
短歌の居るべき境地(評論)……三井甲之
典型の破壞(評論)……島木赤彥
眞面目さいふ言葉(評論)……加藤介春
詩の境地、歌の境地(評論)……服部嘉香
漫衍(評論)……三富朽葉
詩に就て雜感(評論)……福士幸次郎
現代語さ短歌(評論)……西出朝風
第一作社の俳句愚見(評論)……[illegible]川數夫
私事(評論)……内藤鋠策
所謂破調論(評論)……[illegible]田[illegible]
我が破調の由來及び雜感(評論)……若山牧水
伊藤左千夫先生が事ども(評傳)……齋藤茂吉
伊藤左千夫先生が事ども(評傳)……古泉千樫
馬鈴薯の花を讀む(批評)……尾山篤二郎
八月の歌壇(批評)……上總屋太兵衛
創作復活號の歌(批評)……いそのまさこ
あの時分(感想)……岡村千秋
空想せる生活(感想)……福永挽歌
空想せる生活(感想)……沖のいし
雜誌「創作」の事業(感想)……若山牧水

發行所 東京市小石川區大塚窪町廿番 振替口座東京二五九七一 創作社
發賣元 東京市京橋區銀座三丁目七 籾山書店

毎月一日
一回發行
一冊金二十五錢
郵税金一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百五十九號（九月・一日發行）

六冊前金郵税共
金一圓五十錢
十二冊同上
金二圓八十錢

戯曲「ギヨッツ（ギヨオテ）」……森鷗外譯

聖モウリス、メエテルリンク……松本苦味

「モンナワンナ」とエレクトラ……小野秀雄

藝術座の舞臺意匠に就て……川村花菱

その後の公衆劇團……松居松葉

默阿彌著作解題……河竹新水

藝術座の內部に就……秋田雨雀

「妙々車」を見た思出

劇談會（歌右衛門、歌六、捨三郎）……鈴木春浦

操の「太功記十段目の型」……森はのは

藝術座の「モンナ、ワンナ」……島村抱月

「博多小女郎」を見……山の手の女

「博多小女郎浪枕」の歌……佐々木信綱

逝ける女優九女八（其水、春風、青々園、翠醉）

浪花座の「新舞臺下地」……河瀬喜代美

帝國劇場を見……下町の二八娘

役者の先門……坂本猿冠者

八月の劇場（青々園、春浦）

脚本「秋から」……渡邊未灰

本郷湯島切通坂町書報社內
歌舞伎發行所
振替口座一八一六番
電話下谷二四八三番

月刊美術雜誌

みづゑ

第百參

九月三日發兌

送料共廿五錢

□插畫

□[illegible]（水彩畫原色版）……槇木滋
□[illegible]（同）……故大下藤次郎
□[illegible]（同）……寺田季一
□晴天の家と畑（同）……武田芳雄
□[illegible]（水彩畫寫眞版）……故渡邊與平
□[illegible]ッサン（寫眞版）……吉田[illegible]
□[illegible]水彩畫寫眞版數葉……

□記事

□筆ひついた事……津田青[illegible]
□繪畫に於ける象徵……山宮允
□水彩畫の話……赤城泰舒
□赤城より……水野以文
□三脚物語……鵜澤四丁
□代赭石……山崎紫紅
□旅の車窓より……藤田紫舟
□講習會日誌……赤城泰舒
□廣島夏期水彩畫講習會雜感……

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫研究の專門雜誌なり、水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も本誌を坐右に欠く可からず。

發行所　東京小石川關口駒井町三番　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十七卷　九月號　第九號

九江府より　武井大助
フロランスの一日　小林萬吾
薄倖の短生涯　上田敏
金剛杖　石榑千亦
異本山家集に就て　志田義秀
初戀（ハッペル）　吹田盧風
開重左（モリエール）　峯野柴二
大都の詩人　吳野潮音
犬山城の夕暮　竹柏園主人
萬葉集講義　佐々木信綱
短歌百首　石川巖
短歌百首　眞鍋敏子
短歌百首　小林直子

定價一部金二十錢●半年前金一圓●一年前金二圓●税共

東京日本橋區本石町一ノ一　竹柏會出版部
電話本局五一七〇番　振替口座東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

△九月一日發行△

毎月一回 一日發行

美術新報

價三十錢 郵一錢五

第十二卷△第十一號

スナツフボツトル(ジオルジ氏の蒐集に就て)……坂井犀水
布哇の畫家ヒッチコック氏……岩村透
印度藝術の探險……柳谷洸鱗
繪畫に現はれたる樂器……鈴木皷村
和漢風景畫概觀……坂井犀水
本年のローヤルアカデミー(第一信)……瀬本作次郎

繪畫

スナツフボツトル(原色版)……ジオルジ氏藏
布哇風景(アートタイプ)……ヒッチコック筆
貴公子肖像(網目版)……十八九世紀頃の印度畫
巴理の判斷(原色版)……レス、メナアル筆
フリーズの浮彫(網目版)……パルテノン在

レス、メナアル……森田龜之輔
パルテノン(下)……大隅爲三
新建築印象(九、中央停車場)……黑田鵬心
名家訪問記……碧雲居生
クリスタルパレースに於ける英獨博覽會……瀬本作次郎
新聞と美術記者—岡田九郎氏……浦仙生
隣松庵の觀月會……浦仙生
金澤通信……浦仙生
時報●新刊紹介等……

發行所 東京本鄕湯島切通 畫報社 電話下谷二四八三 振替一八一〇六番

毎月一回

音樂

第四卷
第九號

一日發行

■竹内梅子女史を悼む……同人
□安永天明時世相と富本節……福田勘藏
■歌樂雜筆……吉丸一昌
□音樂教授法沿革史……草川宣雄
■ゲーテのファウストとグーイのマルガルテ……黑田成哉
□近代女流歌うたひ……秦豐吉
■アントンルビンシュタインの逸話……森田愛子
□倫敦だより……太田黑元雄
■創作獨唱曲演奏會に就て……小野學朗

口繪
□樂譜 さよなら……山田耕作作曲 三木露風作詩
■逝ける竹内梅子女史とその絶筆
□ハーモンシャリーの聖

■創作短唱……
□幻想の編外一篇……尾山篤二郎
■このごろのホフマンスタール……高辻秀宣
□我が附くる詩……中川一政
■高美人……内海泡沫
□及ばぬ思ひ 詩……高吉月地
■若き笑顔……井上猛一
□こゝにて 詩……大熊信行
■悲しい思出……高安百介
□叔尾堂 小品……花社師

■發行所
東京音樂學校學友會
振替東京二〇六二番

■發賣所
神田表神保町東京堂

■會友募集
半ヶ年會費一圓三十錢以上前納者は本會友となり、本會所催の演奏會に參聽することを得
九月二十七日には故竹内梅子女史の追悼音樂會を開く
會友は東京音樂學校所催の音樂演奏會にも入場の便を得べし

■定價一部二十五錢
郵稅一部一錢五厘
半ヶ年前金郵稅共
一圓三十錢
一ヶ年前金郵稅共
二圓五十錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新文林

第一卷第十號　（九月號）　定價十錢郵稅一錢

△トルストイとルソ（評論）……阿部次郎

△生の閃き（感想）……前田晁

△朝ゆふのこと（歌）……西出朝風

△寄贈された雜誌の評……ZZZ

△ルノア、ルの事……記者

（口繪）
△少年と猫（オウギュスト・ルノア、ル）△トルストイと夫人△トルストイの墓、文學者の故鄉（中村星湖氏、服部嘉香氏）

△書畫（小說）……水野葉舟

△言葉に對する自覺（評論）……中村星湖

△代表的歌人の歌（評釋）……窪田空穗

△新文範…（島村抱月氏、德田秋聲氏、クープリン氏、

△文藝閑話……兎の耳

（懸賞文）
△小說（秋聲選）
△普通文（朝風選）
△短歌（通治選）
△俳句（鳴雪選）
△詩（編輯局選）
△短文（編輯局選）

▽文壇の雜司ケ谷黨……靑面獸

發行所　東京神田今川小路　忠誠堂　振替東京二〇四三一番　電話本局四九六六番

文章講義

第三回新學期開始會員募集

見本及會則東京神田今川小路大日本文章學會宛申込め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■モザイク■

九月發行第十七號內容

曇天（小說）……藤井伯民

本命の日（小說）……西田長左衛門

春から夏へ（小說五十頁）……水島爾保布

嵐の緒言（未來主義宣言）……ジノ・セヴリニ

サーニン（六月號より毎號九十頁づゝ連載）……武林無想庵譯

伯林より（通信）……生田葵

輕井澤より（通信）……五十嵐禎夫

壹冊金拾參錢郵稅壹錢五厘・六冊壹圓八拾錢

東京下谷區　モザイク社　中根岸六九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊演劇雑誌　とりて

マクベス號

九月十日發行

前號發賣禁止の爲め殘本無し

執筆者

千葉掬香　伊庭孝
松居松葉　原信子
平田禿木　村田實
淺野和三郎　伊豆四郎
人見東明　村雲毅一
目黒眞澄　滿壽怡

挿畫

新歸朝者小山内薫氏の洋行土產なる獨逸、獨ヘッベル座に於けるマクベス所演のプログラムを初めアービング、ツリー、ウエゲナーエレンテリー、ツリッシユ其他泰西名優のマクベス所演の寫眞、舞臺面。沙翁時代の劇場。クレエグの舞臺デザイン、九月末帝國劇場所演用の村田實の舞臺デザイン。

坪内逍遙博士序
森鷗外博士譯
沙翁劇マクベスは九月廿六日より五日間近代劇協會によつて帝國劇場に開演せらる。

マクベスの演劇を知らんと欲する人々は一讀を乞ふ。

麹町區富士見町二ノ卌七　とりで社

純詩歌雜誌

第三年第九號

詩歌

新秋號

定價金廿五錢 郵稅金一錢

□諸國詩壇の新思潮（評論）……昇曙夢
□譯詩一篇（[illegible]）……昇曙夢
□地獄の實在（小品）……蒲原有明
□海の上、（長詩）……三木露風
□物（象徴詩）……三木露風
□心（抒情詩）……加藤介春
□不安（長詩）……水野葉舟
□詩（長詩）……川路柳虹
□風景（長詩）……山村暮鳥
□[illegible]……山村暮鳥
□魚（長詩）……服部嘉香
□發問[illegible]篇（長詩）……尾山篤二郎
□落葉（長詩）……室生犀星
□紫蘇を摘む日（短歌）……佐々木順
□發熱の前（短歌）……米田雄郎
□妻の家より（短歌）……佐藤嘲花
□洲羽の歌（短歌）……山田邦子
□狂女と赤い花（短歌）……楠田敏郎
□河原うつぎ（短歌）……熊谷武雄
□記憶（短歌）……狹山信乃
□青樫の枝（短歌）……前田夕暮

短歌
□村田光烈
□瀧澤[illegible]
□田中白夜
□清水白花
□都倉詩人
□小谷清子
□安藤迷雄
□吉水醉果
□栗田朱鳥

□八月歌壇の印象　前田夕暮

□露台より　栗[illegible]嘲花　小泣敏郎　衣邦子　深雪信乃　夕暮

□詩歌詠草
□小曲數篇

發賣所 東京神田千代町 東京堂

社友募集 白日社 [illegible]

發行所 東京市外西大久保 白日社（振替東京二六一六三）

生活

第十一號 [九月號]

毎月一回
一日發行

一部二十五錢
郵稅二錢

挿畫

首の習作……………………………アウギユスト・ロダン
煙草をつむ人……………………………ポール・セザンヌ

記事

反逆(ジヤンクリストフ)5……………高村光太郎譯
結婚迄(2)……………………………岸田劉生
太陽崇拜……………………………福士幸次郎
ロダンの言葉……………………………木村莊八譯
ある夫婦(小說)……………………………岸田劉生
消息……………………………惣太實

發行所 東京牛込區水道町五三 振替東京四三七三番 日本洋畫協會出版部

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

月刊美術雜誌

現代の洋畫

第十八號

第八月號

毎月一回一日發行
定價三十錢

插畫	
吉野山西行の庵（色刷）	有島壬生馬
朝（同）	森田恒友
夕（同）	同人
郊外（同）	坂本繁太郎
洗濯女（同）	エドガル・ドガ
聖職者の肖像	ヴァンダイク
街道なる[illegible]	レン[illegible]
[illegible]作品	六枚
[illegible]藝術	六點
古代埃及の壁畫[illegible]	
[illegible]	

記事	
[illegible]	[illegible]田久吉
[illegible]古藝術	[illegible]
斷片	春[illegible]
[illegible]の彫刻	[illegible]
各[illegible]	岡田三郎助
時間的繪畫に就て	渡邊[illegible]
畫室漫語	杉浦非水
日時計の話	高木[illegible]
[illegible]より哈爾賓まで	辻永
奈良より	北山清太郎
附錄	
[illegible]氏藝術觀	木村莊八
其他	

木村高村岸田共著

本誌前號

後期印象派號

定價六十錢

大好評にて初版忽ち賣り切れと相成候へば近く再版を
出可く候間出來の上は最寄書店より御購入相成度候

發行所 東京牛込區水道町五十三番 振替東京四二七三 日本洋畫協會出版部

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

公衆劇團 第壹回興行

十二月一日より十日間　帝國劇場にて毎夜開演

十月興行狂言

(一)マクベスの稽古（喜劇）壹幕

ベアリング氏作　駿河町人氏譯

是に大詩聖沙翁（シエークスピーヤ）のポンチ畫にして、實に日本劇壇現下の諷刺畫なり。此喜劇に對して愧死せざる俳優果していくたり、かある？

(二)茶を作る家（現代劇）貳幕

大久保二八子作

有ゆる舊套より自由なる無名の才人が、新しき眼光と新らしき筆力を以て日本現代の社會制度を描破したるもの、新たに組織せる俳優團の新脚本に對する新演出法の切れ味や如何に。

(三)エレクトラ（悲劇）壹幕

ホフマンスタール氏作　松居松葉氏譯

二十世紀文藝の驚異なる維也納詩人が絢爛豐富を極めたる大劇詩！此一幕を演出するために公衆劇團の俳優は泰西劇術を根本的に研究し、眞正の意義に於ける西洋劇を、こゝに始めて日本の劇壇に打建てんとす

(四)女がた（喜劇）壹幕

文學博士　森鷗外氏作

日本に於ける二十世紀世界的文豪森鷗外先生が、文壇の傍らに戯する所あり、興味をもつて作られたもの、先生の創作劇既に文壇の珍たるに、此の創作は更に珍なるもの、而して其平易にして興味ふかき、此作の如きは更に〳〵珍なるもの。之を演出するに當り俳優の技巧と舞臺の裝置とが如何に最新式の演出法を採れるかを見よ！

公衆劇團講演會（傍聽無料）

來九月下旬本郷座又は新富座に於て、諸演劇大家は目下御依頼中

小織桂一郎會を司どり河合武雄開會の辭を述ぶべし

〔公衆劇團俳優〕（いろは順）

岩田祐吉　英太郎
小河幸雄　岡本五郎
河合武雄　川村佳一
加藤桂二郎　武村新
田中榮三　谷澤時之助
中尾米次郎　上杉芳雄
上田史郎　野澤英一
久保田甲陽　松本要次郎
東辰夫　櫻井秀太郎
小織桂一郎　鈴木清隆

興業主任　大谷竹次郎
俳優總代　河合武雄
仝　小織桂一郎
興行世話役　松居松葉

附錄

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人解放の悲劇
――エンマ・ゴルドマン――

人類の間に存する種々なる集團の根本的差異を論ずるあらゆる政治及び經濟上の學說、階級と種族の差異、女權と男權とを劃する全ての人工的境界線などいふ樣々なものが在るにもかゝはらず、この樣な色々な差異が次第に成長して何時か完全なる一つのものとなるの日が來るといふ確信を私が抱いてゐる者であるといふことを豫め含んで置いて頂きたい。と云つて私はなにも平和條約を提供しやうといふのではない。今日に於ける社會生活の全般を通じて幾多の矛盾せる利害關係の勢力から生じて來る社會的闘爭は正しき經濟上の原理を基礎としたる社會的生活改造の實現と同時に徹塵に粉碎せらるゝであらう。

兩性及び個人間の平和もしくは調和といふことは必ずしも人類の淺薄なる平等といふことに基するものではない。或は又個性及び個人の特長を沒却するといふことでもない。最近の將來が解決しなければならない今日當面の問題は如何すれば人は自分自身であると同時に他の人々と一つになり、全人類と深く感ずると共に各自の個性を維持してゆけるかと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いふことである。これが群集と個人と、眞の民主々義者と個人主義者と、或は男と女との如何を問はず悉く何等の反抗衝突なしに握手し得る根底土臺であると私には思はれる。私どもの座右銘は「おたがひに許しあへ。」と云ふのではなく、寧ろ「おたがひに理解せよ。」と云ふのでなければならない。よく引照せられるスタエル夫人の「全てを理解するといふことは全てを許すことである。」といふ文句に對して私はこれまで特に感心したと思つたことは一度もない。その文句にはなんとなく懺悔室の臭ひがついてゐる。自分の同胞を許すといふ言葉は傲慢なパリサイ人でも云ひさうな文句である。同胞を理解すると云へばそれで澤山だ。婦人解放とその全性に及ぼす影響に對する私の見解の根本的方面がこれによつて略々讀者に推察せらるゝことゝ思ふ。

解放は女子をして最も眞なる意味に於て人たらしめなければならない。肯定と活動とを切に欲求する女性中のあらゆるものがその完全な發想を得なければならない。全ての人工的障碍が打破せられなければならない。偉なる自由に向ふ大道に數世紀の間横たはつてゐる服從と奴隷の足跡が拂拭せられなければならない。

これが婦人解放運動そも〳〵の目的であつた。然るにその運動の齎らした結果はと云ふと反つて女子を孤立せしめ、女性にエンセンシャルである幸福の泉を彼女から奪つてしま

つたのである。單なる外形的解放は近代の婦人を人工的の者と化し去つた。それは恰かもかの佛蘭西の植木家の手になるピラミッド形、車輪形或は花環形の奇異なる草木を徒らに聯想せしむるのみで、女子内部本性の發想によつて達せらるゝ何等の形をも現はしてはゐないのである。かくの如く人工的に成長せる女性植物の大多數が特に現社會の所謂智識階級中に發見せらるゝのである。

女子のための自由と平等！　この言葉が初めてかの高潔勇敢なる人々によつて發言せられたる時、どの樣な希望と向上心を女性の間に呼び醒したであらう。太陽はあらゆる光輝と榮光をもつて新世界に昇臨せんとした。この世界に於て女子は自己の運命を指導すべく自由ならんとした。――その目的は確かに偏見と無智の世界に對し全てのものを賭して戰つた男女先驅者の偉大なる熱誠と、勇氣と忍耐と不斷の努力とを價したのである。

私の希望も又元よりその目的に向つて進んでゐるのである。しかしながら今日實際解釋せられ、適用せられてゐる婦人の解放はその偉大なる目的に達することを誤つたと私は主張する。今や、眞に自由ならんことを切望する婦人はかの解放より再び自己を解放せざるべからざる必然に面してゐるのである。これは如何にもパラドキシカルに聞えるかも知れない。しかも、それは唯だあまりに眞である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女子は解放を通じて如何なることを成し遂げ得たか？　結果は僅かに數洲に於ける選擧權の獲得となつて現はれたに過ぎない。(これは米國の場合に就て云つてゐるのです。——譯者) それは果して多くの善意を抱ける代表者が豫言した如くわが國の政界を純化し得たであらうか？　確かにそうではない。從つて今や健全明晰なる判斷を有する人々はかの學校の寄宿舍に於けるが如き口吻をもつて政界の腐敗を論ずることを當然止めなければならない。政治の腐敗は種々なる政治上の人物の德不德と何等の交渉もないのである。その原因は全く物質的のものなのである。「奪ふ者は與ふる者よりも幸福なり。」「安く買つて高く賣れ。」「汚れたる一つの手は他の汚れたる手を洗ふ。」——政治とは畢竟かくの如き座右銘を有する實業界の反映に過ぎないのである。所謂選擧權を有する婦人と雖もかゝる政治界を純清ならしむる希望は殆んど絕無なのである。

解放は又男子と平等なる經濟的獨立を女子に與へた。即ち女子には各自の好む職業に從事することが出來るやうになつた。然しながら女子の過去並に現在の體力修練が男子に拮抗すべき必然力を充分具備して置かなかつたがために、女子は屢々男子と同等なる市價を得んがためには全神經を緊張させ、全精力を消耗し盡さなければならない。結果は女子の不成効に終つてゐる。女敎師、女醫者、女辯護士、女建築家、女技師等は男子の競爭者の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

如き信用と報酬とを得てはゐない。而して偶々その憧憬せる平等に達することを得るにしても一般に身體と精神の健全を犧牲としてゐるのである。かの大多數の婦人勞働者の如き、家庭の狹隘と自由の缺乏とが只だ工場、デパアトメントストア、事務所等に移されたるのみとすれば果してどれ程眞の獨立を得てゐるであらうか。のみならず、終日の激しい勞働の後、「ホーム、スヰートホーム」を求むる多數の婦人の上に冷やかにして氣持惡く、不秩序にして快からざる家庭の重荷が背負はされるのである。光榮ある獨立よ！ 數百の少女が帳場、ミシン機械或はタイプライタアの後にかくれたる「獨立」に痛み疲れて結婚の最初の申込をよろこんで承諾するは少しも怪しむにたらぬことである。彼等は親權の軛を脫せんと欲する中流の少女の如く結婚を待ち望んでゐる。單に衣食の道を得せしむる所謂獨立とはそのために凡てを犧牲にすることを婦人に期待する程理想的なものでもなく、又欽慕すべきものでもない。私等のあまりに高く賞めすぎる獨立とは畢竟婦人の天性、愛の本能、及び母の本能等を鈍磨する方法に過ぎないのである。

　それにも關らず、少女勞働者の位置はより多く敎養を要する職業に從事する一見幸福なるが如く見ゆる姉妹の位置よりもより自然に又人間（ヒユーマン）である。かの體面を維持するに急がはしき敎師、醫師、法律家、技師の如き姉妹の內部生活はその實日に日に空虛に凋死しつゝ

あるのである。

現在に於ける婦人の獨立と解放の觀念の狹義に解せらるゝこと、自己と社會上の位置を同じうせざる男子を戀するの恐怖、戀愛が自己の自由と獨立とを奪はんとの恟懼、母たるの愛と喜びが職業に全力を捧ぐることを障げんとの恟憂――全てこれ等の意識の集合は近代の解放せられたる婦人を強迫的に尼僧たらしめんとするのである。人生は彼女の前にその偉なる淸き悲哀と深く恍惚たらしむる歡喜を抱きながら、少しも彼女の靈魂に觸るゝことなくして回轉するのである。

大多數の論者によつて解せらるゝが如き、所謂解放は眞の自由なる婦人、愛人、母等の深き情緒中に含まれたる無限の愛と歡喜とを許すにはその範圍があまりに狹隘である。

經濟的に自主自由なる婦人の悲劇は經驗の過多より生ずるのではなく反つてその過少に起因してゐるのである。誠に、彼女の社會及び人生に對する智識は過去の姉妹に比して遙かにすぐれてゐる。何故なれば彼女は常に人生の核の缺乏を痛感してゐるからである。それのみが只だ人類の精神を豐富にする。それを把まずしては女子の大多數は單に職業的自働機械と化し終つてしまふのである。

斯くの如き狀態の來るべきことは、かの倫理學の領域にあつて、當然男子が女子に卓越

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した時代の多くの遺物が尙ほ殘存してゐるといふことを明らかにした人々によつて夙に先見せられた。而してその遺物は今なほ有益であると考へられてゐる。更らに重要なる事は、解放せられたる婦人の大多數がその遺物を必用としてゐることである。現存せるあらゆる制度を破壞し社會を更らに進歩せる、更らに完全なるものに改めんとする運動は理論に於て最も急進的思想を抱いてゐる人々によつて行なはれてゐる。然しながら彼等はそれに反し、その日常の行爲に於ては月並の俗人と變ることなく體面を裝ひ、反對者の讃同を得んことを切りに求めてゐる。例令へば「財産は盜奪なり。」といふ思想を代表してゐる社會主義者或は無政府主義者の中にすら留針半ダース程の價を返濟しないといふので怒り出す者がある。

同型の俗人が又婦人解放運動中には發見せられるのである。黃色新聞雜誌記者或は浮薄なる文士等は屢々解放せられたる婦人を措いて善良なる市民とその恐闘なる妻とを戰慄せしめた。女權擴張運動者は悉く道德を絕對に無視するヂョージサンの如くに描き出されたのである。彼女はその眼中に神聖なる一物をも有せず、兩性間の理想的關係に對する何等の尊敬をも有せざる女として現はされた。要するに解放とは社會と宗教と道德とを無視する放恣と罪惡の無分別な生活の別名であるかの如く見做されたのである。女權論の代表者は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かくの如き誤解に對して甚だしく憤激した。彼等はユウモアを缺いてゐるので所謂世俗が解するが如き女とは全然正反對であることを極力辨明せんと務めた。勿論女子が男子の奴隷であつた間は善良にも純潔にもなり得なかつた。然し今では自由でもあり、獨立もしてゐるのであるからどれ程自己が善良であるか、そうして社會全般の制度を純化する上にどれ程の効果を與へることが出來るかといふことも證據立てなければならない。實際、女權論者の運動は多くの舊き繩墨を破壞した。然し又同時に新しきものを造り出したのである。偉大なる眞の解放運動は單に皮相の自由のみを認めた多數の婦人と面を逕はせなかつた。彼等の偏狹なる淸敎徒的空想は男子を女性の惑亂者或は邪魔者と見做して彼等の情緒生活外に放逐した。如何にも男子は父としての資格以外に――父なくして生るゝ子供はあらざるが故に――如何なる賠償を拂つても許さるる資格を缺いてゐた。幸にして如何程嚴格なる淸敎徒と雖も母たることの肉的欲求を殺す程强くはない。併し女子の自由は男子の自由と離して見ることは出來ない。而して解放せられたる多くの姉妹は自由に生れたる子供はその傍にある男女兩者の愛と献身を必要とするものであるといふ事實を見逃してゐる樣に思はれる。近代男女の生活に大なる悲劇を齎らしたるは不幸にして、人間關係に對する此の狹隘なる觀念なのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今から十五年前に素晴しきノルウエー人ラウラマルホルムのペンから"Woman, a Character Study"といふ著作が現はれた。彼女は現在の婦人解放に對する觀念の空虛狹隘なること及び婦人の內部生活に及ぼすその悲劇的結果に對して注意を促がした最初の一人であつた。ラウラマルホルムは彼女の著述の中に天才エレオノラデユーゼ、大數學者兼著述家ソニヤコワレフスカイヤ、夭死せる詩人風の藝術家マリイ バシユカアトセフの如き世界的名聲を有する天賦ある數人の婦人の運命に就て語つてゐる。かくの如く異常なる心力を有する婦人の生涯の記述を通じて圓滿、完全なる美しき生活に對する不滿の欲求とその缺乏より生ずる不安と寂寞の著しき足跡が印せられてゐる。これ等の立派なる心理的描寫を通じて吾人は女子の智力が發達すればする程彼女にその性ばかりでなく、人類、友人、伴侶及び强き個性を認める樣な配偶者に出遇ふことが愈々むづかしくなつてゆくのを見ない譯にはゆかない。彼女の配偶者は彼女の性格の一點一劃をも見逃してはならないのである。

男子は一般に自負心を有してゐる。而して女性に對し當然保護の力あるものゝ如く滑稽なる虛勢を示すものが多い。かくの如き男子はラウラマルホルムによつて描かれたる婦人の配偶者たるべく到底不可能である。又只管彼女に智力と天才とを認むるばかりで女子の天性を覺醒することをあやまるが如き男子も等しく彼女に協はざる者である。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

豊富なる智力と美しき心とは通常深く美しき性格の必然なる屬性と考へられてゐる。近代婦人の場合に於ては、これ等の屬性は彼女の存在の完全な肯定に對して障碍となつてゐるのである。「死が別離を餘儀なくするまで」といふが如き言葉を有する聖書を基礎とした舊い結婚の形式が百年以上も女子を壓服する男子の主權、男子の氣まぐれと命令に對する女子の絕對服從、彼の名と扶助に對する絕對の依賴等を代表する制度として定められてゐた。舊るき結婚關係が女子をして只だ男子の下婢であり、子供の携帶者たらしむるものであるといふことはこれまでも度々斷乎として證明せられた。然るに解放せられたる多くの婦人が獨身世界の陜隘なるを厭ふて、様々の缺點あるにもかかはらず結婚生活に走る傾向がある。これは全く女子の本性を拘束する道德上及び社會上の偏見の鐵鎖が煩はしく耐へがたきものになつてきたからである。

多數の進步せる婦人がかくの如き矛盾に陷るの理由は解放の意義を實は理解してゐなかつたといふ事實によつて説明せられる。彼等は只管に外部よりの壓迫を脫して獨立することをのみ必要であると考へた。而して人生と成長とに更に更に有害なる內部壓制者である道德及び社會上の習俗はそのままに打捨てて省みなかつたのである。習俗はそのとるべき道を進んだ。而してそれは今尙ほ吾人の祖母の頭と心とに榮へたるが如く依然として婦人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

解放論者の最も活躍せる代表者の頭と心とに美しく生きてゐる樣に思はれる。

これ等の内部壓制者は輿論の形に於て、或は父母、兄弟、親戚の言葉となつて現はれてゐる。グランデイ夫人、コムストック氏、雇主、文部省等はなんと云つてゐるか？ 全てこれ等の御世話好きと、品行探偵と人間精神の獄吏この人等はなんと云つてゐるが？ 全てかくの如き者をものとせず、自己の立場を確立し、何等の拘束なき自由を主張し自己本然の聲――それが生の最大寶庫なる男子に對する愛にせよ、或は最も光榮する分娩の特權にせよ――に耳傾くることを學ぶまで婦人は眞によく解放せられたりと稱することは出來ないのである。解放せられたる婦人にして自己の胸底に絕へず波動しつつ、聞かれんことを求め、滿されんことを望んでゐる愛の聲を眞に自己の天職なりと信じ、進んでそれを承認せんとする婦人は果してどれ程あるであれう？

佛蘭西の作家ジエーンライブラハは小說 "New Beauty" の中に解放せられたる理想的美人を描き出さんと企ててゐる。その理想は醫師を職とする一少女に體現せられてゐる。彼女は育兒法に就て極めて巧妙に物語る。彼女は又親切であつて貧困なる多くの母に自由に藥を供給する。彼女はある知己の靑年と未來の衞生狀態に關して會話する。而して汚れたるボロを打捨て、石の壁と床を使用することによりて多くの黴菌が驅除せらるるといふ

ことなどを話す。彼女は勿論甚だ質素に實用的な服裝をしてゐる。衣物の色はたいてい黑である。青年は彼女との最初の會合に於て解放せられた友人の智識に敬服する。彼は次第に彼女を理解しやうとする。而してあるうららかな日に、彼はこう〳〵彼女を愛してゐるといふ意識を持つ。彼等は二人とも若い。女は親切で美しい。たとへ服裝はキチンと整ひすぎてはゐるが一點の汚れもない白いカラアとカフスによつて柔かい感じを與へてゐる。

讀者は青年が彼女に戀を打明けることを期待するであらう。然し彼は馬鹿〳〵しきローマンスを實行する樣な人間ではない。詩と戀の情熱とはその婦人の純潔なる美の面前に紅葉する顏を被ふてしまふ。青年は自己の自然の聲を默殺して方正な態度をとる。彼女も又いつもキチヨウメンで、理性的で、品行方正である。若し彼等が結合を作つたなら、青年は恐らく凍死するの危險を冒さなければならなかつたかも知れないと私は氣づかつてゐる。

私はこの新しき美人に何等の美を發見することが出來ないものであることを告白しなければならない。彼女はその夢想する石の壁や床の如く冷淡なのである。私はかの物尺によつて計らるが如き品行方正よりも寧ろロマンチック時代の戀歌、ドンフハンとブイナス夫人の戀、或は父母の呪咀と悲哀と憐人の道德的辯明等を後にして梯と繩とによる日夜の出奔を讃美したい。戀愛にして無制限に與へ取ることを知らないなら、それは戀愛でもなんで

もない。單にプラスとマイナスに力瘤を入れることを忘れない取引の如きものである。

現代に於ける婦人解放の最大缺點は人工的に堅苦しきことと、及び陜隘なる虚勢を張らんとしてゐる處に存してゐる。かくして女子の靈魂に空虚が生じ彼女は生命の泉を飲むことが出來ない樣になつてしまふのである。私は且て眞に新しき婦人と所謂普通の解放せられたる姉妹との間に有する關係よりも、常に子供の幸福と、自己の愛する人々の幸福を祈る舊き母と主婦とかの眞に新しき婦人との間に有する關係が遙かに深いものであるといふことを述べたことがある。單純なる解放論者は私を異端視し火刑に處すべき者であると公言した。盲目なる情熱に走る彼等は私の新舊婦人の比較の如何なるものなるかを洞察することが出來なかつたのである。私は今日諸官省學校等に散在せる所謂解放せられた多數の職業的婦人よりも我々の祖母の多數がその脈管中により多くの血を有し、更らに多くの機智と諷諭と、自然らしさと、素朴と親切の多量を有してゐたといふことを證據立てんとしたのみである。これは徒に過去に婦人をかへそうといふのでもなければ又女子を彼女の舊き雰圍氣なる臺所と育兒室に押込め樣とするのでもない。

救濟は更らに光明なる未來へ全力を擧げて猛進する處に有する。我々は舊き傳説と習慣の拘束を脱して自由に成長することを必要とする。婦人解放運動はその方向に向つて只だ一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歩を進めたのみである。私はこれから更に力を集中してその第二歩を進まんことを希望する。選擧權或は公民權は如何にも善い要求であるかも知れない。併しながら眞の解放は選擧場或は法庭では初まらないのである。解放は先づ女子の心靈中に初まる。全ての壓服せられたる階級はそれ自からの努力によつてのみ眞の自由を得てゐることは歷史が我々に語つてゐる。故に女子はその敎訓を學び、自由は自己の自由に對する努力次第で達せられるものであるといふことを實現することが必要である。故に、あらゆる偏見と傳說と習俗の羈絆を切斷し、自己心內の新生を創始することが遙かに重要である、人生のあらゆる方面にわたる權利の平等を要求することは正しく公平なことである。しかしながら最も根本的の權能は畢竟愛し、愛せられることである。實際、婦人の解放が完全にして眞正なるものとなるの曉にはかの愛せらるること——即ち戀人であり母であること——が奴隸であり、附屬品であるといふことと同意義であるといふ樣な滑稽な觀念は排除されてしまはなければなるまい。或は又男性と女性とは二個の相反せる世界を實現するものであるといふが如き性的二元說の無稽なる觀念も等しく取去られなければならないであらう。

瑣々たるものは分離し、廣きものは結びつく。私等は相互に博大な心を持つ樣にならなければいけない。我々の周圍に群がる有象無象のために、ものの根本を見逃してはなら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない。兩性關係の眞の意義は征服者、被征服者といふが如き關係を許さない。それは只だ一ッの偉大なることを知つてゐる――即ち自己をより豐富に、より深く、より善くするために自己を限りなく與ふるといふことである。それのみが只だ空虛を滿たし、婦人解放の悲劇を無限の歡喜に變ずるであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀愛の進化──エレン・ケイ──

一

瑞典人が、戀愛觀に於て、獨逸人の或者よりも後れてゐるやうに、獨逸人種全體としてはこの點に於て最も進歩せるラテン人に比較すれば後れてゐる。ルーテルの結婚敎義に匹敵するものをルーテルと同時代の佛蘭人僧ラベレーに見出される。彼は新しき一種の僧院に就いて喜ばいし目論を有つてゐた。その僧院に於ては總ての僧は各自の尼僧を有たねばならず、又一年間の試みの後離別するの權利をも有たねばならぬといふのである。この計畫は恐らく戀愛する樣に人種を敎育することに就いて、ルーテルの結婚敎義よりは迂遠な方法ではないらしい。宗敎改革が戀愛と婦人に對する尊敬の念を增したといふことほど眞理に遠いことはない。宗敎改革は獨身狀態に比較すれば結婚せる狀態に對する尊敬を高めたといふ迄で、婚姻に於ける婦人の地位を高めもしなければ結婚に關する戀愛重要の度を增しもしない。中世紀に於てさへラテン人は今日なほ獨逸人種中の男子に殆ど了解されぬやうな尊敬を婦人に拂つた。そしてこの尊敬は一面に於て、ラテン人の血の中に生れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たヴィナス崇拜の形式をとり、他の一面に於てはマリア崇拜によつて婦人に於ける最深なるもの即ち母たることに對する尊敬を現はした。現今に於ても佛蘭西婦人は年齢よりも其品質によつて尊敬される。母が息子を敬ふのみならず、息子も亦母を敬ふ。否母のみではない、母以外、相當な年輩の立派な婦人ならば誰れでもあらゆる年齢の男子から家庭內に於ける如く社會生活に於ても厚遇される。中流社會の妻は――たとへ子供の不利にもせよ――獨逸中流社會に見ざる眞面目さをもつて夫の職業を助ける。しかも佛蘭西の家庭生活は伊太利に於ける如く暖かな一種の親しみを有つてゐる、併しそれは獨逸人には分らない。といふのはラテン人の氣質は獨逸魂の粗い線やさびた色彩の面にその暖い親しさの光りを流す丈の親切を欠くから。獨逸人を南國人よりも遙に非戀愛的なものとするのは其魂の强さよりも寧ろ性質の冷淡なことである。北國と南國との戀愛的習俗の間の差別の上に自から表れるものは婦人に對する尊敬といふよりも婦人に就いての無頓着といふことである。併しこれら總てが正當の故を以て許された時、我々は始めて「戀愛の法庭（コーツ、オブラブ）」時代から南方國民間に有力だつた戀愛と結婚の分裂に終局を置かうとする努力に於て獨逸精神の影響に可なり重きを置くことが出來る。何故なら佛蘭西精神の特質はものゝ差別を立てることにある。これが佛蘭西精神にその突きつめた處まで思想を追求する力を與へるが、それと同時に實

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生活に於ては淺薄にもそれを不徹底に終らせる傾向がある。然るに獨逸人の强味は統一欲である。これがあらゆる事物を包含せねば承知せぬところから思想家としては矛盾多きものとするが、この反對にそれが又實生活上の矛盾を取去らせる。新教を創造したこれと同じ人格の深き精神が獨逸人の世界に於て、信仰と同様に戀愛を個人の事件とすることを、又結婚と戀愛とを一つにすることを求めさせた。北方の教育ある階級の中では便宜上の結婚や、家族によつて定められた結婚は今や過去のものとなつた。然るにラテン人の世界に於ては例外はいよ／＼増加するにせよ、是等の結婚は今もなほ普通である。併し最も多くの場合、佛蘭西人がその戀愛的感情を約することは結婚前のものも、後のものも常に自由關係である。それで佛蘭西の妻は、婦人を結婚に導き、遂に姦通に陷れる誤れる教義中の最も危險なる「婦人は常にその子供の父を愛する」といふ定説の虚妄なることを遺憾なく示してゐる。是に反し、我々は既に一人格の中に融け合つた妻と戀人とをセークスピアに見る。しかも英文學に於て戀愛と結婚の一致に對する獨逸人の感情の最高表現に出逢ふことは珍らしくない。かの中世の戀愛詩人（ミンネシンガース）達が歌はなくなつて以來、獨逸及スカンディナヴイア文學はルーテル教に支配され、專ら肉慾を證明する。婦人は子供をもつものとして、又家婦としての運命を果すことによつてのみ尊敬される。とはいふものゝ、僧庵と獨身生

活の廢止は以前個人と共に死滅した精神力を遺傳する上に好結果を持ち來した。又以前、理想をもつて僧庵の中に隱れた人達の或者を通じて、偉大なる戀愛に對する憧憬を子孫に遺産として傳へることの出來たのは惡いことではあるまい。

獨逸に於ては、「啓蒙時代」の有名な詩人ゴットシエッドが婦人敎養の權利を主張し、亞米利加に於ては獨立戰爭の間に婦人も亦市民たるの意義を明にした。又此國に於て奴隷制度に對する反抗や、婦人問題が盛んになつたのは其後自由に對する奮闘の間であつた。

佛蘭西に於ては十八世紀が有史以來の「婦人の世紀」である。交際社會はあらゆる思想の集中點であつた。時代思想があらゆる方向に燃える火花を送り出す電池ともなる婦人のために最も高名な男子達が筆を執つた。斯くして佛蘭西婦人は佛蘭西革命の準備を助けた。革命の間に於てオリンプ、ド、ゴーヂュは男子の權利の宣言に對抗して「女權の宣言」を書き、コンドルセーは婦人の要求に贊同の意を表した。又我々はメリー、ウオルストンクラフトの「女權の擁護」(一七九二)に於て、同じ年に出版されたヒッペルの「婦人の市民上の改正に就いて」に於て、又瑞典人ソリルドが同時代の論文「婦人本來の偉大」に於て新時代の同じ精神に面接する。斯くの如くして是等はいづれも地位の平等に關する完全なる解放の次第書、即ち敎育、勞働、立法權の享有、及法律若しくは結婚に於ける地位の平等

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に關する男女同權を既に含むこの時代の注意すべき前兆であつた。

解放せられたる婦人の孤立せる例は少しも新しいことではない。希臘に於てはこんなタイプは喜劇に使ふにもあまりに平凡だつた。羅馬には既に自活する婦人がゐた。中世紀を通じてはブリドゲットのみならず他の多くの婦人達が——尼院長若しくは監督として——屢々偉大なしかも有益な活動をした。古代、中世、及文藝復興時代は皆女性の學者、哲學者及藝術家を有つてゐた。併し我々が敎育を高め、女權を保證せむとする撓まざる、意識的努力を婦人自身の中に並に或男子の中に見出すといふことは大革命の世紀迄絶えてなかつたことである。

そしてこの努力の大きかつた處は何處でもそれが戀愛と結婚に於ける婦人の地位革新の欲求と一致してゐた。

× × × × × ×

一夫一婦制が戀愛を惹起すといふことは甚だ平凡な、しかも誤まれる說である。戀愛は人間界に於けるが如く動物間にも既に顯はれ、そこでも戀愛は一夫一婦と無關係なることを示してゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人間社會に於ける一夫一婦制の起原は所有權の關係、宗敎的思想、功利的斟酌であつて、戀愛撰擇の重大を悟ることにあるのではない。是に反して、戀愛は一夫一婦制と不斷の爭鬪を繼續してゐる。それ故に、より高き戀愛觀は專ら一夫一婦制によつて形づくられると思ふのは深き謬見である。戀愛の觀念は結婚そのものと結合することによつて發展せる如く結婚に對する攻擊によつても亦非常に發展した。

反對の證據が山の如くあるにも拘らず、愛の起源に基督敎があづかつて力があつたといふことは常に誇大されてゐるが、性愛の發展に對する基督敎の間接の影響には十分に重きを置かれてゐない。全世界に亘つて――アイスランドから日本までも――あらゆる時代に於ける人間の心の中の戀愛の力を立派に證據立てる歌や傳說が見られるのは眞實なことだ。然るに、基督敎が遂に婦人にも心靈の救――換言すれば敎養さるべき人格を許すに至る迄は性的感情は人間の心靈生活に於て低き位置を占めてゐた。加之、基督敎は男らしき德よりも女らしき德を稱賛し、クライスと自身は婦人、戀愛、家庭生活を知らなかつたとはいへ、かくして彼の倫理は間接なる形式に於て婦人尊崇となつた。基督敎によつて個人の價値に心靈としての價値を附與したといふこの大切なることは――市民としての個人の價値を主張する邪敎に反對して――矢張り中世紀の間、戀愛を生命の力とさせたのにあ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

づかつて力あつた隱れたる原因の一つであつた。

昔、結婚は社會に對する義務で、友情は同情の自由なる表現であつた。男子の意識が婦人の心靈を認める迄は人格的戀愛は起り得なかつた。併し人類の心靈を育てるかの感化力は太古の幼稚な戀愛が間接に、亦、成長せる男女間に同情の要求を發達させたほど、實に神秘なものである。又カドリック禁欲主義によつて抑制された性的本能は間接に肉欲を超越せる内省的な靈魂ある戀愛感情を促進せしめた程である。

戀愛を心靈の最高狀態とする近代の戀愛觀は十字軍の時代に於て佛蘭西の南部に「戀愛の法庭」といふものがあつたやうに既にこの時代に於て、形作られてゐた。婦人、騎士、歌手は共に戀愛と結婚の矛盾に幾分か重きを置きつゝ、戀愛を強め、且つ精練する。

學者達は詩に於ける戀愛の精練せられたる表現がいかに高級の性的生活の形式と一致するかを示した。何故なら一夫一婦制が法律となり、秘密の一夫多妻が習慣となつたから。戀愛感情のこの二區分は一面に於ては、非常に高く、美しきものを、他の一面に於ては非常に低く、粗野なるものを現すやうになるもので、それはいづれも性的撰擇の自由が論議せられないため、この區分が未だ知られてゐない諸國民——若しくは一國民の内の諸階級

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の間には到底それに相當すべき何ものも實在しないほどである。

しかもそれは自然なことである。何故ならそこには性的生活が如何に高き意識によつても亂されることの出來ぬ單純な動物性の一なる「天國」の無邪氣を保存してゐるから。この無邪氣は只長時代の發展の結果、より高き境地に進むことが出來る。それは感情の發展の上にも行はれる「分業」によつて達せられるのである。

中世紀は斯くの如くして只結婚から戀愛を分つことが出來た。これは戀愛に關する偉大なる歌手や偉大なる戀物語によつて證明されてゐる。詩界に於けるトリスタンとイソルテ、現實界に於けるアベラアドとヘロイスは丁度人間の思想の權利の宣言の如く人間の感情の權利の宣言を遂に持來す曉ともいふべき新時代の最高典型である。生に於ても、死に於ても結ばれたる是等の戀人は、それみづからの法則を作り、他のあらゆる法則を排除する自由戀愛、又は小さき魂の定めなき傾向に反して、大なる魂の永久威なる偉大なる戀愛に對する中世紀に於ける最も高き證據である。

內省的心理を常に擴張しつゝあるスコラ哲學、神に捧げたる心靈生活を常に精練しつゝある神秘主義は無意識に信仰の白き火焔に油を注ぐと同時に戀愛の赤き火焔の上にも油を注ぐ。戀愛の新生命は詩の火花の中に俄然として現はれる。この最も高潮せる火焔はタン

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

テである。それはラテン人中の撰ばれたる者の心靈の内に生きてゐた。文藝復興期のプラトー主義は人間の最も高き性質を圓滿完全にする最も勝れたる手段として戀愛に對する中世紀の概念を精練した。斯くの如くして、社會の習俗から獨立した戀人の權利が確立された。

文藝復興の法庭に於ける如く、又は十七世紀の智者の辨難に於ける如く中世紀の戀愛の法庭に於ても、婦人が男子と感情上の同權を許されたのみならず彼等の精神的賜を使用する同じ自由を許されたといふことは重大なことである。何故なら高められたる戀愛は、婦人の精神生活の增大と、斯くの如くして高められたる男子の、婦人の人格の價値に對する尊敬とに、公然と然らざれば他の方法で結び付けられてゐるから。男子にとつて「女性」は享樂の手段であるにも拘らず、戀愛が熱烈なる奉仕によつてのみ勝ち得られる一個の婦人に對する獨占的の欲求を意味するやうになつた時、婦人は妻となる。戀愛事件が婦人によつて指導される時いつでも男子の戀愛は高められる。シエークスピーアに於て我々は前述の精神的教養の凡てが概括されてゐるのを見出すことが出來る。彼の描いた最良なる婦人は皆熱烈であると同程度に貞節であり、しかも亦彼等は同程度に精神的に豐富で、完全な人格である。それ故に彼等は亦行動の瞬間に於ても其聰明と敏捷なることによつて指導者

である。そして、たとへシエークスピーアが他のあらゆる大詩人の如く婦人を現實から得るよりも寧ろ空想から形作つたとはいへ、又伊太利の文藝復興の先驅者等は多分戀愛に就いて、ペトラルカの經驗よりもボッカチオの經驗を屢々したであらうとも、又法外な裝飾を好む時代の趣味が戀人の國を裝飾的人物の住む不自然な花園に移したとはいへ、人生それ自身は、殊にラテン人の人生は――彼等の最良なる文學と同樣に――戀愛がはでやかさと、醜さの交々現はれる婦人に對する媚諂めてとなつた時、かの男性の「哲學者達」が婦人から指導といふことを奪ひ去つた時に於てさへも、戀し合へるふたりのものと、戀愛に對する犧牲の立派な、美しい模範を常に示すことが出來る。

ルーソーの現れた時代に於て、戀愛はラテン快樂派の不道德によつて、又獨逸ルーテル派の「道德」によつて等しく卑められてゐた。

彼が戀愛に對してした事は肺臟のためにすることゝ同一だつた。といふのは若し是等の時代に於て一つの寢室が蠟燭や香料で窒息する樣になつたなら、豐饒な地と、花咲く植物の香を籠めた、暗き森ある、星多き夏の夜空に窓を開け放つたであらう。

併しルーソーは彼自身の最も近くに橫つてゐる思想、即ちひとり戀愛のみ結婚を形作り、ひとり婦人の人格の發展のみ戀愛を深めるといふ思想に從ふことをしなかつた。ルーソー

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の後、その輝ける足跡を遠く導いたゲーテさへ、戀愛を撰擇的親和力の不可思議なる運命の力として示めすことによつて、戀愛の幸福をその發展に於て見るよりも寧ろ婦人の卒直なる天性に於て見た。佛蘭西革命はルーソーの提案の結果をまた戀愛及婦人問題の上にも及ぼし結婚を民事とし、離婚を自由にしたが、併し婦人に政治上の權利を附與することはしなかつた。實に、婦人が既に所有してゐたその權利の形式丈をそのまゝに保存することさへしなかつたのである。併しルーソーと佛蘭西革命との影響を受けた人々はいづれも爾來文學に於ても、又實生活に於ても戀愛の權利の宣言に專ら從事した。

らいてう譯

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

新秋燈下に薦むる書

石井柏亭著
歐洲
美術遍路
下卷 近刊

土岐哀果著
滿鮮詩集
近刊

斑鳩詩社
マンダラ
詩集 近刊

齋藤茂吉著
赤光
歌集 近刊

國木田獨歩著
獨歩詩集
近刊

發行所 東京市日本橋區檜物町九（振替東京五六一四番） 東雲堂

らいてう著

再版印刷出來

定價金九十錢

送費金八錢

扃ある窓にて

「圓窓より」改版發行

さきに著者「圓窓より」一卷を世に出すや、風俗を害するの故を以て不幸發賣頒布禁止の厄に逢ひぬ、今、そのうちより忌避に觸れたる一篇「世の婦人達に」を割愛して、之れを世に出す、敢て自己の問題に思ひを潜むる篤實なる婦人達の熟讀を望む。

東京日本橋區檜物町九番地　東雲堂書店　電話本局一八七一番　振替東京五六一四番

青鞜原稿用紙

大判と小判の二種

大判　薄き藍色刷……百枚綴

小判　朱色刷……百枚綴

定價一冊十九錢……郵税二錢

發賣所　日本橋區檜物町九　振替東京九六一四　東雲堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

詩集

白き手の獵人

三木露風著 ■ 阪本繁次郎畫

今や高華なる新裝
成りて愈々市に出づ!!

著者年來の信條たる象徵の奥ふかく進み入りて、未知の世界に對する郷愁、精髓に達せんとする努力、これらをうたへるもの實にこの一卷の詩集なり。三年緘默の間に著者の苦悶とともに成れるもの、げにも怪しき韻律と、蠱惑の形體を描く。謹みて本集を新秋の詩壇に奬めんとす。

内容

詩四十五篇、散文五篇
白き金の表紙、本文二度刷
定價金壹圓、送費八錢

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

石川啄木遺著

啄木遺稿

新刊

四六判四百頁美本
總洋布著者肖像入
定價金九十錢
郵稅八錢

「あこがれ」以後の詩作四十篇と、若干の小説、評論、隨筆、感想十五篇を收輯して本書を成す、何事かを爲さんとして常に奮鬪しつゝありし著者の辿れる足跡及抱負は本書一卷に名殘りなく現はる。吁彼何事をか爲さんとしたる、然してその筆端の何ぞしかく不平に滿ち、何ぞしかく鋭利なる！ 蓋、本書は彼を知らんとする好個の資料なり。

啄木歌集

三版

四六判三百五十頁
著者自筆歌挿入
定價金八十錢
郵稅八錢

『一握の砂』『悲しき玩具』の二歌集は蓋し歌壇の珍寶也、本集は右二著を合册せるものにして、溢るゝばかりの氣力と多くの不平とを抱き乍ら早くも病沒せる著者の日常生活の苦悶の聲なり。著者のつねに自らの歌を「心の滓なり」「悲しき玩具なり」などと稱しつゝ、而もその眞摯なる姿は強く青年の胸を撲つに、また一奇とせざるべからず。敢て青年の机上に本集を奬めんとす。

發行所　東京市日本橋區檜物町　振替東京五六一四　東雲堂

三版

東京景物詩

北原白秋著
木下杢太郎畫

金と緋と青の表紙
本文二度刷三百四十頁
定價金壹圓　郵費八錢

片戀

あかしやの金と赤とがちるぞえな。
かはたれの秋の光にちるぞえな。
片戀の薄着のねるのわがうれひ。
「曳舟」の水のほとりをゆくころを。
やはらかな君が吐息のちるぞえな。
あかしやの金と赤とがちるぞえな。

—東京夜曲—

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五一六四一番）　東雲堂

與謝野晶子女史序　吉井勇氏序歌

原阿佐緒著　西野義雄裝幀

小形瀟洒美本
著者小影挿入
本文二百數十頁
歌四百首
定價六十錢

歌集 涙痕

新裝發賣

—内容—

戀と死
涙歌
凡愛詩
悲しき嫁さ子
あきらめ

この涙つひにわが身を沈むべき
海となるらむを思ひぬはじめ

發行所　東京市日本橋區檜物町　(振替東京五六一四)　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■■■ 創刊雜誌 ■■■

▲藝術と實生活とを渾一せしめんとする努力▼

生活と藝術

九月一日發行
第一卷第一號
定價一冊十八錢
郵稅五厘
六ケ月分九十錢
一ケ年分一圓八十錢

われらの藝術……哀果
劇壇の現在と將來（評論）……仲木貞一
孤獨の自我と評論……長谷川天溪
英國で見たモンナヴンナ（評論）……市川又彥
逃避者（小說）……荒畑寒村
朝鮮（詩）……土岐哀果
漁村小情（詩）……西村陽吉
七月廿三日（詩）……齋藤茂吉
いやしき戀（詩）……安成二郎
客（詩）……大熊信行
我昔所造……杉村楚人冠

生活と藝術と建築……黑田鵬心
スクリヤビンの藝術……仲田勝之助
病室より……故石川啄木
小劍が百三十五になつた時……堺利彥
諸六さん……上司小劍

歌

高山辰三……春町憲
和田信義……飯山津浪男
伊東壽一……雨角七美雄
高桑義生……高橋德太郎

若き商人の日記……陽吉
都市居住者の手帳……哀果生
消息

發行所 東京市日本橋區檜物町九番地 振替東京五六一四・電話本一八一七一 東雲堂

九月一日發行

アララギ

定價金廿錢

短歌號

短歌八十首　齋藤茂吉
短歌四十首　島木赤彦
短歌三十首　中村憲吉
短歌四十首　土田耕平
短歌四十首　古泉千樫

○馬鈴薯の花（合評）　野の木屋
○馬鈴薯の花を讀む　畔桐軒
歌聲り（短歌）　平瀬泰雨
晩歌　山宮允
山峡の山（短歌）　並樹秋人
○その二詩（短歌）　篠田悌治
別府まで（短歌）　沖嶋正光
ながたの実（短歌）　松島梧風
花野（短歌）　ふ、子
○最近の歌壇　千樫
○信濃より　赤彦

短歌

清水謙一郎　米貴子　守屋其翠
武居保雄　眞瀬子　島炷
金原ましを　岡野幸男　横山重

■會員募集■

定價半年分一圓十錢　一年分二圓二十錢

東京本所區南二葉町廿三　古泉千樫方

アララギ發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

劇と詩改題

新・面目

文藝雜誌

創造

内容充實

九月號要目

・モンナワンナの思想面（評論）島村抱月
・ワンナ等が三つの戀愛（評論）清浦青鳥
・「モンナワンナ」の劇的價値（雜評）仲木貞一
・内部とモンナワンナ（雜評）中村吉藏
・モンナ、ワンナ觀劇の追憶（感想）長谷川天溪
・孤獨のモンナ、ワンナ劇（雜評）島村民藏
・モンナ、ワンナの作者まで（雜評）丘草太郎

改題紀念 モンナ、ワンナ號
詩歌 十數篇
[illegible]戲文 極美
寫眞版 數葉

・毒藥の壺（感想）相馬御風
・平和祭（戲曲）秦豐吉
・神（小説アルツビバセフ）本間久雄
・永遠の道へ（小説）米川正夫
・二十一本の鉢（小説）山川亮
・ボヘミアン（小説）山崎俊夫
・改題の辭その他（感想）清浦青鳥

發賣所 東京市神田雉子町三一 東京堂書店 定價[illegible] 郵税[illegible]

昭和44年9月15日発行　【第5回配本】

青鞜第3巻　9月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
B45
v.3
no.9

University of Colorado at Boulder
[redacted] 6746335

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雑誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢（郵税壹錢五厘）
■前金購讀料（四ヶ月分）壹圓（六ヶ月分）壹圓五拾錢（八ヶ月分）貳圓（十ヶ月分）貳圓五拾錢（一ヶ年分）參圓
■廣告料（一頁）特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、（半頁）七圓
■振替貯金口座は（東京二一一一六青鞜社）に拂込まれたし。
■郵劵代用は一錢切手に限る（但し一割増のこと）。
■編輯事務、雑誌購讀、圖書雑誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■販賣に關する一切の事務は尚文堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年八月二十八日印刷納本
大正二年九月一日發行

禁轉載

東京府下巣鴨町宇巣鴨一一六三
青鞜社内
編輯兼發行人　中野初

東京市京橋區新榮町一丁目廿一番地
印刷人　佐藤保太郎

東京市京橋區新榮町一丁目廿一番地
印刷所　文祥堂

編輯所　東京府下巣鴨町宇巣鴨一一六三　青鞜社
振替東京二一一一六番

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地　尚文堂書店
電話本局四二五四番
振替東京一九四四番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER